

要旨

本研究は、作業を対価とする旅行者滞在システム（以下、作業対価型滞在システム）を活用し、「観光」と「労働」が融合したボランティアツーリズムを享受する訪日外国人と、彼らを受け入れるホストや地域に着目し、こうした訪日外国人が訪問地域の課題解決にある役割を果たせるかを論じるものである。

近年、日本では観光を用いた地域活性化が盛んに試みられている。特に地方地域において、農業体験やボランティアツーリズムなどのように地域コミュニティと密に接する観光は、多様な外部アクターを受入れる窓口となっており、地域課題解決の糸口としての価値が見出されている（中村、松本、敷田：2008）。

しかし多くの実践において、外部アクターは国内都市部の住民に留まり、近年増加している訪日外国人をも射程に入れた具体的な施策や研究は少なく、地方部の観光を望む訪日外国人と訪日外国人に地域の課題解決の担い手としての役割を期待する地方住民の両者のニーズをすり合わせた新たな観光やこれを支えるシステムが期待されている。こうした背景から、本研究では、ボランティアツーリズムの一つである作業対価型滞在システムに着目する。しかし、従来の研究では、こうしたシステムの利用者であるゲスト（旅行者）やホストの属性やその両者の関係性を論じたものはあるが、地域との関わりや課題解決に関する影響について言及したものはない。

そこで本研究では、訪日外国人利用がゲストの 7 割を占め、日本国内ホストの登録数が最も多い作業対価型滞在システムである WWOOF を対象に、以下の 3 点を明らかにすることを目的とする。以下を通して、作業対価型滞在システムを活用して地域課題解決を進める可能性や要点について提言する。

1) 全国の WWOOF ホスト自身の「本業」と「地域に資する活動（＝地域活動）

および、WWOOF 利用者（ゲストとホスト）と訪問地域との関わりの有無やその概要について把握する。

2) WWOOF を活用するゲスト（以下、WWOOFer）の地域への関わり方を明らかにする。

3) 地域と WWOOFer の関わりが多様な先進事例にみる活動内容や展開とその要因を明らかにする。

本論文は、以下 5 章で構成される。第 1 章では、研究の背景と目的、既往研究の整理と論文の構成、調査方法を記した。

第 2 章では、日本における WWOOF 利用者による地域活動の全体像を把握することを目的とした。第一に、WWOOF 受入れを表明している 171 のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行った。結果、ホストは単に外部者との交流享受や、「本業」である自己ビジネスの助けを得るためではなく、地域への国際交流機会の提供といった地域活動にまで幅を広げるホストが確認された。第二に、過去に WWOOF を利用した訪日外国人と、同 171 のホストを対象に Web アンケートを行った。前者の訪日 WWOOFer は、訪問先での体験や地域との関わりの内容について尋ねた。訪日外国人（有効回答数 41 件）は、約 90%が地域住民との交流を期待しており、交流を持った WWOOFer の約 90%が交流内容に満足していた。また地域住民との交流には、ホストの介在が大きな役割を果たしていることがわかった。

後者のホストへのアンケート（有効回答数 53 件）に関しては、約 95%が地域活動への関心を持ち、WWOOFer をホストが参加／開催する地域活動にまで応用している層が約 70%いることが確認された。さらに WWOOFer の持つバックグラウンドやスキルを強みに、積極的に自己ビジネスおよび地域活動に応用しているホストの存在も約 10%存在していた。以上のことから、WWOOF 活用に関して、①自己ビジネスマンパワー型、②自己ビジネススキル活用品型、③地域活動マンパワー型、④地域活動スキル型の 4 種類あることがわかった。

そこで 3 章では、WWOOFer と地域住民との交流がより多様にあると考えられる、地域活動に WWOOF を活用している類型③、④に着目し、WWOOFer の活動詳細と、WWOOFer が地域に関わる形を明らかにすることを目的とした。③、④類型のホストがおり、同時期に複数 WWOOFer の受入れをしている岐阜県下呂市馬瀬地域の 2 つのホストの元で、筆者自ら WWOOFer として参与観察（各約 2 週間）とヒアリング調査を行った。参加型の家づくりや庭づくりのプロジェクトを実施し、不定期にワークショップやアートイベントを開催す

るホスト A さんの元では、WOOOFer は同窓会や地域祭りなど地域のイベントがある際に同行し地域住民と交流をもっていた。また A さんがイベントを開催する際には、WOOOFer は同イベント参加者もしくはイベントスタッフとして、参加する地域住民やイベント運営を補助する地域住民と交流をもっていた。

WOOOFer の持つバックグラウンドやスキルを積極的にビジネスと地域活動に活用する B 夫妻の元では、WOOOFer は、A さんの事例同様に、地域イベントへの連れ出し、イベント運営を通して、地域住民との交流をもっていた。加えて、ホスト B 夫妻が地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ WOOOFer を地域住民に派遣していた。その結果、支援作業を受けた地域住民は、WOOOFer を顔の見える個人として認識し、中には新たな国際交流事業を共同して企画する地域住民も確認された。

更に地域住民は支援作業への返礼として、ホストや WOOOFer に対して、野菜や米などの食料及び宿泊地の提供をしており、地域がホストの WOOOF 受入をゆるやかに支援する基盤が構築されていた。また WOOOFer がホストとの信頼関係を築き、ホストを通じて友人を持つことで同地域にリピートする事実も確認された。更に WOOOFer が常に滞在していることで、地域内に外国人と交流できるグローバルな空間が生み出され、一部の地域内外住民がホストの場集っていることが分かった。

第 4 章では、WOOOFer の地域への多様な入り方を実践している先進事例として、B 夫妻が発信する Web 上の情報から、現状にいたる訪日外国人の活用展開経緯を明らかにし、各展開時にホストおよび地域や訪日外国人に求められる要素について考察した。活用の展開経緯として、1)「交流享受段階」、2)「交流共有段階」、3)「自己ビジネス活用段階」、4)「地域需要マッチング段階」、5)「地域新規事業開拓段階」の 5 つ展開を経ていた。

ホストは訪日外国人と信頼関係を築き、興味関心やスキルを把握することと同時に、段階が上がるにつれ地域住民の課題や把握し、両者のマッチングを図ることが求められていた。

マッチングの恩恵を受ける地域では、ホストに過度な負担を強いることを避け、地域住民自らも無理のない範囲でサポートをするために、物々交換の習慣が地域に浸透し、活発に行われていることが重要であると考えられる。また訪

日外国人には、作業を通して地域活動に積極的に関わっていく柔軟性や意思が求められていると推測した。

第5章では、総括として、訪日外国人と地域との関わりの面から、作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が訪問地域の課題解決に役割を果たせるかを論じ、以下の3つの要点を示した。

それは、①地域活動における作業対価型滞在システムでは、ホストが訪日外国人と地域住民の間に介在し、両者のニーズやスキル・特性を把握し、適したところへ橋渡しをすることが重要となること、②金銭を介さないため地域住民は、橋渡しや作業に対する返礼や訪日外国人の受入サポートを容易に行うことができること、③作業対価型滞在システムそのものは、地域に直接の経済交流を生み出すことはないが、ホストの橋渡し、訪日外国人の作業、地域住民のサポートのサイクルが大きく稼働することで、インバウンド関連事業の萌芽見られ、新たに経済交流また文化交流が創造される可能性があること、である。

目次

要旨	1
第 1 章 はじめに	7
1-1 研究背景	7
1-1-1 外部人材と協働した地域づくりの必要性	7
1-1-2 ボランティアツーリズムの台頭	7
1-1-3 訪日外国人数の急増	8
1-2 研究の目的	10
1-3 研究の対象	11
1-3-1 WWOOF の概要	11
1-3-2 WWOOF Japan の概要	13
1-4 既往研究の整理と本研究の位置づけ	19
1-4-1 過疎地域における外部人材に関する研究	19
1-4-2 ボランティアツーリズムに関する研究	20
1-4-3 WWOOF に関する研究	21
1-5 研究の構成及び方法	23
1-6 用語の定義	25
第 2 章 全国の WWOOF 活用と地域との関わりの現況	27
2-1 2 章の目的と研究手法	27
2-2 全国のホストの本業と地域活動および WWOOF 活用の傾向	28
2-2-1 ホストの本業と本業における WWOOF 活用の傾向	28
2-2-2 ホストの地域活動と地域活動における WWOOF 活用の傾向	30
2-3 全国の WWOOF 利用者の地域との関わりの実態	32
2-3-1 WWOOFer と地域との関わりの実態	32
2-3-2 ホストと地域との関わりの実態	44
2-4 2 章のまとめ	53
第 3 章 WWOOFer の地域に関わる形とホストの取り組みの実態	55
3-1 3 章の目的と研究手法	55
3-2 調査概要	56
3-2-1 調査対象地の概要	56

3-2-2	調査対象者の概要	60
3-3	地域活動マンパワー型 WWOOF 活用ホストの事例調査	63
3-3-1	ホスト A さんの元での WWOOF 活用の概要	63
3-3-2	ホスト A さんの元での WWOOFer の活動と地域との関わり	67
3-4	地域活動スキル型 WWOOF 活用ホストの事例調査	78
3-4-1	ホスト B 夫妻の元での WWOOF 活用の概要	78
3-4-2	ホスト B 夫妻の元での WWOOFer の活動と地域との関わり	81
3-5	WWOOFer と地域の間わりを生み出すホストの取り組み	89
3-5-1	地域における WWOOFer の派遣の詳細	89
3-5-2	地域における WWOOFer 派遣の影響	95
3-6	3章のまとめ	99
第4章	訪日外国人活用に地域を組み込むホストの活動展開	101
4-1	はじめに	101
4-2	馬瀬川プロデュースの概要	102
4-3	ホスト B 夫妻の訪日外国人受入手段と活動内容	103
4-3-1	ホスト B 夫妻にみる訪日外国人活用展開の各特徴	105
4-3-2	各展開時にみるホスト、地域住民、訪日外国人に求められる要素の考察	107
4-4	4章のまとめ	110
第5章	結論	113
5-1	作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が地方地域活動に果たす役割と可能性	113
5-2	各章のまとめ	116
5-3	今後の研究課題	118
謝辞	119
図表リスト	121
参考文献・資料	125
付録（巻末資料）		
付録（梗概）		
付録（発表資料）		

第1章 はじめに

1-1 研究背景

1-1-1 外部人材と協働した地域づくりの必要性

昨今、過疎や少子高齢化に悩む地域において、人的資源の減少は喫緊の問題であり、外部人材を活用した地域づくりが着目されている。そこには、外部人材のもたらす効果への期待が理由として挙げられる。

1960年代以降、過疎化や少子化にあえぐ地域では、大規模公共事業やリゾート開発といった国主導の、規模拡大と集約化の理念に基づいた外部主導の「外発的発展」が行われてきた（野田 2015）。しかし1970年代半ばより、自治体の財政状況の悪化により「外発的発展」がほころび始める。そこで既存のアプローチではない、アンチテーゼとして、地域住民が参加し、地域が主導する「内発的発展」の重要性が論じられるようになった（敷田 2009）。

現在では、内部の地域住民の主体的な関わりに加え、「内発的発展」の限界を示唆し、住民以外の外部者、いわゆる「よそ者」と協働した地域づくりの可能性が論じられている。彼らの持つ外部の視点や知識および技術により、地域は資源の再発見の機会を持つことができ、新たな変容の促進が期待されている¹（*ibid.*）。またこのような地域づくりにおけるよそ者への期待は、総務省による「地域おこし協力隊」といった国家政策にも反映されている。その一方で、「よそ者」への盲目的に過信し地域が一方的に依存してしまうこともあり、地域の裁量で効果的に活用していくことは容易ではなく、多くの地域では現在も試行錯誤の段階にある（*ibid.*、野田 2015）。

1-1-2 ボランティアツーリズムの台頭

近年、日本では観光を用いた地域活性化が盛んに試みられている。しかしその主流は産業論的パラダイムにあり、観光の経済的交流に偏向し、利潤の最大

¹ 後藤は、内部と外部との協働した地域づくりとして、「共発的まちづくり」を述べている。「内発的発展」とは画して、「他都市や他地域との協働連携のもとで地域の自律を探るもの」と説明している。

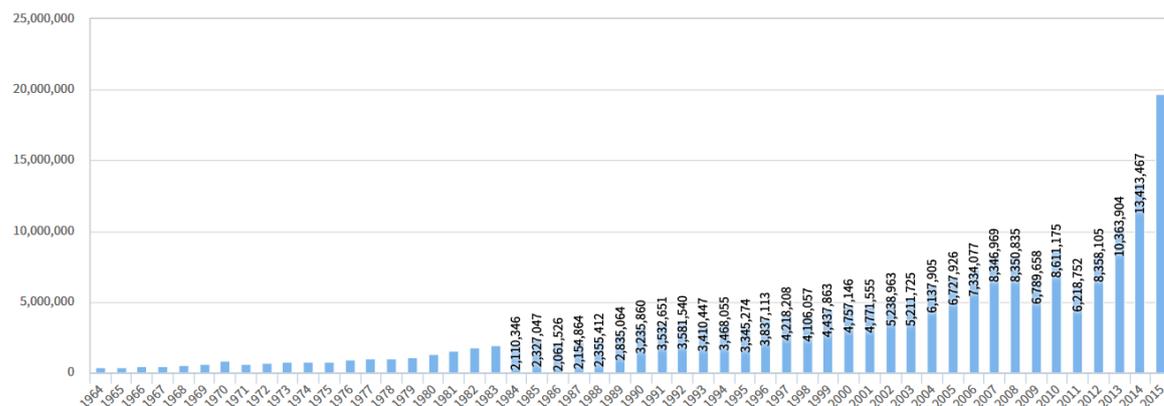
化や拡大生産といった「事業の論理」に絡めとられやすい（須永 2009）。その一方で、地方部の観光開発において、観光の経済的交流だけではなく、文化的交流に可能性を見出す議論がなされている。須永は、観光による経済的交流を第一義とせず、観光による人格的交流から生まれる「誇り」や「楽しみ」といった「情緒的な価値」に価値を見出す地域住民の観光実践を指摘している。また敷田（2005）は、宿をよそ者と地域住民の「交錯の場」となることを示唆し、よそ者のもたらす技術や技能などの知識、創造性の励起や地域の持つ知識の表出支援、地域の変容の促進をもたらさしめる存在として観光の文化的交流の重要性を論じている。

とりわけ、少子高齢化や過疎化に悩む地域においては、「労働」と観光が融合したボランティアツーリズムが注目されている。中村ら（2008）は、ボランティアツーリズムを、「自由時間における、さまざまな動機に基づいた、生活圏外においての、社会の諸問題の解決や援助などに貢献する自己実現性ある労働を目的とする観光」と定義した上で、地域に「労働」を提供しながら滞在するボランティアツーリズムは、地域課題解決の糸口となり得ると指摘する。

1-1-3 訪日外国人数の急増

近年、訪日外国人の数は年々増加の一途をたどっており、図1の通り、2016年の累計は2,403万9千人となり、4年連続で過去最高記録を更新している。

図1-1 1964年以降の年別訪日外国人数の推移（JTB総合研究所作成）



出所：日本政府観光局（JNTO）発表統計よりJTB総合研究所作成

従来、訪日外国人の訪問地は 2 大都市圏に集中していたものの、昨今では、地方を訪問する訪日外国人数は 5 割を超えている（小堀 2016）。しかし数が増える一方で、訪問地には偏りが見られ、主にゴールデンルート上に位置する山梨、静岡、愛知や、スキー場が多くある北海道や長野に、多くの訪日外国人が集中している。またリピーターの訪日外国人は、2 回目以降は地方部を訪れる期待が高くなっており、訪日外国人のニーズに応えた、地方分散化が求められている（ibid.）。

他方で、上述した過疎地域における外部人材や、ボランティアツーリズムにおける外部アクターは、主に日本国内都市部の住民を想定しているものが多い。森重、依田は、ボランティアツーリズムを論じるにあたって、「労働」と「余暇」が事例として、ももんがクラブやこへび隊を挙げるものの、両活動とも外国語でのボランティア登録フォームを提供していない（森重、依田 2010）。こへび隊の類似事例であるこえび隊に関しては、英語による登録プラットフォームを用意しているが、こえび隊における海外ボランティアの割合は 1 割である（瀬戸内国際芸術祭実行委員会 2017）。すなわち、近年増加しているこれら訪日外国人をも射程に入れた、ボランティアツーリズムの実践は少ないのが現状である。地方部の観光を望む訪日外国人と、訪日外国人に地域の課題解決の担い手としての役割を期待する地方住民の両者のニーズをすり合わせた新たな観光やこれを支えるシステムが期待されている。

1-2 研究の目的

先述した背景から、本研究では、ボランティアツーリズムの一つである作業対価型滞在システムに着目する。そこで、訪日外国人利用がゲストの7割を占め、日本国内ホストの登録数が最も多い作業対価型滞在システムであるWWOOF (Willing Wide Opportunities on Organic Farms) を対象に、以下の3点を明らかにすることを目的とする。以下を通して、作業対価型滞在システムを活用して地域課題解決を進める可能性や要点について提言する。

- 1) 全国の WWOOF ホスト自身の「本業」と「地域に資する活動(=地域活動)」および、WWOOF 利用者(ゲストとホスト)と訪問地域との関わりの有無やその概要について把握する。
- 2) 目的1より WWOOF 利用者と訪問地域との関わりがある地域における、WWOOF を活用するゲスト(以下、WWOOFer)の地域への関わり方の詳細を明らかにする。
- 3) 目的2で、地域と WWOOFer との間で多様な関わりが見られた先進事例における活動内容や展開とその要因を考察する。

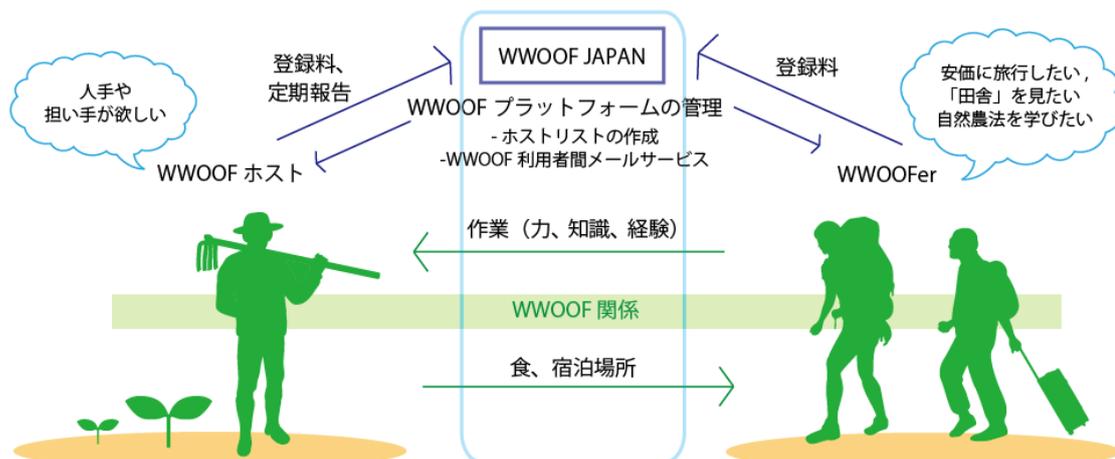
1-3 研究の対象

1-3-1 WWOOFの概要

WWOOFとは、オーガニック農家による登録制の世界的ネットワークであり、WWOOFホストと、ホストを訪れるWWOOFerとの間で行われる、金銭を介さない交流により成り立つものである(Cronauer 2009)。有機農業を学びたい、いわば、旅行先の日常的な生活を享受したいと考えるボランティア(WWOOFer)と、人手を求めるオーガニック農家(WWOOFホスト)を繋げる(Kotulek, 2011)国際的マッチングサービスである。

WWOOFerは、オーガニック農家で半日程度の作業を提供し、オーガニック農家はWWOOFerに対して、「食事」と「宿泊場所」を提供する(Adrian Deville, Stephen Wearing & Matthew McDonald 2016)。すなわち、WWOOFerは、ホストの作業を手伝うことで、ホストより食と宿泊場所を得るシステムであり、いわば「作業」を対価に「食・宿泊場所」を手にして、訪問地に滞在するシステム、「作業対価型滞在システム」と考えられる。

図 1-2 作業対価型システムとしての WWOOF の構造 (筆者作成)



人手や交流を求めるホストは、各国にある WWOOF 事務局に登録料を支払うことで、ホストリストに自身のプロフィールを掲載することができる。反対に、WWOOFer は各国にある WWOOF 事務局に登録料を払い、WWOOF 事務局より、インターネット上にあるホストリストを閲覧する権利を得る。そして、WWOOFer はリストの中から自らの興味関心に従い、ホストを選別し、WWOOF 事務局が提供するメッセージ機能を用いて連絡を取り合う²。両者のやり取りには、基本的に WWOOF 事務局等第三者による介入はない。ホストと WWOOFer は直接、自らの興味関心や滞在日程、滞在時の活動内容や注意事項を伝えあい、滞在の調整をしていく。

WWOOF は、1971 年イギリスで、農作業体験を希望していたスー・コパードがオーガニック農家に作業対価型滞在システムを提案したことがはじまりであり、都市住民が地方部で有機農業を支援しながら過ごすことを目的に設立された (Maycock 2008, Cronauer 2009)。

WWOOF の省略名称は、今に至るまで変わらないものの、各文字が表す意味はその歴史と共に変遷している。スーの週末の活動として始まり、より多くのオーガニック農家の人手を求める需要へとつながった初期段階における、WWOOF の意味合いは、「Working Weekends on Organic Farms」であった。その後、ホストや WWOOFer から、長期間滞在の需要や希望が募った結果、「Willing Workers On Organic Farms」と意味合いを変化させ、多くのボランティア滞在を促進させていった (ibid.; Terry 2014)。その後、2000 年に入り、名称に含まれる「Work」の言葉が、いくつかの国において海外就労の問題として扱われ、現在の「World Wide Opportunities on Organic Farms」名称となっている。

この最新の変更は、いわば WWOOF の国際化の急激な拡がりを表しており (ibid.)、現在では約 60 以上もの国で WWOOF の事務局が構え、120 か国に WWOOF ホストが存在する (WWOOF FoWO HP より)。WWOOF 事務局は各国ごとに独立しており、これらを統一する国際的な WWOOF 本局というもの

² 反対に、ホストも WWOOFer のプロフィールを見ることができ、興味のある WWOOFer へアプローチすることも可能である。

は存在しない (Burns 2014)。多くの事務局はオーガニックフードと強い関連を持っているが、各国の事情によって適宜独自の規定や方向性を設けている。

1-3-2 WWOOF Japan の概要

日本における WWOOF の歴史は、オーストラリアで WWOOF 体験を経た、Burns・星野夫妻により、1994年に札幌にて事務局が設立されたことにはじまる (星野 2016)。

日本では、ホストは事務局に 8,500 円を、WWOOFer は 5,500 円を年間登録料として支払う³ (Burns 2014)。

(1) ホストの概要

日本における WWOOF ホスト登録数は、2016年5月時点で 447 である (星野 2016)。図 1-3 で示すように、登録ホスト数は、2002 年より常に増加の一途をたどっている (Burns 2014)。

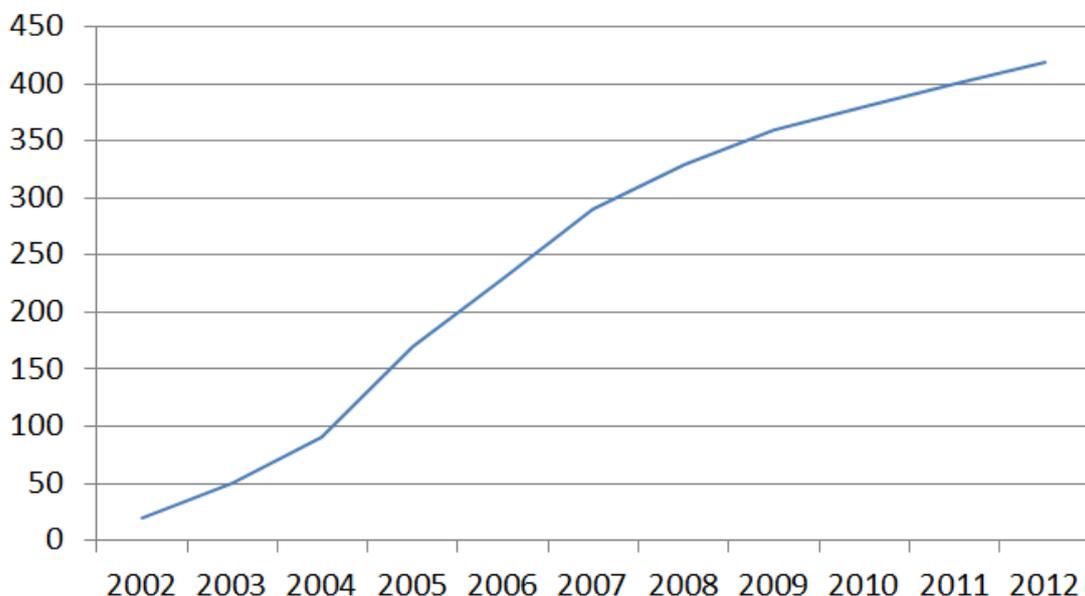


図 1-3 WWOOF Japan への登録ホスト数の変遷 (Burns 2014 より筆者作成)

³ 登録を継続的に行うことで、登録年数に合わせた割引を受けることができる。

日本における WWOOF ホストの多くは農業従事者であり、半農タイプを含めると、ホスト全体の 4 分の 3 を占める。しかし WWOOF Japan では、ホストを 100% のオーガニック農家に限らず、一部オーガニック農業を採用している農家（図 1-4 参照）、また持続可能な生活の実践者や理解者など「オーガニックな生き方⁴」を実践している人々のホスト登録も認めている。農家以外の職種に関しては、自然体験学校、陶芸工房、建築工房、民宿などがあげられる（星野 2016）。

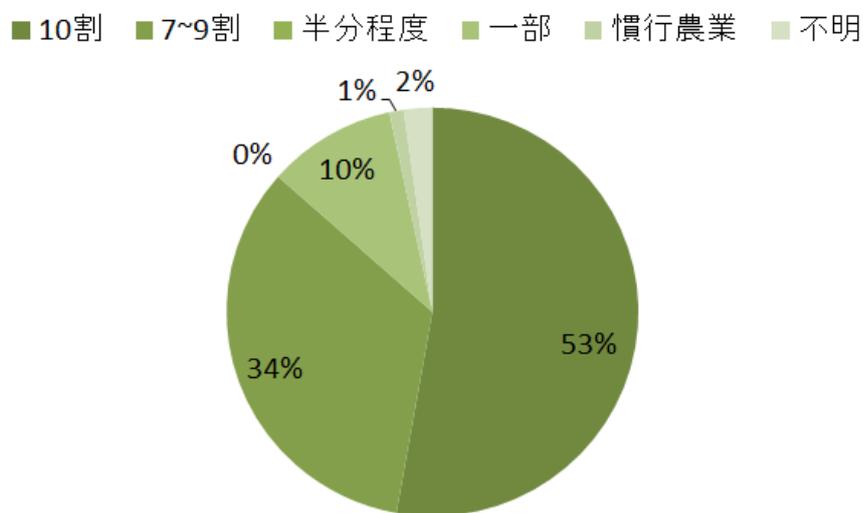


図 1-4 WWOOF ホストにおけるオーガニック農法の割合
（星野 2016 より筆者作成）

（2）WWOOFer の概要

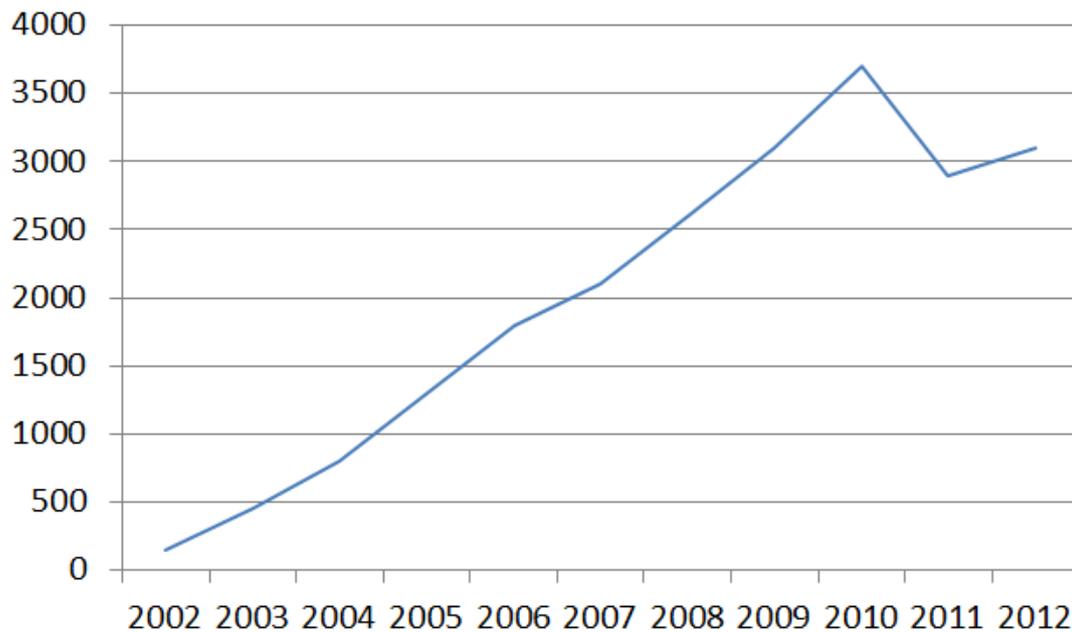
日本における WWOOFer 新規登録者数は、2015 年度で 4200 人であり（星野 2016）、実質活動 WWOOFer 数は 2016 年で 450 人である（Burns 2016）。図 1-5 で示すように、新規登録 WWOOFer 数⁵は、2011 年の東日本大震災の影響により減少しているものの、その後上昇し続けている（Burns 2014）。

⁴ 星野（2016）は、「子孫が安心、安全に暮らせることを念頭にした生活」と述べている。
⁵ Burns（2014）では、「Table 2. The number of WWOOFer and Host」として、2002 年～2012 年の数値の変遷を紹介している。「実質活動 WWOOFer 数」（Burns 2016）と、「ウーファー新規登録者数の変遷」の図 4（星野 2016）より、「Table 2. The number of WWOOFer and Host」を WWOOFer とホストの「新規」登録者数として解釈する。

WWOOFer の登録者の国籍の割合は、前節で少し触れたように、外国籍が多く、2014 年度の新規 WWOOFer 登録者の 77%は外国籍もしくは重複となっている（星野 2016）。

また、WWOOFer の男女比は 4：6 であり、若干女性の方が多い（ibid.）。加えて、2014 年度の WWOOFer 新規登録者の年齢層に着目してみると、図 1-7 にあるように、幅広い年齢層に分布しているものの、20 代が突出して多く 64%を占め、10 代の 9%を含めると、10~20 代の若者の割合は、7 割を超える結果となる（ibid.）。

図 1-5 WWOOF Japan への WWOOFer 数の変遷
(Burns 2014 より筆者作成)



また海外出身の WWOOFer（以下、訪日 WWOOFer）の目的としては、従来の WWOOF の目的であるオーガニック農法の学習よりも、日本文化・日本語・日本への興味が大きいことが、日本における訪日 WWOOFer の特徴である（星野 2016）。

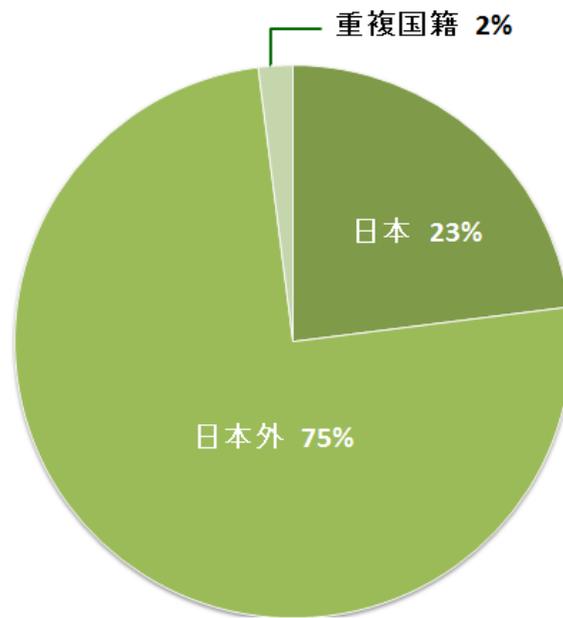


図 1-6 新規登録 WWOOFer の国籍 (2014 年度) (星野 2016 より筆者作成)

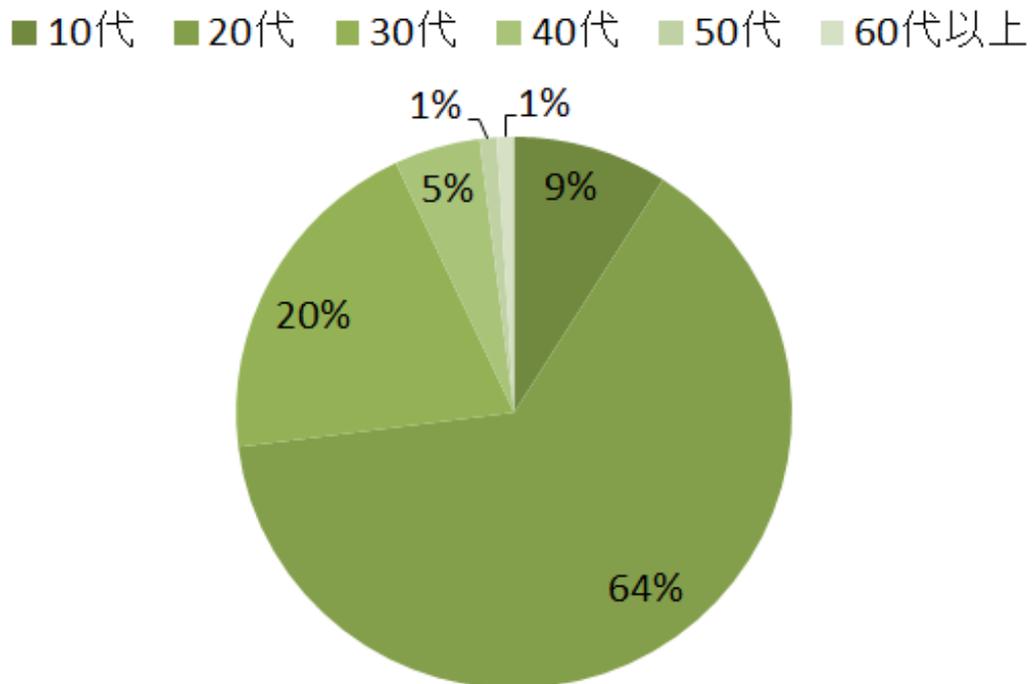


図 1-7 新規登録ウーファターの年代 (2014 年度) (星野 2016 より筆者作成)

(3) WWOOF 滞在の概要

Burns (2015) は、日本での WWOOF 滞に関するいくつかの事項について論じている。

はじめに、WWOOFer 滞在中に行われる WWOOFer 活動である。WWOOFer 活動は、大きく 3 つの累計に分類されると論じている (図 1-8)。すなわち、農業関連活動、家事関連活動、ライフスタイル関連活動である。農業関連活動に関しては、稲刈り、種まき、家畜の世話などがあげられる。家事関連活動に関しては、子供の世話、家庭での料理、皿洗いなどがあげられる。そして最後のライフスタイル関連活動は、地元地図作成の情報集めや、ゲストハウスの運営など、活動は多岐にわたる。

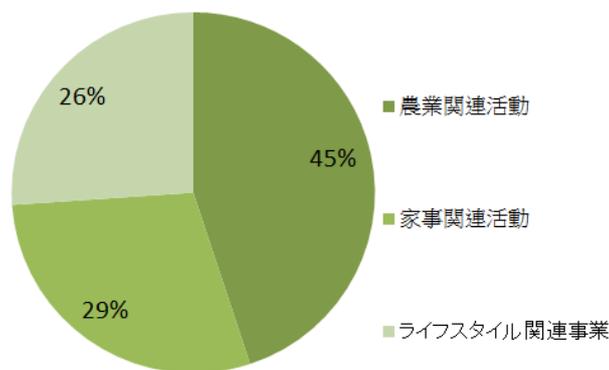


図 1-8 WWOOFer の滞在活動の傾向 (Burns 2015 より筆者作成)

次に、ホストが 1 年間に受け入れる WWOOFer の数である。図 1-9 の通り、約半数のホストが、年間 5~20 人の WWOOFer を受け入れている (ibid.)。

次に、WWOOFer の滞在期間である。1 週間程度の滞在と、1 カ月近くの滞在と、2 カ月以上の滞在の 3 分類が、ほぼ同様の割合を占めている (図 1-10)。

最後に、WWOOFer に求められ日本語スキルである。多くのホストは、WWOOFer が日本語を話すことを必須として考えていないことを明らかにした。同時に日本語の話せない WWOOFer も受け入れる意思があることを示している (図 1-11)。

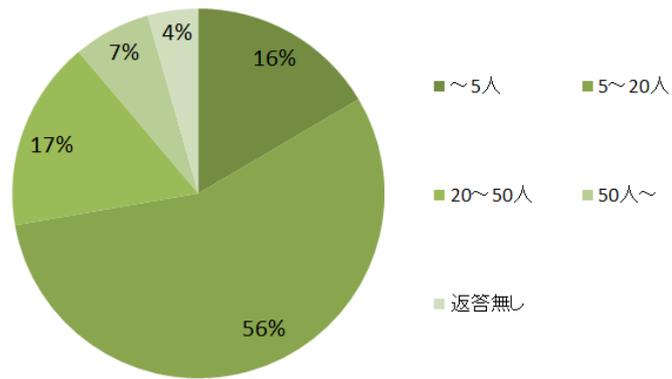


図 1-9 ホストの年間受入 WWOOFer 数 (Burns 2015 より筆者作成)

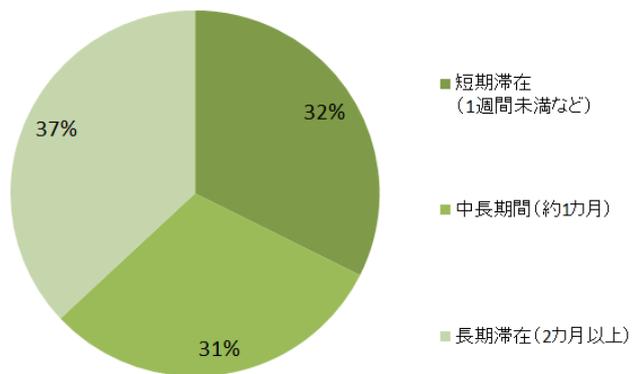


図 1-10 WWOOFer の滞在期間 (Burns 2015 より筆者作成)

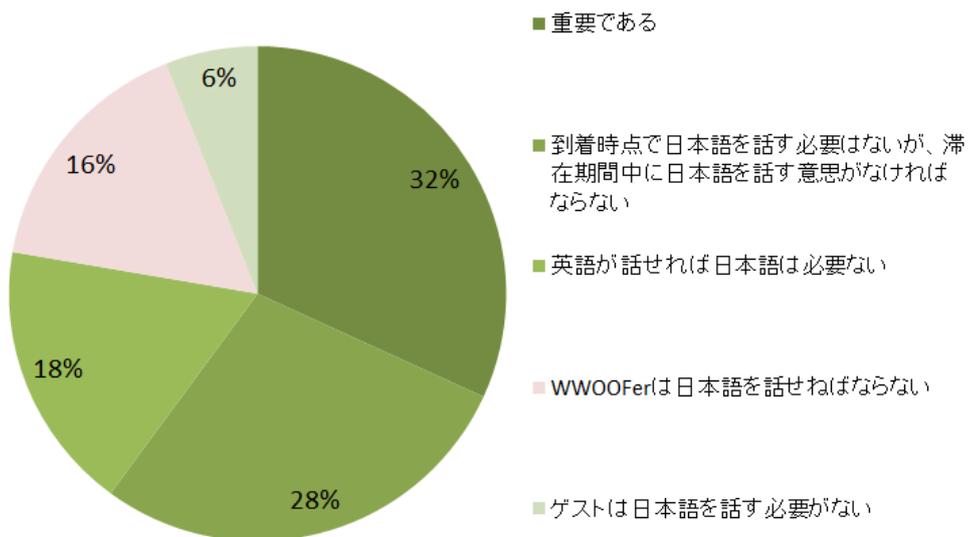


図 1-11 WWOOFer に求められる日本語能力 (Burns 2015 より筆者作成)

1-4 既往研究の整理と本研究の位置づけ

1-4-1 過疎地域における外部人材に関する研究

過疎問題にあえぐ地方部において、1970年代半ばより、「内発的発展」の重要性が再三説かれてきた。宮本（2006）は、内発的発展を「地域の企業や個人が主体となって地域の資源や人材を利用して、地域内で付加価値を生み出し、種々の産業の連環をつけて、社会的剰余（利潤と租税）をできるだけ地元に戻し、地域の福祉・教育・文化を発展させる方法」と定義している。この「内発的発展」の中で重要視されるものが産業や文化である。チャールズ・ランドリーは、文化芸術の創造性に斬新なアイディアの源泉である「創造の場」として価値を見出し、新しい価値を発見する能力であるセレンディピティが生まれる場として、「創造都市」と名付けている（ランドリー 2000）。佐々木（2014）はこれらの考えを、都市だけでなく農村に応用し、「創造農村」を、「住民の自治と総意に基づいて、豊かな自然生態系を保全する中で固有の文化を育み、新たな芸術・科学・技術を導入し、職人的なものづくりと農林業の結合による自立的循環的な地域経済を備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ農村である」と、定義している。

萩原（2014）はさらに両者の議論を発展させ、創造都市および創造農村の持続性には、何よりも人的資源の確保が重要であると述べている。このような地方部における地域づくりのキーパーソンとなり得る人材には、Iターン者・Uターン者といった定住者を前提にされた議論が数多く行われており、彼らを定住に導くためのテクニックについて論じられることが多い（川井田 2014；野田 2014）実際にこれらの論調を踏まえ、総務省（2012）は、創造的人材の定住・交流、知的付加価値の創造を重要視し始めた。

しかし、野田（2016）は、地方部における地域づくりの主目的に「定住人口の獲得」を据えることに警報を鳴らしている。縮減社会において、多くの地方部が定住人口増加を目標に掲げることは、「次第に縮小する人的資源のパイを奪い合う構図を生み、複数地域が互いに疲弊する」結果を導きうると主張している。その上で野田は、複数地域間の人的シェアを見据え、外部人材が地域の自

治にまでも深く関わり、さらに彼らの転出を許容する外部人材の活用の重要性を論じている。その一方で、野田の対象としている外部人材事例は、「地域づくりインターン」や「緑のふるさと協力隊」など、参加者の多くが日本人に限られている。

そこで本研究は、日本人を想定した外部人材や「よそ者」と比較し、より強い他者性を持ちうる海外にツールをもつ人々を外部人材の持つ可能性に着目する。訪日外国人の地域との関わりの方と影響に焦点を当て、現状を明らかにしておくことに新規性があると考えられる。

1-4-2 ボランティアツーリズムに関する研究

Wearing (2001) は、ボランティアツーリズムを、「様々な理由により、休暇中に行われる組織化されたボランティアであり、社会の物的貧困を緩和し、援助することや、ある環境の保護や、社会や環境の調査などが行われる」と定義している。1990年代後半より参加者数が急増したとされ(Wearing, Mcgehee 2013)、参加者であるボランティアと受入地域の両者が win-win の関係を結ぶことができる新たなオルタナティブツーリズムの一つとして可能性が見出されている。

ボランティアツーリズムの主な研究テーマとして、依田 (2011) は大きく 5 つの傾向を挙げている。参加動機、ボランティアツーリズムの体験、ボランティアツーリズム参加後の影響、需要調査、ボランティアツーリストの社会的意義である。これらの傾向から 4 つの特徴を整理し、ボランティアツーリズムの持つツーリストとホストコミュニティの直接的相互作用を背景とした、個人や社会を変える可能性に対する研究者の関心の強さを指摘している。

中村ら (2008) は、ボランティアツーリズムの持つホストコミュニティへの影響の大きさに着目し、地域づくりやまちづくりの文脈で可能性を論じている。ボランティアツーリズムを、「労働」と観光が融合したものと解釈しており、「労働」と観光が何らかの関わりを持って融合している類似例と比較し (図 1-12 参照)、ボランティアツーリズムを「自由時間における、さまざまな動機に基づいた生活圏外においての、社会諸問題の解決や援助などに貢献する自己実現性ある労働を目的とする観光」と定義する。その中で、「労働」を地域に提供しな

から滞在する WWOOF をボランティアツーリズムの適例として挙げ、過疎化に直面する地域に要される労働力をもたらし、かつ参加者も満足感を得る win-win の関係性を築き、地域の問題解決に果たしうる可能性を示唆した。

「労働」と観光が融合したツーリズムの類似例	事例
①「体験」を目的とするもの	農泊、グリーンツーリズム、植林ツアー
②報酬を得ることが目的であるもの	ワーキングホリデー、リゾートアルバイト
③労働を提供することで、自己充足感を得るもの	WWOOF
④労働体験による対価が還元されるもの	果物狩りツアー
⑤労働を主たる目的とするもの	NGOの開発援助活動、会社員の出張

ボランティアツーリズム

「労働」を地域に提供しながら滞在
↓
地域の問題解決に可能性をもつツーリズム

図 1-12 「労働」と観光が融合したツーリズムの類似例
(中村、松本、敷田 2008 より筆者作成)

しかし可能性の指摘に留まり、実際にはどのように WWOOFer らが地域に貢献しているのか具体的事例は描かれていない。そこで本研究は、中期の現地観察を通して、WWOOFer の地域における活動を具に明らかにし、地域への問題解決、影響の有無を明らかにしたことに新規性があると考えられる。

1-4-3 WWOOF に関する研究

多くの WWOOF 研究者が、WWOOF と農家民宿を比較して論じている。WWOOF 事務局の大半は WWOOF を観光と明言することを避けているものの、実質的に WWOOFer は限りなく旅行者に近いと分類され、農業観光、教育観光など持続可能な新しい観光スタイルとしてみなしている (Ord 2010)。一方で相違点として、ホストとゲスト間の交流に金銭が介在しない点が挙げられ、加えてホストとゲストの二者間では、一般的な「ホスト-ゲスト」以上に友人、労働上下関係が加わり非常に複合的な関係性を結んでいるとされる (Cronauer 2012) また B. Lipman と Murphy (2012) は WWOOF による訪問地域への影響を交通とスローフードの側面から論じ、WWOOFer は環境に優しい手法を持って訪問し、WWOOF 受入によって訪問地域は食について再考させられると指摘している。加えて、農業における WWOOF の可能性を論じるものも多く、Terry (2014) は、WWOOF は農業の人材不足に対して質の高い人材を提供しうることを論じた。

日本における WWOOF 研究は歴史が浅く、WWOOF Japan 代表の Burns

による、WWOOF利用者の属性および滞在活動の全体傾向を論じたもの(Burns、Kondo 2015、Burns 2015、Burns 2016) や、WWOOFホストと幸福度の関連性について論じた星野の書籍(星野 2016)、およびWWOOFerの活動や参加動機を論じた研究(Reilly 2012; Liliána 2013)に留まる。

そこで本研究は、WWOOFを観光の一つと認識しつつ、日本におけるホストとWWOOFerの二者の関係性に加え、地方地域に住まう地域住民の視点を導入し、三者間の関わりや具体的な交流の実態を明らかにする点で、新奇性があると考えられる。

1-5 研究の構成及び方法

本論文は、5章で構成される。第1章では、研究の背景と目的、既往研究の整理と論文の構成、調査方法を記した。

第2章では、全国の WWOOF 利用者と地域との関わりの全体像を把握することを目的とした。第一に、ホストと WWOOFer の地域活動への関わりの着眼点を得るために、WWOOF 受入れを表明している 171 のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行った。第二に、レビューで得た着眼点を基に、WWOOF を利用した訪日外国人と、同 171 のホストを対象に Web アンケートを行った。結果、ホストの「本業」と地域活動への WWOOF 活用の形態を明らかにした。

第3章では、本論の目的に合致する、地域活動に WWOOF を活用しているホストの元で、WWOOFer の活動詳細と、WWOOFer の地域に関わる形を明らかにした。同時期に複数 WWOOFer 受入れをしている岐阜県下呂市馬瀬地域の2つのホスト A さん、B 夫妻の元で、筆者自ら WWOOFer として参与観察（各約2週間）とヒアリング調査を行った。その結果、WWOOFer と地域の多様な関わりの形を明らかにした。

第4章では、地域との多様な関わりの形がみえた B 夫妻を先進事例として取り扱い、B 夫妻のブログから、現状にいたる訪日外国人の活用展開経緯を明らかにし、各展開時にホストおよび地域や訪日外国人に求められる要素や興味関心を考察した。

第5章では、総括として、先進事例である B 夫妻の調査から分かったことから、作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が訪問地域の課題解決に果たす役割とその要点を示した。

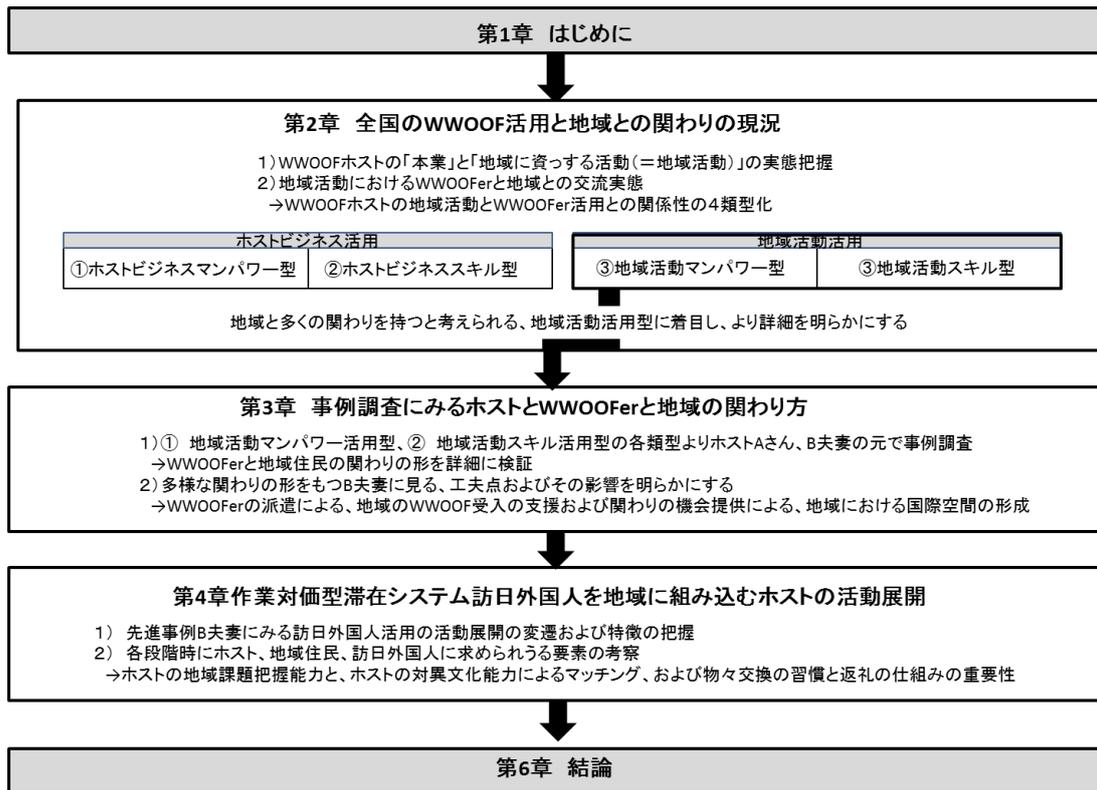


図 1-13 本研究の構成及び方法

1-6 用語の定義

(1) 作業を対価とする旅行者滞在システム（以下、作業対価型滞在システム）

「作業」と「食・寝泊場所」を交換するシステム。旅行者は、滞在先で金銭を支払う代わりに、滞在先で求められる作業を行う。旅行者と滞在先では金銭のやり取りは生まれない。

(2) WWOOF

作業対価型滞在システムの一つ。オーガニック農家を核とするホストと、そこで手伝いたい・学びたいと思っている人を繋ぐボランティアマッチングサービス。

(3) ホスト

WWOOF 登録し、食事と宿泊場所を提供する側。受入先。

(4) WWOOFer

WWOOF 登録をし、WWOOF 体験する人。「作業」を提供する人。

海外から日本に訪れる WWOOFer を「訪日 WWOOFer」とする。

(5) WWOOF 利用者

WWOOF を利用するホストと WWOOFer の両者を指す

(5) ホストリスト

WWOOF 事務局が保管する、ホストのプロフィールが掲載されているリスト。一般に公開している「公開ホストリスト」と WWOOF 登録したもののみが閲覧できる「非公開ホストリスト」がある。

(6) 本業

生計を立てるために行われているビジネス。生業。

(7) 地域に資する活動（以下、地域活動）

本業を行う上で必須ではない地域にひらかれた活動。地域の人や地域のために、時間や知識経験を共有する活動。

第2章 全国の WWOOF 活用と地域との関わり の現況

2-1 2章の目的と研究方法

2章では、まず全国の WWOOF ホストの本業および地域活動を概観するため、WWOOF Japan の 439 のホスト⁶のうち、WWOOF 受入れを表明する 171 人のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行なうことで、本業における WWOOFer の活用状況を把握した。またホストの地域活動の有無を調べ、地域活動の具体的内容を思考する示唆を得ると共に、地域活動への WWOOFer の活用状況を把握・整理し、WWOOFer 活用傾向を推測した（参照：表 2-1、詳細：巻末付録 2-1）。

次に、過去に WWOOF 利用した訪日外国人と、上記の 171 人のホストに対して Web アンケートを実施した。前者の訪日 WWOOFer には、訪問先での体験や地域との関わりの内容について尋ねた。後者のホストへのアンケートに関しては、先述の傾向の具体的実数を得るために、本業と地域活動の有無と地域活動における WWOOFer の活用実態について尋ねた。両者の回答から、WWOOF の本業および地域活動への WWOOF の活用実態を整理・分析した。

表 2-1 ホストの本業および地域活動と WWOOFer 活用の整理（一部抜粋）

ホスト	ホスト事業	ホスト事業への WWOOFer の関わり	地域活動	地域活動の内容	地域活動への WWOOFer の関わり	本業および地域活動への WWOOFer の関わり方
ホスト1	宿泊	○	○	料理教室の開催、ライブの開催、餃子づくり講習会	×	NA
ホスト2	農業	○	○	高校の授業の受入、近隣の農園の手伝い、国際交流の提案	○	メンバー
ホスト3	農業	○	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト4	宿泊、農業	○	○	マルシェへの出店、近所の海外友人の受入、講演会	×	NA
ホスト5	農業	○	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト6	家庭菜園、飲食加工	○	○	マルシェやイベントへの出店、高校の受入	×	NA
ホスト7	農業、飲食業	○	○	マルシェへの出店	×	NA
ホスト8	宿泊業、飲食業	○	○	アートプロジェクトへの参画、清水探し、言語交流の機会提供	○	言語、コック体験、プロダクトデザイン等、メンバー
ホスト9	宿泊業、飲食業	○	○	近隣の農園の手伝い	×	料理コック、メンバー
ホスト10	飼育、飲食製造・販売	○	○	マルシェ、イベントへの出店	○	メンバー
ホスト11	飲食業	○	○	近隣店とのコラボイベント	×	料理コック、メンバー
ホスト12	農業、飲食業	○	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト13	農業、宿泊業、飲食加工	○	○	収穫体験、食品加工体験、WS等イベントの開催	×	料理コック体験、メンバー
ホスト14	農業	○	×	NA	×	NA
ホスト15	農業、飲食販売	○	○	収穫イベントの開催	×	メンバー
ホスト16	農業	○	○	マルシェ等イベントへの出店、イベントの開催	×	メンバー

⁶ 2016年11月6日現在の数である。

2-2 全国のホストの本業と地域活動および WWOOF 活用の傾向

全国の WWOOF ホストの本業および地域活動を概観するため、WWOOF Japan の 439 のホストのうち、WWOOF 受入れを表明する 171 人のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行なった。これらのホームページやブログは、WWOOF Japan の公開ホストリストに掲載されている 439 のホストの各居住地と、「WWOOF」「ウーフ」を検索語句として、インターネット入力し探し当てたものである。

2-2-1 ホストの本業と本業における WWOOF 活用の傾向

本項では WWOOF ホストの本業に着目する。

本業の分類には、公開ホストリストで使用されているホストの事業選択項目を、以下の 17 分類に整理した項目を用いた（表 2-2 参照）。ホームページから推測される事業内容を、分類項目に当てはめ、ホスト事業を把握し WWOOFer の活用実態を概観した。

その結果、全 171 人のホストにおいて、本業に WWOOFer の活用が見られた。多くの事業において、WWOOFer をホストの本業の人手を補う作業要員として活用する一方で、建設業界においては、建築・デザイン経験ある WWOOFer のスキルを借りたり、教育事業では訪日 WWOOFer の語学力を生かし英語の授業を設けたり、飲食事業では訪日 WWOOFer の母国料理をメニューに出すなどしていた（詳細：巻末付録 2-1 参照）。

ホストが WWOOFer を本業のマンプワー補填として活用することに加え、一部のホストは WWOOFer の持つスキルを把握して活用する傾向がみられた。

表 2-2 ホスト本業分類傾向

公開ホストリストで使用されている 事業選択項目(全56項目)	ホスト本業 分類項目
Arts and crafts studio	アート
Dyeing studio	
Gallery	
Music school	
Pottery studio	
Restaurant	飲食
Farm cafe	
Farm restaurant	
A baker	飲食製造
A sweets producer	
Alcohol producer	
Farm foods product processing place	
Meat processing place	
Salt producer	飲食販売
Natural foods shop	
Welfare center	介護
Ecotourism	観光
Nature guide	
Sightseeing business	
Natural therapies place	
Center for the environment	教育
Education center	
Homeschooling place	
Infant minding place	
Language school	
Nature school	
Temple style cram school	漁業
Fishery	
Building studio	建設
Apiary	飼育
Dairy farm	
Horse studio	
Pig farm	
Poultry farm	
Raising cattle for beef	宿泊
Backpackers lodge	
Camping place	
Farm inn	
Mini hotel or pension	スポーツ
Martial arts place	
Outdoor sports	
Place for Yoga	
Sports instructor	
Charcoal producer	日用品販売
Natural goods shop	
Eco goods sales	農業
Farming	
Flower farm	
General farm (grow various kinds of plants)	
Grain farm	
Orchard	
Rice farm	
Vegetable farm	
Vegetable gardens	家庭菜園
Forestry	林業
Other	その他

2-2-2 ホストの地域活動と地域活動における WWOOF 活用の傾向

本項では WWOOF ホストの地域活動に着目する。

今回のレビューにて、本業を行う上では必須ではない活動および、地域の人や地域のために時間や知識経験を共有している活動と推測される活動の紹介の有無および内容を確認し、地域活動の具体的内容の示唆を得ることを目的とした。

その結果、地域活動と判断した活動を紹介していたホストは、全 171 人中 87 人確認された。地域活動として判断した活動は大きく以下の 2 つの傾向に分かれた。すなわち、本業や自身の興味や能力を地域に開いたものと、本業や自身の興味をいかして地域に参入したものに分かれた（表 2-3 参照）。本業や自身の興味や能力を地域に開いたものと、本業や自身の興味を活かして地域に参入したものである。

表 2-3 地域活動傾向及び具体的内容

地域活動の傾向	具体的な内容	詳細な例示
本業や自身の興味や能力を地域に開いたもの	農業体験WSやイベントの開催	草刈り、収穫祭
	地域マルシェの開催	私有地の一部をマルシェ会場として開放
	建物づくりWSやイベントの開催	セルフビルドの建築、古民家のリノベーション
	お料理教室やお料理イベントの開催	郷土料理教室、海外の料理教室
	里山生活WS	五右衛門風呂利用法、薪ストーブ活用法
	スポーツWS	ヨガWS
	地域の人の学習の場の提供	サロンや教室の開講、外国語話者との交流機会の周知
	音楽イベントの開催	
	アートイベントの開催	
	地域の生徒／学生の職場体験受入	1日現場体験の受入、職場体験講師としての協力
本業や自身の興味をいかして地域に参入したもの	地域の人の集いの場の提供	地域の人の中で交流が生まれることを意識したコミュニティ・カフェ
	地域マルシェへの参加	月に1日はマルシェでの出張販売
	地域の環境保全・環境浄化活動への従事	公共地での植林活動、緑化活動、美化活動
	地域の学校と協働した出張授業	学校での特別講師授業への協力

その中でも、地域活動において WWOOFer を活用しているホストは、全 171 人中 32 人確認された。多くの地域活動において、WWOOFer は、全項同様にホストの地域活動のマンパワー的補填として活用されるか、もしくはイベントや WS を受ける参加者として活用されている様子が見受けられた。

一方で、前項同様、訪日 WWOOFer の語学力に着目し、訪日 WWOOFer の滞在を周知して地域の異文化交流の機会を創出したり、訪日 WWOOFer を地域の学校の特別講師として紹介し、異文化交流体験を提供していた（詳細：巻末付録 2-1 参照）。

ホストが **WWOOFer** を地域活動でもマンパワー補填として活用することに加え、一部のホストは **WWOOFer** の持つスキルを把握して地域活動にまで活用する傾向がみられた。

以上のことから、以下の 3 つの傾向が確認された。

- 1) ホストには、本業に勤しむ傍ら、地域活動を実践している一定層がいる。
- 2) 地域活動を行うホストの中には、地域活動に **WWOOFer** を活用しているものもいる。
- 3) **WWOOFer** の活用に関して、本業、地域活動両者において、マンパワーとしての活用とスキルをいかした活用がある。

2-3 全国の WWOOF 利用者の地域との関わりの実態

前節にて確認された傾向の実態の確認および、レビューでは確認できない地域との関わりの内容や、地域との関わりに対する反応や考えを明らかにすべく、過去に WWOOF 利用した訪日外国人と、先述同様の 171 人のホストに対して Web アンケートを実施した。

2-3-1 WWOOFer と地域との関わりの実態

(1) アンケート概要

◆名称

「Questionnaire to learn about volunteer experiences in Japan and relationships between volunteers, hosts, and local people」

(日本語名称；日本におけるボランティア経験とボランティアとホストと地域住民の関係性に関するアンケート)

◆目的

本アンケートの目的を以下の 3 つに設定する。

- 1) 過去の WWOOF 体験における地域との交流内容の傾向を認識する
- 2) 訪日 WWOOFer の考える、地域との関わり的重要性を認識する
- 3) 過去の WWOOF 体験での、回答者のスキルの活用の傾向を確認する

◆質問内容と着目する質問項目

全 37 つの設問を用意し、それらは以下大きく 4 つに構成される⁷⁾。

過去の WWOOF 体験について、地域住民との交流について、滞在が重複した WWOOFer との交流について、再訪理由の意思についてである。

その中で上記の目的を果たすために、表 2-4 にある 11 の質問を分析する。

◆回答対象者

日本で作業滞在型宿泊システムを利用したことのある外国人

⁷⁾ 詳細は巻末資料、WWOOFer に対するアンケート参照

その中から、分析対象として WWOOF 利用者の回答を抽出した。

◆ 応募期間

2016 年 12 月 5 日～2017 年 1 月 5 日

◆ 周知方法

筆者の Facebook による拡散および以下の人物に協力を呼びかけた。

- ・ ウィーン大学日本学教員 1 名
- ・ 調査対象の 171 ホスト

◆ 回答数及び有効回答数

回答数 43 件、うち WWOOF 利用者のみを抽出した結果。有効回答数 41 件

表 2-4 WWOOFer に対するアンケート着目質問項目（詳細は巻末資料）

目的1 過去のWWOOF体験における地域との交流内容		回答必須	回答方式
質問1	ホスト以外にどのような地域住民と交流を持ちましたか？ (一番思い出に残っているWWOOF体験において、以下質問7まで同様の条件) With whom did you communicate, besides the host? (Communication with local people during your BEST volunteer experience in Japan)	○	複数選択
質問2	どのような形で交流をもちましたか？ What were the nature of communications with people other than the host?	○	複数選択
質問3	地域住民との思い出をお話してください。 Please share your story(s) about these communications.	×	記述式
質問4	どのようにして地域住民と出会いましたか？ How did you get to know the local people? (Multiple answers allowed)	○	複数選択
質問5	地域住民との交流に満足しましたか？ Were you satisfied with the communication with/among the local people?	○	選択式
質問6	現在も、地域住民と連絡を取り続けていますか？ Do you still keep in touch with the local people now?	○	選択式
目的2 訪日WWOOFerの考える、地域との関わりの重要性			
質問7	一番思い出に残っているWWOOF体験において、 ホスト以外の地域住民との交流を期待していましたか？ Did you expect to have communication with local people other than the host?	○	選択式
質問8	WWOOF体験のホストを選ぶ際に、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？ How important are the factors below when you choose your host?	○	選択式
質問9	再訪を考えるにあたって、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？ How important are the factors below when you choose your host? (For your intention to repeat)	○	選択式
目的3 過去のWWOOF体験での、回答者の持つスキルの活用実態			
質問10	過去のWWOOF体験で、ホストの事業を行う中で、あなたの持つスキルや バックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。 Did your host(s) try to utilize your skill, background or your character for their activities, or for activities in the local area? Please share your story.	○	記述式
質問11	過去のWWOOF体験で、ホストは地域住民のために、あなたの持つスキルや バックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。 Did your host(s) try to utilize your skill, background or your character for other activities/businesses? Please share your story.	○	記述式

(2) アンケート結果

A) 回答者の属性

回答者の男女比率は、女性 61%、男性 39%である。

また回答者の年齢は、全て 40 歳未満であり、20 代後半に集中していた。

また回答者の国籍の上位 7 つは、オーストリア(14)、フランス(5)、アメリカ(5)、シンガポール(3)、中国(2)、オランダ(2)、オーストラリア(2)である。拡散方法による、国籍の偏りが見られた。

回答者の所属は、学生と従業員が多く、それぞれ約 40%を占め、学生と回答した 17 人中 11 人が日本学を専攻していた。従業員に関しては、教育関係者、広告関連、ホテルスタッフと多様な職種に所属している。

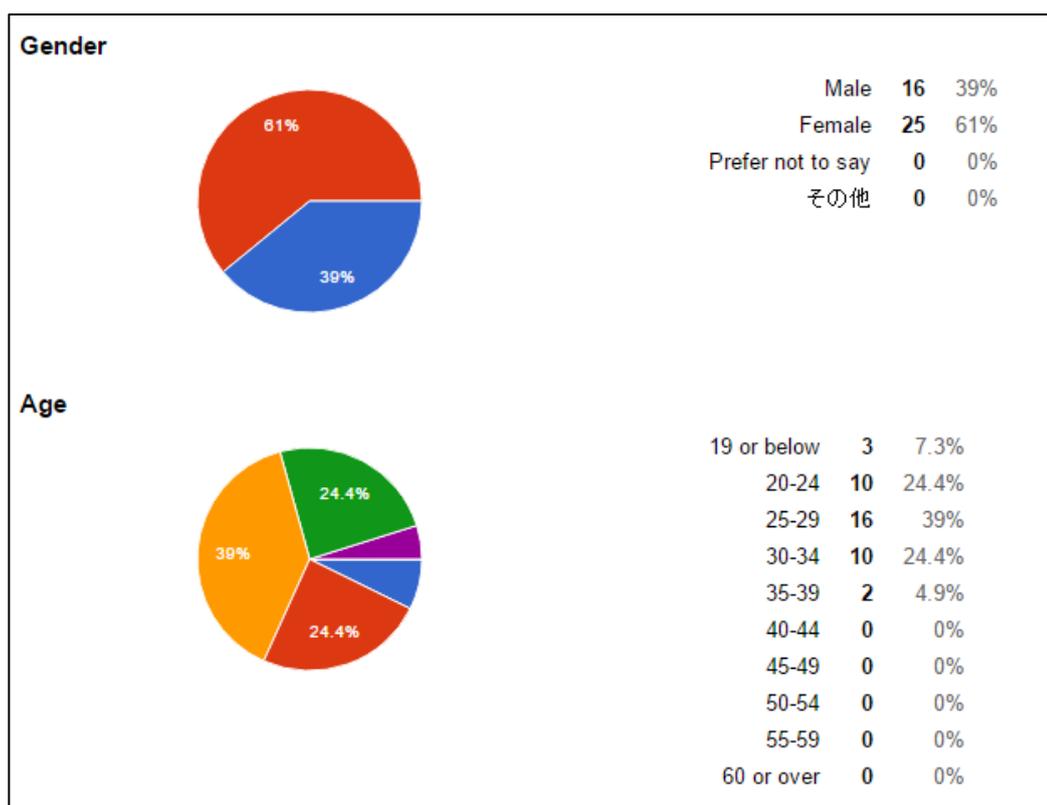


図 2-1 WWOOFer 回答者の性別および年齢

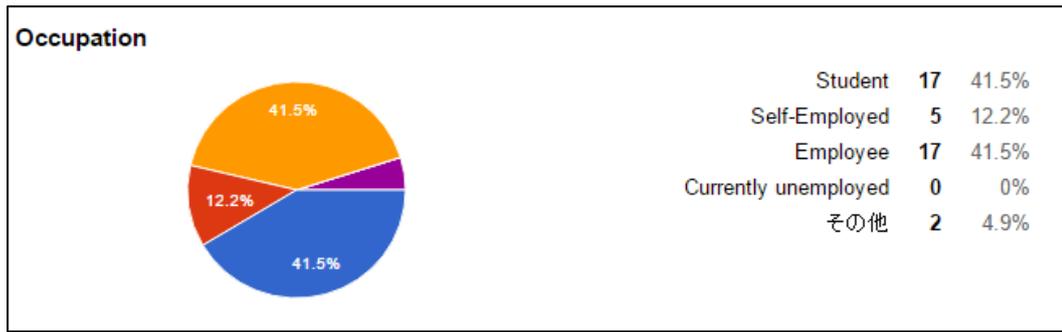


図 2-2 WWOOFer 回答者の所属

また回答者の日本語レベルは初級が突出するものの、約半数が中級以上のレベルで、日本語で聞く／話すことができると回答した。一定の日本語でのコミュニケーションが可能であることを示している。

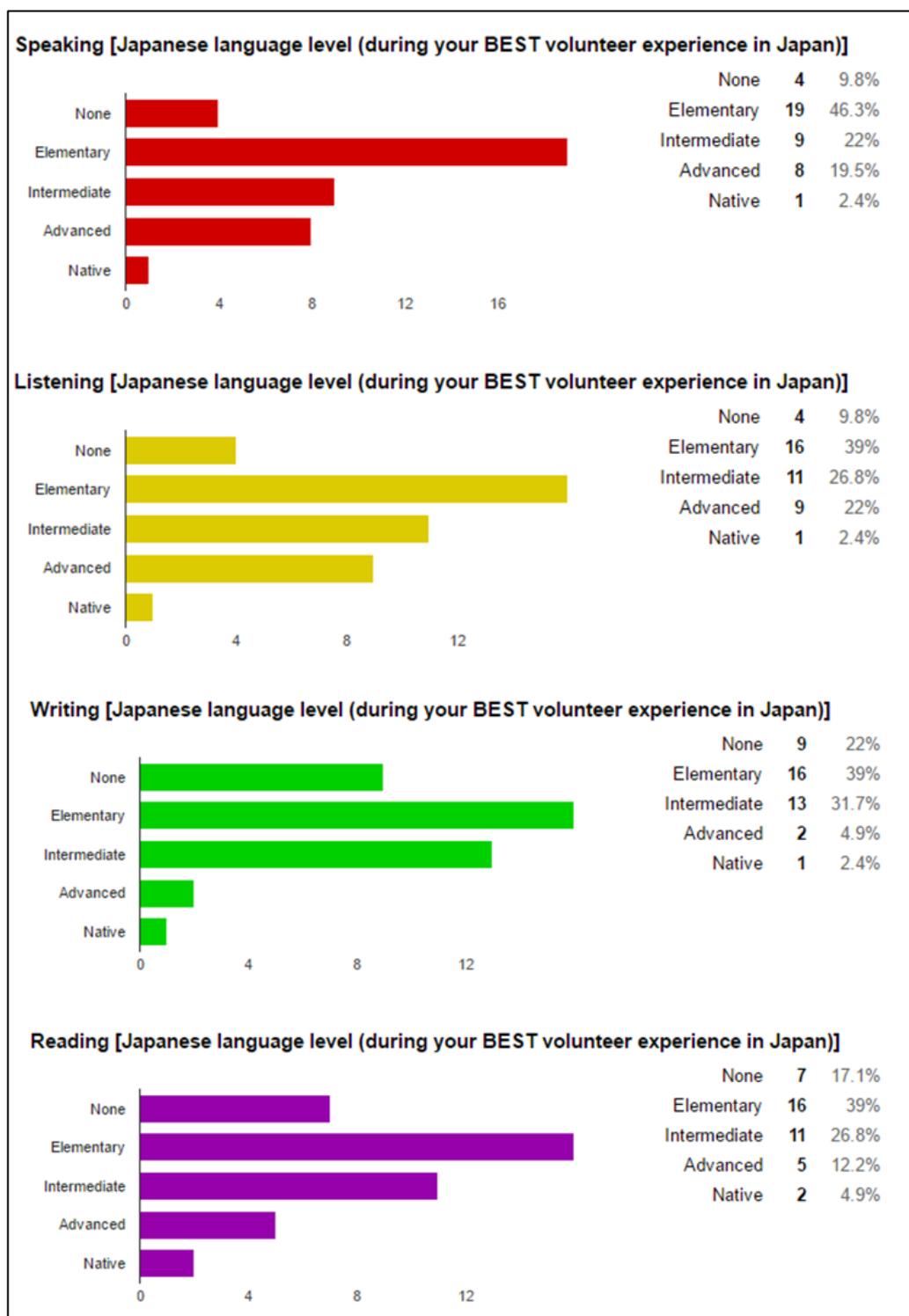


図 2-3 WWOOFer 回答者の日本語能力

B) 目的 1 過去の WWOOF 体験における地域との交流内容の傾向を認識する

◆質問 1 ホスト以外にどのような地域住民と交流を持ちましたか？

回答者 41 人中、40 人が地域住民との交流を持ったと回答した。その中でも、とりわけホストの協同作業員および、ホストの友人といった、ホストと日ごろから親交ある人々との交流が多いことが分かった。

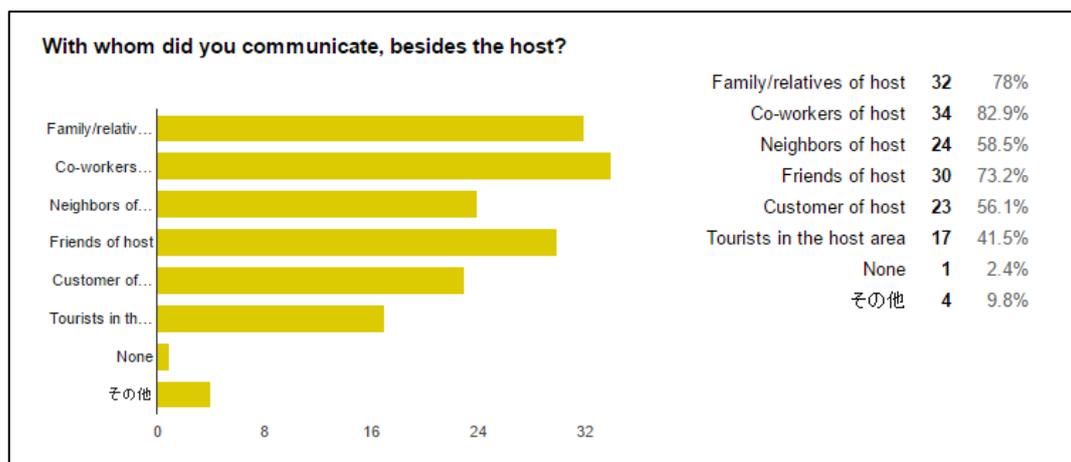


図 2-4 WWOOFer 回答者が交流した地域住民

◆質問 2 どのような形で交流をもちましたか？

挨拶や日常会話といった気軽にできる交流と、ホストの本業において一緒に働く交流が 80%をこえて多くなされていた。一方で、半数以下の回答になるが、地域住民の活動の手伝いや、地域コミュニティの活動へ参画する WWOOFer の存在も確認され、WWOOFer が地域活動に関わっている様子が分かった（図 2-5 参照）。

◆質問 3 地域住民との思い出をお話してください。

多様な交流活動が回答された。日本語のレベルで交流内容を分類すると、多様な交流内容の形が多く見られた。

日本語が全く話せない WWOOFer は、簡単な挨拶やカードゲームといった言葉を介さない交流、外国語を話すことができる地域住民との交流に限られている傾向が見られた。しかし初級レベル以上の日本語を身に着けると、交流のか

私たちは一気に多様化を増し、質問2の選択項目として挙げている交流の活動以外に、地域住民が WWOOFer に興味を持ち、食事やコンサートに連れ出してくれる事例が確認できた。

ホストの近所で下宿を営んでいる中年夫妻はよく私たち（回答者）に話しかけてくれて、地域の慣習や彼らの人生や仕事についていっぱい教えてくれました。それと同時に、私たち母国オーストリアに興味があるようで、たくさんの質問をすると同時に、オーストリアといえばクラシック音楽ということで、私たちをクラシックコンサートにまで連れて行ってくれました。ありとあらゆるお祭りに連れて行ってきて、よくお昼ごはんも一緒にしました【() 内筆者補填、筆者翻訳】。

上級レベルになると、WWOOFer や地域および地域住民の背景について話すだけではなく、時に哲学的な話、移住の話を地域住民とすることもあった。

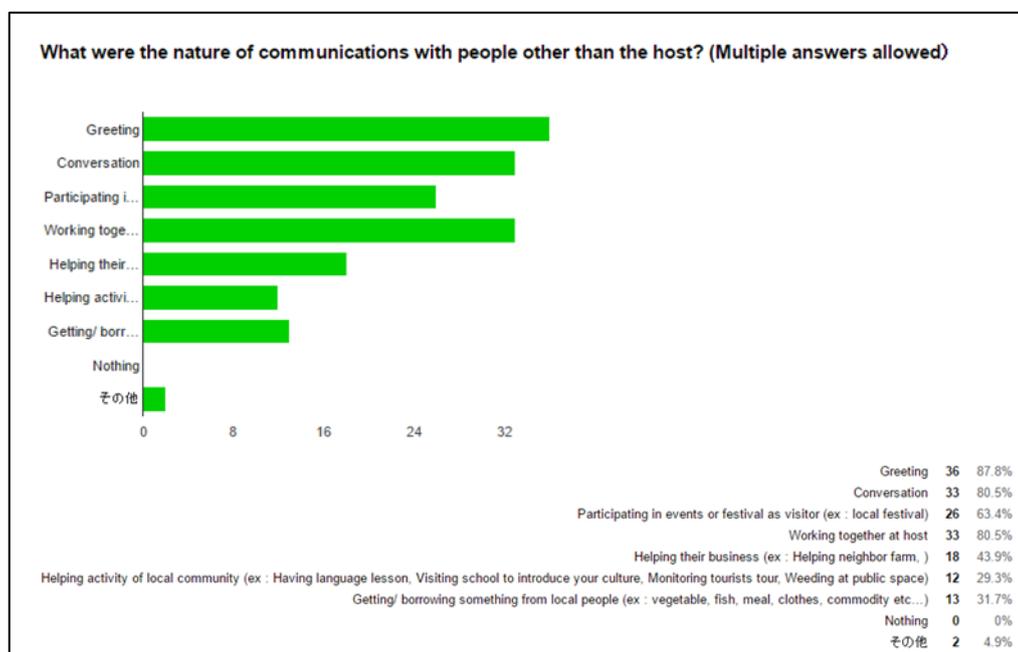


図 2-5 WWOOFer 回答者が地域住民と交流した活動

◆質問 4 どのようにして地域住民と出会いましたか？

ホストの本業での作業と、ホストの仲介による、と回答した人が大きな割合を占めており、WWOOFer が地域住民と交流するためには、ホストの介在が重要な役割を担っていることが分かった。

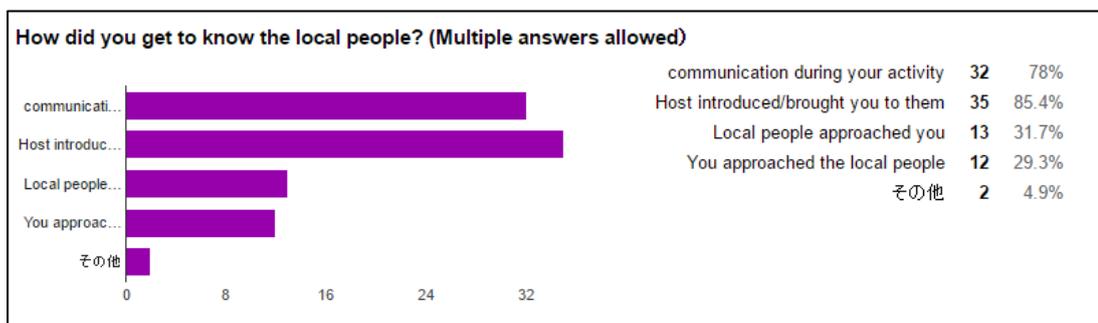


図 2-6 WWOOFer 回答者が地域住民と知り合った経緯

◆質問 5 地域住民との交流に満足しましたか？

約 90%の回答者が地域住民との交流に満足していた。

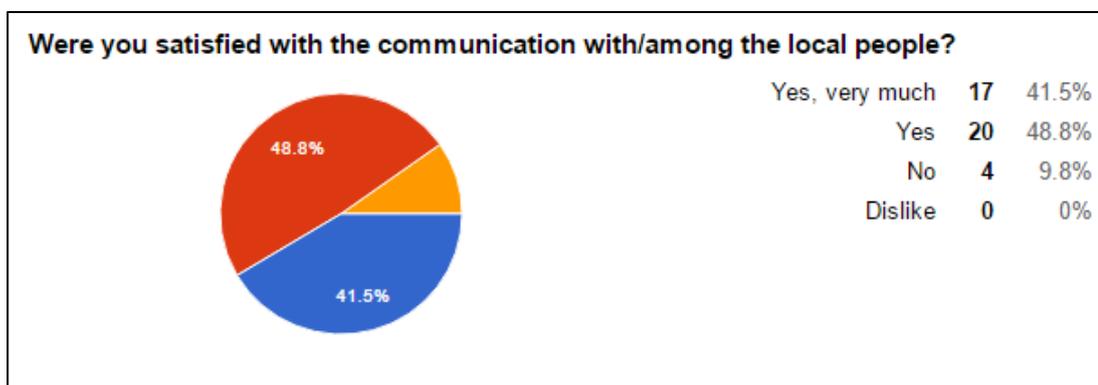


図 2-7 WWOOFer 回答者の地域住民との交流満足度

◆質問 6 現在も、地域住民と連絡を取り続けていますか？

70%が、連絡を取り続けていると回答した。しかし、「ときどき」の回答と、「次回再訪する予定あり」の回答と、「SNS でつながっているだけ」という回答がほぼ同じ割合であり、地域住民とのつながりの深さは多様にあることが分かった。

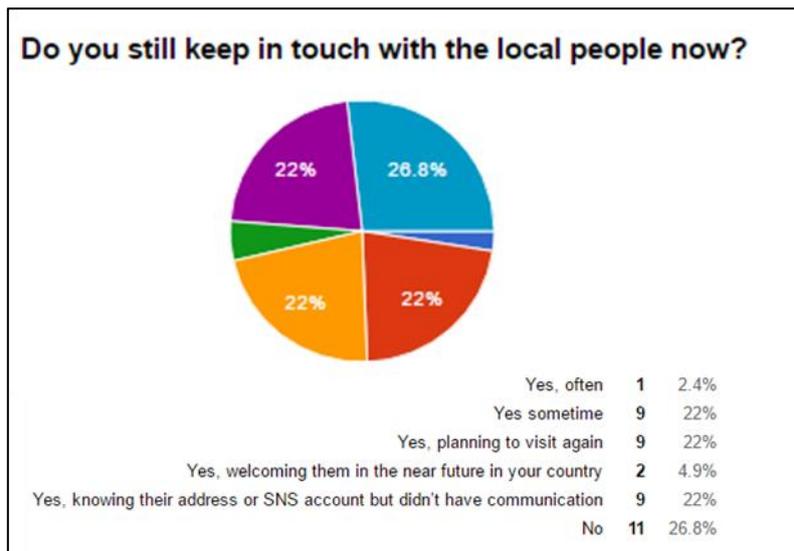


図 2-8 WWOOFer 回答者の WWOOF 体験終了後の地域住民との連絡頻度

C) 目的 2 訪日 WWOOFer の考える、地域との関わりの重要性を認識する

- ◆質問 7 一番思い出に残っている WWOOF 体験において、ホスト以外の地域住民との交流を期待していましたか？

地域住民との関わりの期待は約 90%と非常に高い数値を示した。

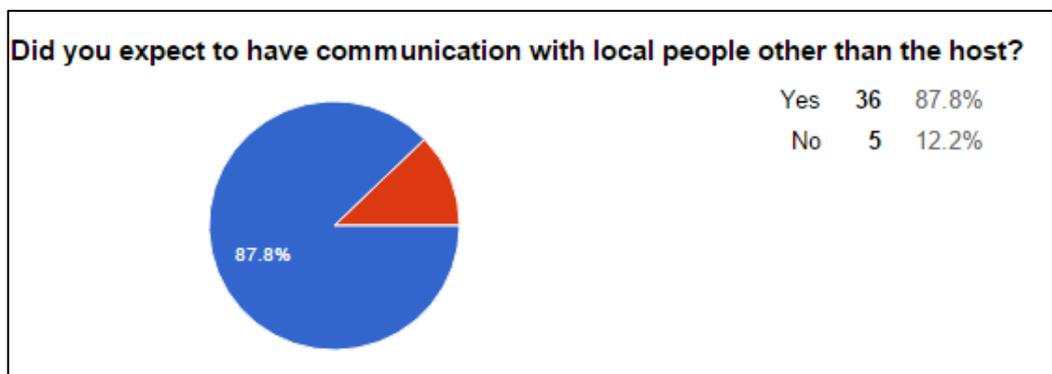


図 2-9 WWOOFer 回答者の地域住民との交流の期待度

- ◆質問 8 WWOOF 体験のホストを選ぶ際に、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？

「重要」と「とても重要」の回答が 75%以上であり、この数値はボランティア活動に対して、「重要」と「とても重要」の回答が同等となっていた。

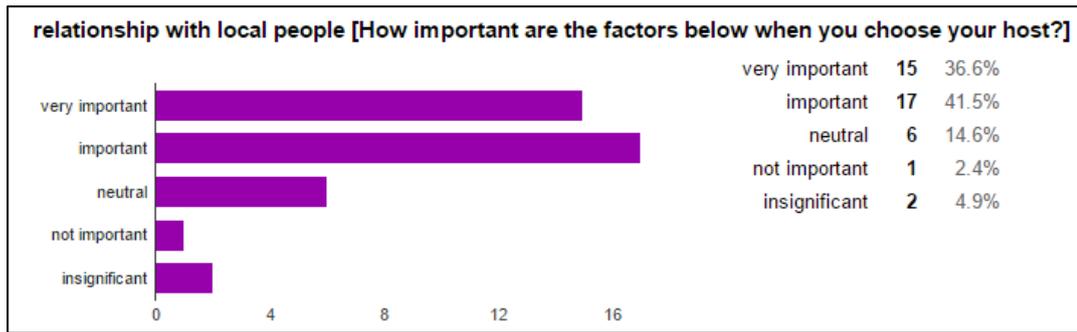


図 2-10 ホスト決定時の「地域住民との交流」が持つ重要度

◆質問 9 再訪を考えるにあたって、地域住民との交流はどれほど重要な要素ですか？

ホスト決定時よりも重要度は下がるものの、「とても重要」「重要」と回答した層が 70%以上確認された。

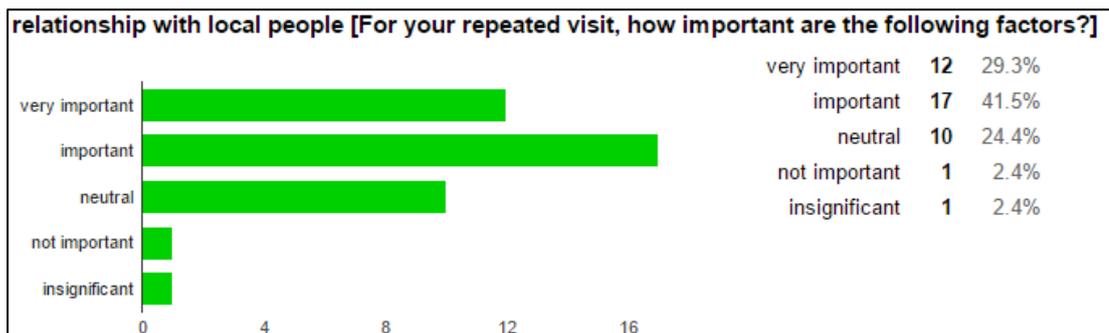


図 2-11 再訪を決める際の「地域住民との交流」が持つ重要度

D) 目的 3 過去の WWOOF 体験での、回答者の持つスキルの活用の傾向を確認する

◆質問 10 過去の WWOOF 体験で、ホストの事業を行う中で、あなたの持つスキルやバックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。

ホストの本業のもとでスキルを活用したと回答した訪日 WWOOFer は全 41 人中 21 人だった。スキルの内容は翻訳や通訳、言語レッスンなど言語系が最も多く、お国料理の作成といった調理系、音楽やペイント技術などのアート系

の回答も多く見られた。他にも、大工仕事を行ったり、IT 技術を駆使してホストの宣伝ビデオを作成したりする訪日 WWOOFer の存在が確認された。

- ◆質問 11 過去の WWOOF 体験で、ホストは地域住民のために、あなたの持つスキルやバックグラウンドおよび性格を活用しましたか？思い出をお話してください。

ホストのいる地域において地域住民のためにスキルを活用したと回答した、訪日 WWOOFer は全 41 人中 8 人確認でき、以下のように回答している。

「近所の事業のために木工製作をした」「新メニューの開発」「ポスターやロゴなどのデザイン」「ホストの友人とお互いの国の農業事情と持続可能性についての意見交換をした」「もちろん！ホストは（日本語が話せない回答者に対して）日本語と戦え！と言ってたけど、地域の人が英語を話せる手伝いをさせてくれたんだ。地域の人にとっても僕にとってもいい体験だった！」「ボーイスカウトの遠足にてギター演奏」「ホストだけでなくホストのところで働いている地域の人にも宣伝ビデオを作ってあげました」【() 内筆者補填、筆者翻訳】

以上、訪日 WWOOFer による Web アンケートの結果より、WWOOFer と地域の関わりの実態として以下のことが明らかになった。

1) 過去の WWOOF 体験における地域との交流内容の傾向

WWOOFer はホストやホストの活動を通して、ホストと日々の親交が深い地域住民と出会うことが多い。交流の多くは簡単な挨拶やホストの事業関連であるが、時に地域活動にまで WWOOFer が関わることもある。WWOOF 体験後の地域住民との連絡の頻度には、WWOOFer によって差にばらつきがみられるが、地域住民との交流には満足を示していることが多い。

2) 訪日 WWOOFer の考える、地域との関わり的重要性

地域住民との交流は大いに期待しており、ホスト決定時や再訪する際には、

よく考慮する要素となっている。

3) 過去の WWOOF 体験での、回答者の持つスキルの活用の傾向

ホストの本業および地域活動の両者において、時に WWOOFer のスキルを活用することがある。頻度としては、ホスト本業への活用の方が地域活動への活用よりも多い。

2-3-2 ホストと地域との関わりの実態

(1) アンケート概要

◆名称

「ボランティア・システムを利用する外国人の交流・活躍の状況に関するアンケート」

◆目的

本アンケートの目的を以下の3つに設定する。

- 1) ホストの地域活動への関わりの傾向を確認する
- 2) ホストの地域活動への WWOOFer の活用傾向を確認する
- 3) ホストと地域住民の金銭を介さない交流の有無を確認する。

◆質問内容と着目する質問項目

全31つの設問を用意し、それらは以下大きく4つに構成される⁸。

WWOOF 受入概要について、WWOOFer の再訪について、ホストの地域活動について、地域における金銭のやり取りをしない交流についてである。

その中で上記の目的を果たすために、表 2-5 にある5つの質問を分析する。

表 2-5 ホストに対するアンケート着目質問項目

目的1 ホストの地域活動への関わり		回答必須	回答方式
質問1	あなたは地域の中での活動に興味がありますか？	○	選択式
質問2	実際に地域の人と協働して取り組んでいる地域活動があれば以下の中より、お選びください	○	複数選択
質問3	具体的な活動内容をぜひお教えてください。	×	記述式
目的2 ホストの地域活動へのWWOOFerの活用実態			
質問4	海外からのボランティアも地域の活動に参加していますか？	○	選択式
質問5	海外からのボランティアを地域の人とつなげようと思いますか	○	選択式

◆回答対象者

日本で作業滞在型宿泊システムを利用しているホスト

その中から、分析対象として WWOOF 利用者の回答を抽出した。

⁸ 詳細は巻末資料、WWOOFer に対するアンケート参照

◆応募期間

2016年12月5日～2017年1月5日

◆周知方法

以下の人物に、個人的に連絡を取り、回答協力をお願いした。

- ・ホームページやブログで WWOOFer 受け入れを表明してる 171 人のホスト
- ・上記のホストから紹介してもらったホスト

◆回答数及び有効回答数

回答数 54 件、うち WWOOF 利用者のみを抽出した結果。有効回答数 53 件。

(2) アンケート結果

A) 回答者の属性

回答者の本業は、専業農家が最も多く、その次にカフェ・レストラン、宿泊業と続いた。次に、ホスト歴については、2年目から7年目のホストの回答率が比較的高い。

またホストの日本外在住経験については、約50%の回答者が半年以上の海外経験があり、とりわけ海外就労経験が多かった。対異文化のノウハウを取得しているホストが一定層いることが分かった。

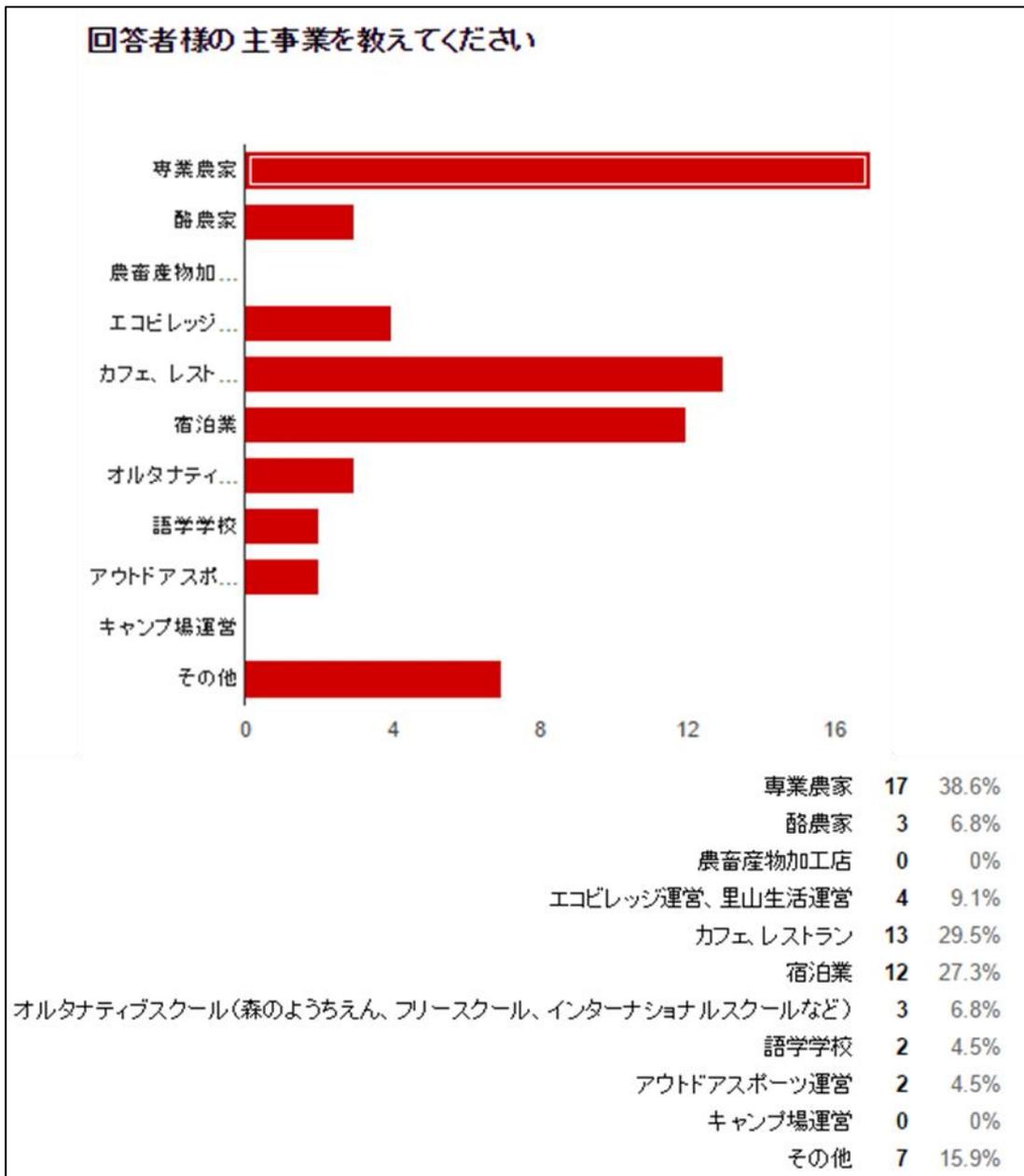


図 2-12 ホスト回答者の本業

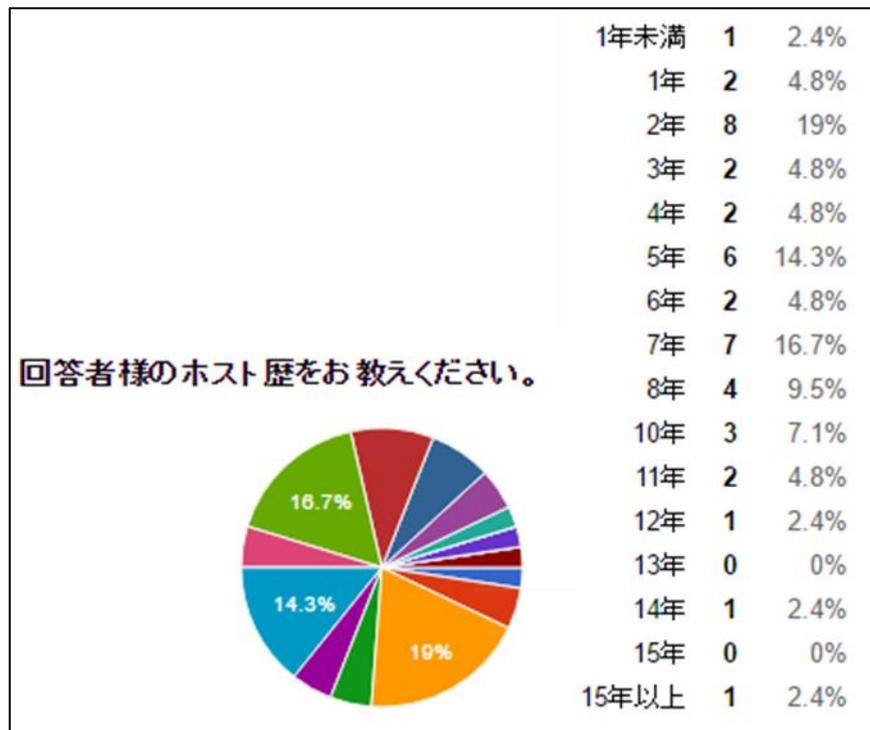


図 2-13 ホスト回答者のホスト歴

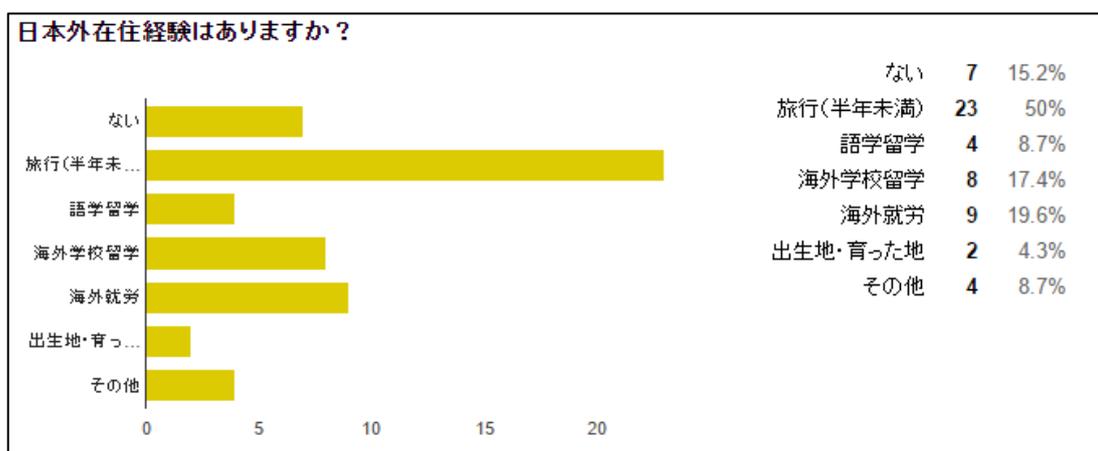


図 2-14 ホスト回答者の日本外在住歴

B) 目的1 ホストの地域活動への関わり傾向を確認する

◆質問1 あなたは地域の中での活動に興味がありますか？

地域活動への興味の有無について、「はい」と回答したのは約 95%であり、かなり多くのホストが地域活動に興味を抱いていることが分かった。

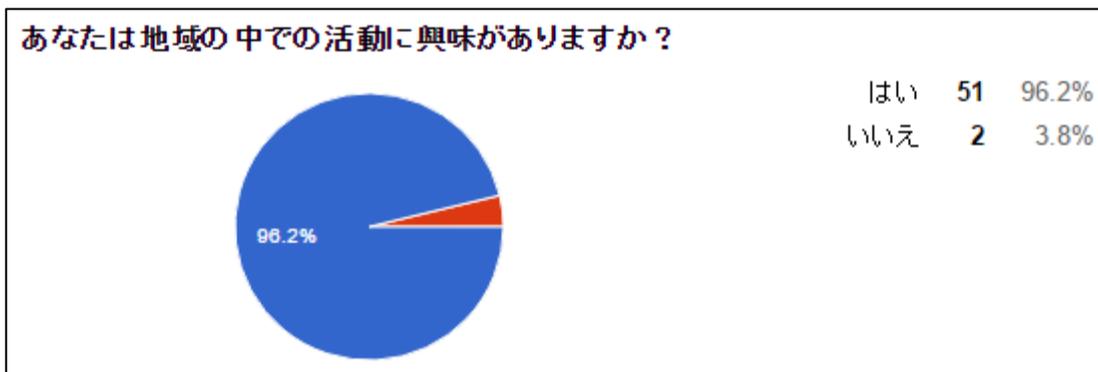


図 2-15 ホスト回答者の地域活動に関する興味

◆質問 2 実際に地域の人と協働して取り組んでいる地域活動があれば以下の
中より、お選びください

ホスト回答者 53 人中 50 人が地域活動に実際に取り組んでいた。

最も回答率の項目は、「農業体験 WS やイベント」で半分以上を占めていた。

また料理教室や、地域保全環境活動なども高い回答率となった。

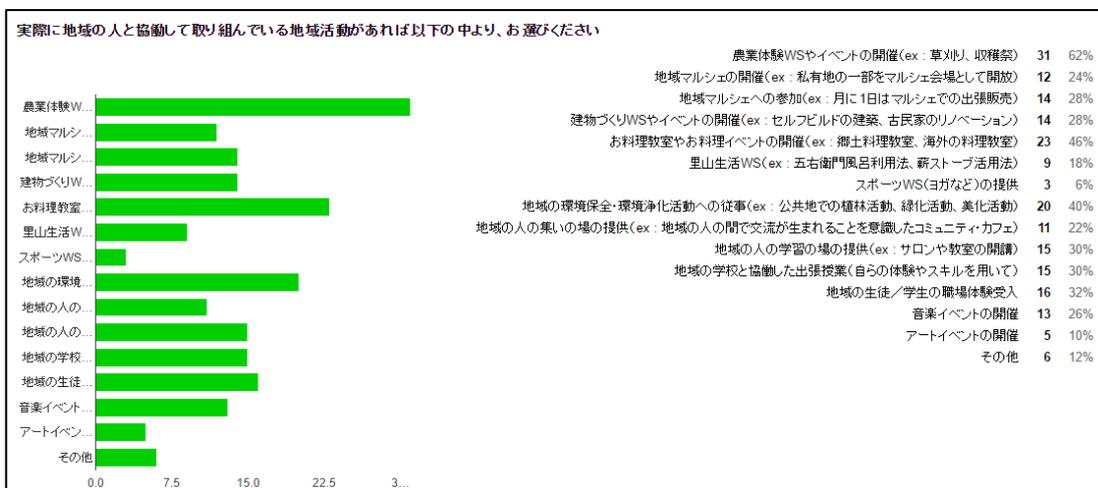


図 2-16 ホスト回答者の取り組んでいる地域活動

◆質問 3 具体的な活動内容をぜひお教えてください。

質問 2 における選択項目では当てはまらない多様な地域活動に関する回答があった。以下、一部抜粋で紹介する。

「業体験や故郷納税返礼品で、できる限り地元の市に貢献できるよう（赤字にならないギリギリのラインで）努力しております。）地元農業の収入のボトムアップをするために、何軒かの農家で組合をつくり、ブランド野菜の確立とともに、スーパーなどと直接取引ができるよう、販路確保の商談をしています。」「地域の広報の編集部員、普通に地域のいろんな役で活動に参加」「都市部の生徒や海外の生徒へ向けた民泊体験、及びその受け入れ家庭を増やす取り組み」

C) 目的2 ホストの地域活動への WWOOFer の活用傾向を確認する

◆質問4 海外からのボランティアも地域の活動に参加していますか？

訪日 WWOOFer を地域活動に活用しているホストは、約 70%もおり、またマンパワーとして訪日 WWOOFer を活用するホストが約 50%おり、彼らのスキルに着目して地域活動に生かすホストは 11.5%確認された。

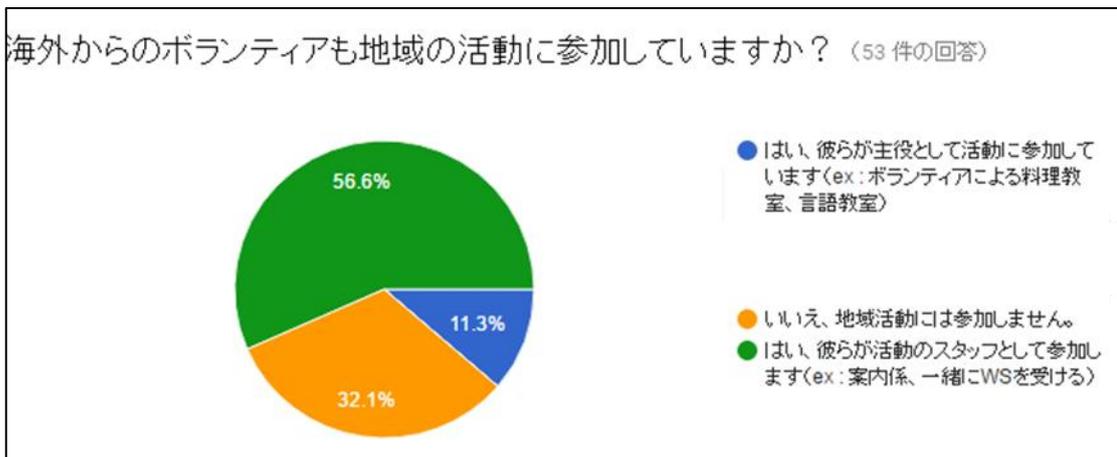


図 2-17 ホスト回答者の地域活動への訪日 WWOOFer の活用

◆質問5 海外からのボランティアを地域の人とつなげようと思いますか？

回答者の 90%以上が、訪日 WWOOFer と地域住民をつなげようと思っていると回答した。その中でも、多くが自然につながっていけば良いと考えているのに対して、約 10%の回答者が積極的に地域住民と訪日 WWOOFer を橋渡していることが確認された。

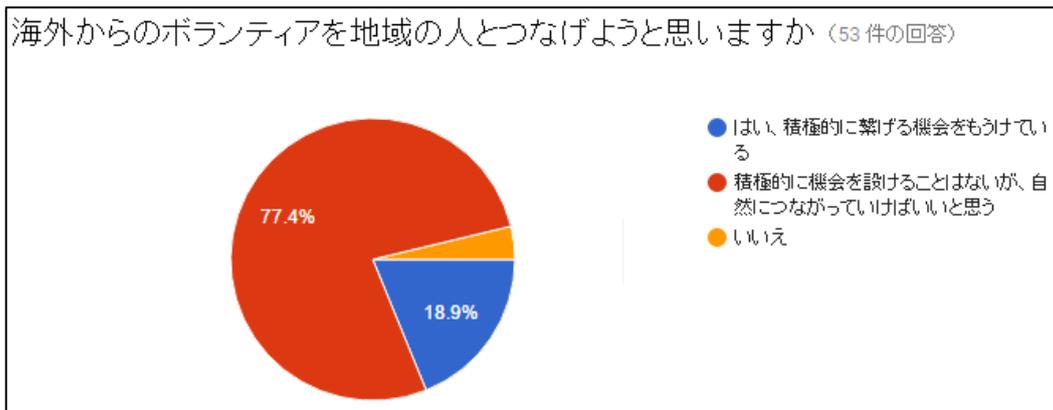


図 2-18 ホスト回答者の訪日 WWOOFer を地域住民と繋げる意思

以上、WWOOF ホストによる Web アンケートの結果より、ホストと地域の関わりの実態として以下のことが明らかになった。

1) ホストの地域活動への関わりの実態

ホストの多くは地域活動に興味をもっており、また実践をしている。

2) ホストの地域活動への WWOOFer の活用実態を掌握する

地域活動を実践しているホストの約 70%は WWOOFer の力も地域活動に活用しており、その中でも少数であるが、WWOOFer のスキルを活用しているホストが一定層確認される。

2章3節のまとめとして、2章2節で確認された全3つの傾向、すなわち1) ホストは本業に勤しむ傍ら、地域活動を実践している一定層がいる、2) 地域活動を行うホストの中でも、地域活動に WWOOFer を活用している、3) WWOOFer の活用に関して、本業、地域活動両者において、マンパワーとしての活用とスキルをいかした活用がある、は全て Web アンケートでも実態として確認された。

以上のことから、WWOOFer が作業を通して、ホストやホスト地域との交流を享受していることを前提として、全国の WWOOF 活用に以下の4つの種類があることがわかった。①自己ビジネスマンパワー型、②自己ビジネススキル

スキル型、③地域活動マンパワー型、④地域活動スキル型である。

類型①は、ホストのビジネスのために **WWOOFer** をマンパワーの補てんとして活用するものがある。**WWOOFer** に特殊な技術は必要とせず、例としては、農作業の草刈り、飲食加工品の包装などが挙げられる。

類型②は、ホストのビジネスのために **WWOOFer** のスキルを活用するものがある。建築の知識やデザインなど一定の技術が求められることもあるが、訪日 **WWOOFer** であれば言語や彼らのバックグラウンドそのものがスキルとなり、それらが活用される。例としては、外国語の指導や、飲食業におけるメニュー開発などがあげられる。

類型③は、本業での活用に加え、ホストの地域活動のためにも **WWOOFer** をマンパワーの補てんとして活用するものがある。**WWOOFer** に特殊な技術は必要とせず、例としては、マルシェでの販売、地域イベントにおける資材運びなどが挙げられる。

類型④は、本業での活用に加えて、地域活動のためにも **WWOOFer** のスキルを活用するものがある。建築の知識やデザインなど一定の技術が求められることもあるが、訪日 **WWOOFer** であれば言語や彼らのバックグラウンドそのものがスキルとなり、それらが活用される。例としては、地域の学校における **WWOOFer** の出身地紹介や、地域の子供たちを対象にした外国語ボランティアレッスンなどがあげられる。

全活用型において、ホストやホストの作業を介して、地域住民との交流を持つ一方で、類型③、④では地域住民を対象、もしくは地域住民と協同して行うものが多く、地域との関わりが多いと考えられる。

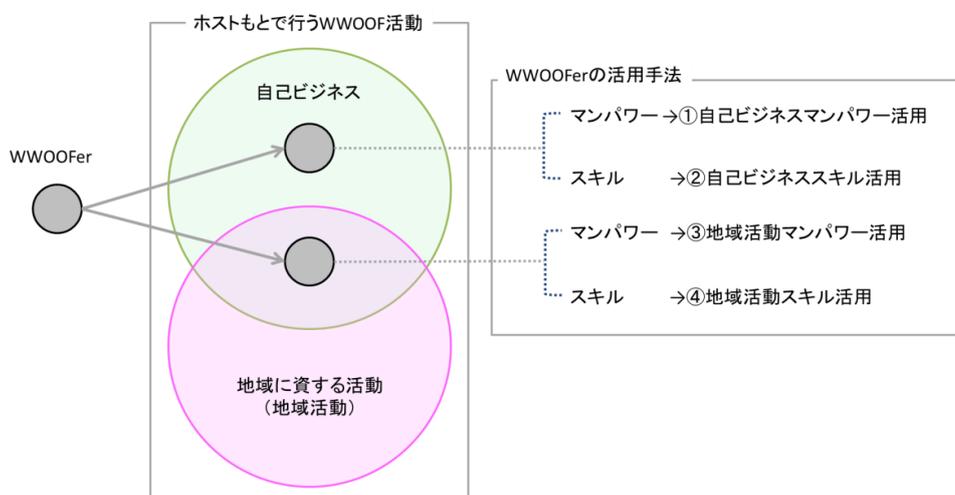


図 2-19 ホストによる WWOOF 活用と地域活動の関係性

2-4 2章のまとめ

2章では、日本における WWOOF 利用者による地域活動の全体像を把握することを目的とした。第一に、WWOOF 受入れを表明している 171 のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行った。結果、ホストは自ら事業のマンパワー的補填として WWOOF を活用すると同時に、一部ホストは彼らの持つスキルやバックグラウンドに着目し、それらを活用している事実が見られた。またホストは単に外部者との交流享受や、「本業」への助けを得るためではなく、地域への国際交流機会の提供といった地域活動にまで幅を広げるホストが確認された。

第二に、過去に WWOOF を利用した訪日外国人と、同 171 のホストを対象に Web アンケートを行った。

訪日 WWOOFer に対しては、訪問先での体験や地域との関わりの内容について尋ねた。その結果、訪日 WWOOFer（有効回答数 41 件）の経た体験における地域との交流内容の傾向と、訪日 WWOOFer の考える重要性および、過去の WWOOF 体験での、回答者の持つスキルの活用の傾向が明らかになった。

1 つ目に関しては、WWOOFer はホストやホストの活動を通して、ホストと日々の親交が深い地域住民と出会うことが多いことが明らかになった。また交流の多くは簡単な挨拶やホストの事業関連であるが、時に地域活動にまで WWOOFer が関わることもあることが分かった。そして WWOOF 体験後の地域住民との連絡の頻度には、WWOOFer によって差にばらつきがみられるが、地域住民との交流には満足していることが分かった。

2 つ目に関しては、地域住民との交流を訪日 WWOOFer は大いに期待しており、ホスト決定時や再訪する際には、よく考慮する要素となっていることが分かった。

3 つ目に関しては、ホストの本業および地域活動の両者において、時に WWOOFer のスキルを活用することがあり、頻度としては、ホスト本業への活用の方が地域活動への活用よりも多いことが明らかになった。

そしてホストへのアンケート（有効回答数 53 件）に関しては、ホストの地域活動への関わりの実態および、ホストの地域活動への WWOOFer の活用実態

を掌握することができた。

前者に関しては、ホストの多くは地域活動に興味をもっており、また実践にも取り組んでいることが分かった。

後者に関しては、地域活動を実践しているホストの約 70%は WWOOFer の力も地域活動に活用しており、その中でも少数であるが、WWOOFer のスキルを活用しているホストが一定層確認された。

以上のことから、ホストの WWOOF 活用に関して、WWOOFer が作業を通して、ホストや地域住民との交流を享受していることを前提に、4 つに類型化できることが明らかになった。①自己ビジネスマンパワー型、②自己ビジネススキル型、③地域活動マンパワー型、④地域活動スキル型である。

①自己ビジネスマンパワー型は、WWOOF を、作業をこなす一労力とみなし、自己ビジネスにマンパワー要員として活用するものである。

②自己ビジネススキル型は、WWOOF の特殊スキルに着目し、それを用いた活用を行うものである。

③地域活動マンパワー型は、自己ビジネスに加えて、地域活動にも WWOOF をマンパワーとして活用しているものである。

④地域活動ビジネス型は、自己ビジネスに加えて、地域活動にも WWOOF の特殊スキルを用いて活用しているものである。

第 3 章 WWOOFer の地域に関わる形とホストの取り組みの実態

3-1 3 章の目的と研究手法

3 章では、WWOOFer、ホストそして地域住民の関係性に着目する本研究の目的に照らし合わせて、2 章の分類に基づき、地域活動に WWOOF を活用している類型③地域活動マンパワー型、および類型④地域活動スキル型に着目し、以下の 3 つ、A) WWOOFer の活動詳細、B) WWOOFer が地域に関わる形、C) ホストが関わりを生み出すために行う工夫を明らかにすることを目的とする。

そこで、類型③地域活動マンパワー型、類型④地域活動スキル型のホストがおり、同時期に複数 WWOOFer の受入れをしている岐阜県下呂市馬瀬地域の 2 つのホストの元で、筆者自ら WWOOFer としての参与観察（各約 2 週間）およびヒアリング調査を行った。

3-2 調査概要

本章では、A) WWOOFer および WWOOFer 活動詳細、B) WWOOFer が地域に関わる形、C) ホストが関わりを生み出すために行う工夫を明らかにするために参与観察とヒアリング調査を行った。

参与観察では、WWOOFer の活動の詳細を明らかにし、WWOOFer が地域に関わる形を明らかにするために、ホスト、WWOOFer、地域住民の 3 対象を広く観察した。更に WWOOFer に着目し、自らの活動の記録に加え、滞在が重複した WWOOFer の活動を観察し、各人が滞在期間中に行った活動を整理した。「WWOOFer 滞在ログ」および、活動や滞在場所を地域住民の興隆内容と共に「WWOOFer ログマップ」として地図化した。

また参与観察期間で把握できない点を補完するため、WWOOFer と地域の関わりを WWOOFer、ホスト、地域住民、またホスト活動関係者にヒアリング調査を行ない、WWOOFer と地域との関わりの有無、関わり方について詳しく尋ね、WWOOFer ログの内容を補填した。

その上で、地域と多様な関わりを持っていた B 夫妻に着目し、WWOOFer と地域が交流を持つために取り組んでいる工夫を明らかにするために、WWOOFer、ホストおよび地域住民やホスト活動関係者に対するヒアリング調査を行った。

3-2-1 調査対象地の概要

(1) 調査対象および調査対象地の選定

調査対象のホストは、WWOOF 受入を表明している 171 人のホストの中から、以下の条件の基で絞り込んだ。

- あ) WWOOF 受入を表明している 171 人の中で、類型③地域活動マンパワー型および④地域活動スキル型に分類される
- い) 同時期に訪日 WWOOFer を複数受け入れている
- う) 活動内容を定期的にホームページや Facebook 等インターネット上で配信している

以上の条件に当てはまるホストが複数人いる地域を抽出し、さらに③④両類

型のホストがおり、行政単位が比較的小規模である地域として、岐阜県下呂市馬瀬地域を調査地に設定した。馬瀬地域にはホストが二人おり、両者ホスト A さん、B 夫妻のもとで参与観察を行った。

(2) 岐阜県下呂市馬瀬地域の概要

岐阜県下呂市馬瀬地域は、下呂市の北西に位置する地域である（図 3-1）。旧岐阜県益田郡馬瀬村であり、旧金山町、旧下呂町、旧小坂町、旧萩原町と 2004 年 3 月に合併し、岐阜県下呂市馬瀬地域となった。

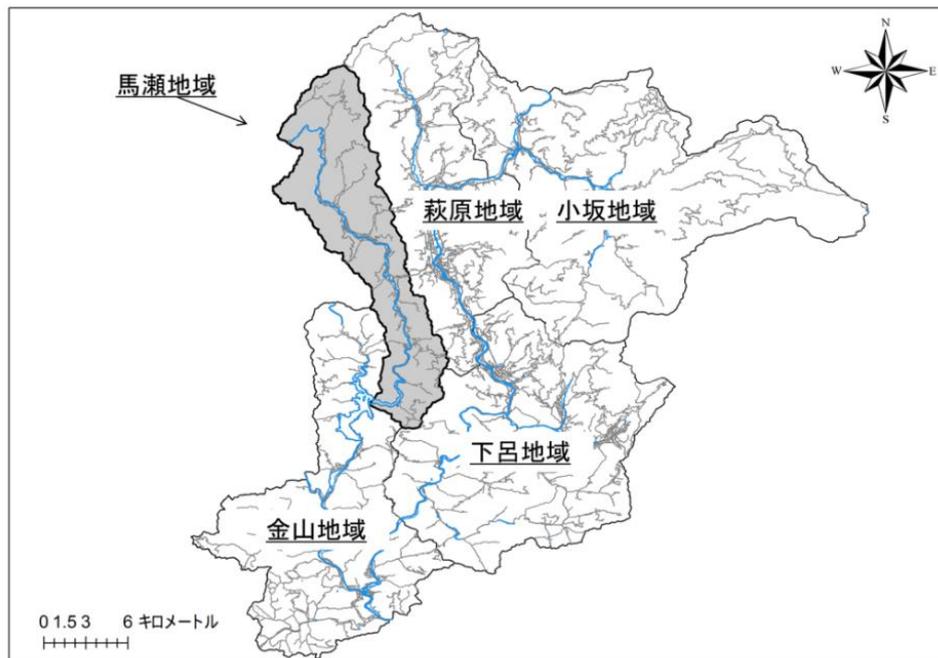


図 3-1 下呂市馬瀬の位置

下呂市は、日本創生会議が示した「消滅可能性都市」に該当し、人口は一貫した減少傾向にある。馬瀬地域においても同様で、1960 年では 2,848 人であった人口が、現在ではほぼ半減し、1,234 人となっており（図 3-2）、過疎化問題に直面している地域である。馬瀬地域には、全部で 10 地区があり、それぞれの人口分布は、2015 年 4 月時点で、表 3-1 の通りである。下呂市全体の人口問題と同じく、1960 年から現在に至るまで馬瀬地域の人口も半減していることが確認できる。

馬瀬地域は、中央に走る馬瀬川をはじめとした豊かな自然と農村風景を有し

ており、これらの自然と里山の営みを保全し活用するために、フランスの「地方自然公園制度⁹⁾」をモデルにし、地域全体を「馬瀬地方自然公園」と定めている。

とりわけ西村地区では、地域住民が自発的に里山管理を行っており、下呂市も西村地区全体を「里山ミュージアム」と指定し、観光資源の一つとして活用をしている。

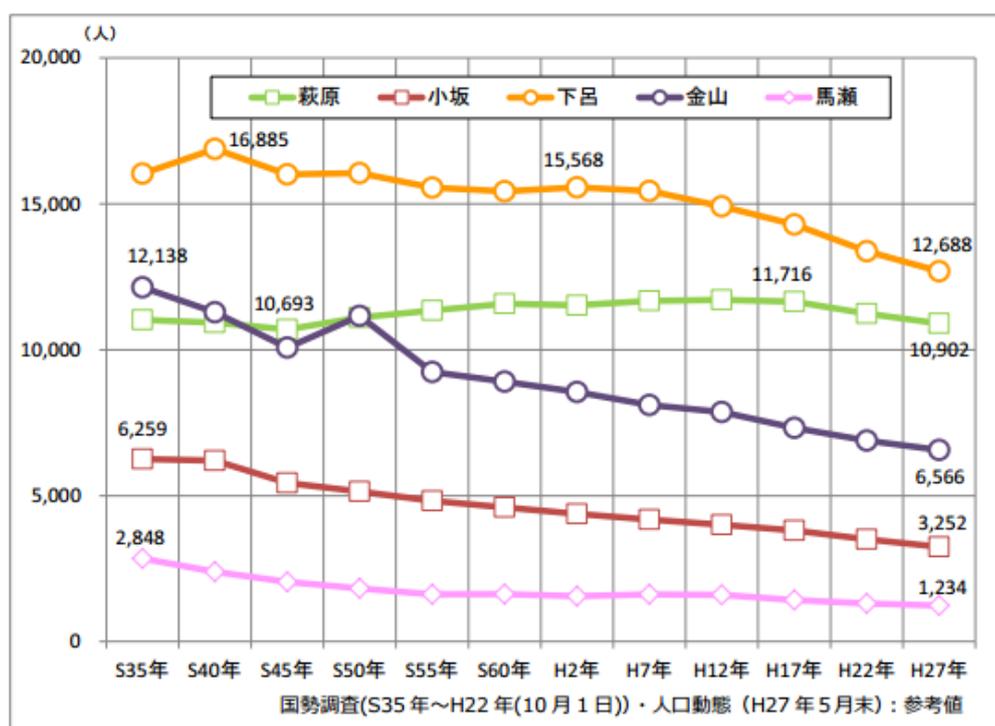


図 3-2 下呂市地域別人口の推移

	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
	S35年	S40年	S45年	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年
下呂	16,042	16,885	16,011	16,058	15,554	15,430	15,568	15,438	14,916	14,292	13,375	12,688
金山	12,138	11,288	10,071	11,158	9,238	8,907	8,551	8,111	7,868	7,325	6,890	6,566
萩原	11,027	10,926	10,693	11,110	11,349	11,578	11,522	11,679	11,716	11,647	11,241	10,902
小坂	6,259	6,204	5,436	5,143	4,825	4,601	4,375	4,183	4,005	3,805	3,503	3,252
馬瀬	2,848	2,389	2,043	1,824	1,615	1,631	1,560	1,618	1,597	1,425	1,305	1,234

図 3-2 下呂市地域別人口の推移 (下呂市人口ビジョンより参照)

⁹⁾ 地方自然公園 (Parc Naturel Regional) とは、フランス独自の自然公園システムであり、自然保護に最重点が置かれ、経済活動が規制される国立公園に対し、地方自然公園は住民が住む田舎が対象となることが特徴である。乱開発を避け、緩やかなかつ持続的な発展を望む地域住民が、地方自然公園を通じて均衡の取れた地域計画をたて実施する地域である。

表 3-1 馬瀬地域の人口分布（2016年4月時点）¹⁰
 （下呂市HP、「平成28年4月末地区別人口」より筆者作成）

地区	川上	黒石	数河	中切	堀之内	萩原	名丸	井谷	惣島	西村	合計
男	15	73	98	146	31	22	28	23	67	78	581
女	16	82	117	145	38	27	41	25	71	76	638
合計	31	155	215	291	69	49	69	48	138	154	1,219
世帯	18	50	66	93	21	18	21	16	59	50	412

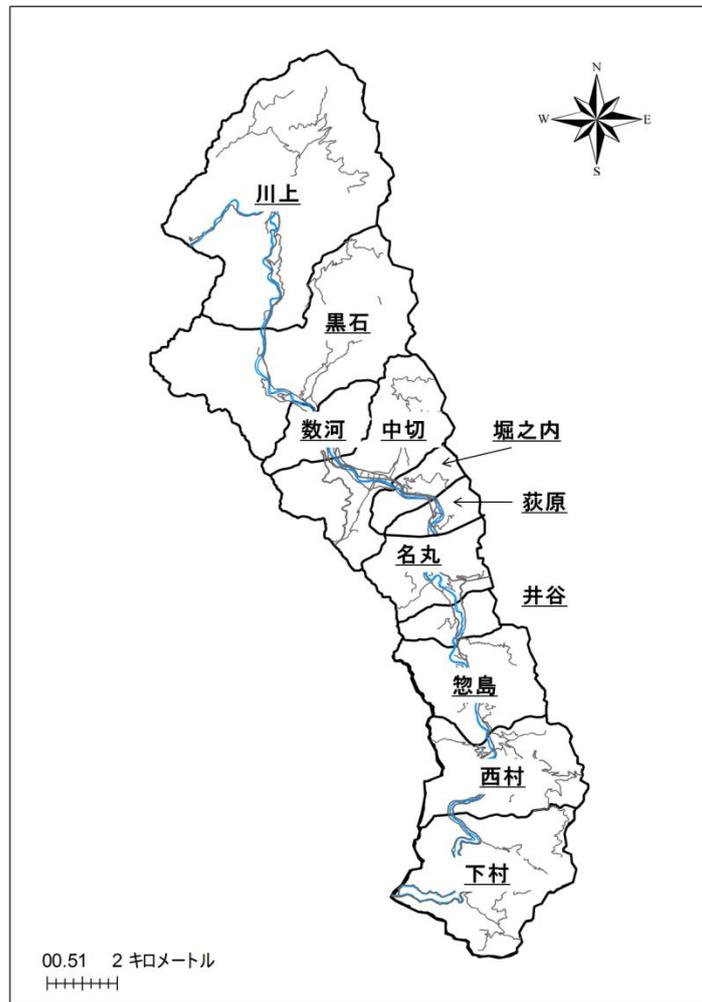


図 3-3 馬瀬地域

¹⁰ 下山は、1966年着工／1976年竣工の岩屋ダム設置に伴い廃村となっている。

3-2-2 調査対象者の概要

(1) 参与観察の目的

参与観察では、WWOOFerの活動の詳細を明らかにし、WWOOFerが地域に関わる形を明らかにするために、ホスト、WWOOFer、地域住民の3対象を広く観察した。とりわけWWOOFerに着目し、自らの活動の記録に加え、滞在が重複したWWOOFerの活動を観察し、各人が滞在期間中に行った活動を整理した「WWOOFer滞在ログ」を作成した。また、活動や滞在場所を地域住民の交流内容と共に「WWOOFerログマップ」として地図化した。

本調査における地域住民は下呂市住民とし、下呂市外在住でホスト活動関係者を活動関係者とし、後述するヒアリング調査対象とした。

(2) 参与観察期間と主要観察対象

調査は、類型③地域活動マンパワー型に分類されるホストAさんと、類型④地域活動スキル型に分類されるホストB夫妻の元で行った。Aさんのところでは2回（各約1週間）、ホストB夫妻のところでは1回（約2週間）、全3回行った。Aさんは2016年夏に参加型の大きなアートイベントを行っているため、イベント非開催時（通常時）とイベント開催時に1回ずつ調査を実施したためである。

滞在が重複したWWOOFerは、Aさんの元での第1回調査では2人、第2回調査では1人、Bさんの元では2人であった。またBさんの元では、かつてBさんのもとでWWOOF体験をし、再度訪れWWOOF同様の活動をしている元WWOOFerが3人おり、彼らも観察対象とした。

表 3-2 参与観察調査者および概要

ホスト		②地域活動マンパワー型:Aさん	④地域活動スキル型:Bさん
ホスト事業		半農半アーティスト	自然体験アドベンチャー、異文化教室運営
調査期間		①2016年5月1日～6日(6日間) ②2016年8月6日～8月13日(8日間)	2016年8月14日～8月28日(15日間)
観察対象	滞在が重複した訪日WWOOFer数	①2人、②1人	2人
	滞在が重複した元WWOOFer数	×	3人
使用言語		英語(初級)、タイ語(初級)	英語(上級)、フランス語(上級)、ドイツ語(初級)

(3) ヒアリング調査の目的

参与観察期間で把握できない点を補完し、WOOOFerに対する地域住民の反応やWOOOF受入による地域に与える影響を明らかにするために、WOOOFer、ホストおよび地域住民、また活動関係者に対して、ヒアリング調査を行った。

(4) ヒアリング調査と結果

ホスト、WOOOFer、地域住民、活動関係者の全4対象にインタビューを行った。

ホストに対しては、WOOOF活動、また地域活動との関連性に関して1対1のナラティブ(物語)・インタビューと、日々の作業の隙間時間および食事時間などでの会話形式のインフォーマル・インタビューを行った。

WOOOFerに対しては、インタビュー用紙¹¹記入してもらいつつ、記入された回答に対して詳細を尋ねるナラティブ・インタビューを行った。また滞在が重複しているWOOOFerに対しては、協同作業時、食事中のインフォーマル・インタビューを行った。

地域住民や行政に対しても、ナラティブ・インタビューを行った。地域祭りや送迎会時に一緒になった地域住民には、インフォーマル・インタビューも実施した。

下呂市外在住で、ホストと交友があり、ホストの活動に参画している人々を活動関係者とし、ナラティブ・インタビューおよびインフォーマル・インタビューを行った。B夫妻の元で、WOOOFer同様、作業対価型滞在システムを使用している活動関係者には、WOOOFer同様のインタビュー用紙を使用し、インフォーマル・インタビューを実施した。

その結果、ホスト2人、WOOOFer7人、かつてWOOOFでホストを訪れ再訪した訪日外国人(元WOOOFer)3人、下呂市内地域住民21人、地域活動関係者3人から話を聞くことができた。

¹¹ 巻末資料3-1として、掲載している。

表 3-3 観察対象およびインフォーマンツリスト

属性	氏名	年代	住所	備考
ホスト	Aさん	60代	下呂市馬瀬地域中切	ホスト歴8年
	Bさん	50代	下呂市馬瀬地域惣島	ホスト歴5年、事業場所は西村
	B'さん	40代	下呂市馬瀬地域惣島	同上、Bさんの奥さん、事業場所は西村
WWOOFer	A-1さん	20代	アメリカ	AさんWWOOFer
	A-2さん	30代	シンガポール	AさんWWOOFer
	A-3さん	30代	ポルトガル	AさんWWOOFer
	A-4さん	20代	ポルトガル	AさんWWOOFer、インタビューのみ
	A-5さん	20代	トルコ	AさんWWOOFer、インタビューのみ
	B-1さん	30代	シンガポール	BさんWWOOFer
	B-2さん	20代	アメリカ	BさんWWOOFer
	B-3さん	30代	フランス	BさんWWOOFer、再訪者
	B-4さん	30代	フランス	BさんWWOOFer、再訪者
	B-5さん	20代	フランス	BさんWWOOFer、再訪者
地域住民	Cさん	推定50代	下呂市馬瀬地域中切	Aさんの幼馴染
	Dさん	60代	下呂市馬瀬地域中切	Aさんとイベント共催
	D'さん	推定30代	下呂市馬瀬地域中切	Dさん娘、地元美術教師
	Eさん	70代	下呂市馬瀬地域中切	BさんとNPO運営、NPO代表理事
	Fさん	推定50代	下呂市馬瀬地域西村	Bさん職場近くでカフェ運営
	Gさん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	萩原地域元区長
	G'さん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	Gさん奥さん
	Hさん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	Gさん友人
	Iさん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	萩原地域現区長
	Jさん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	Iさんご友人
	Kさん	推定40代	下呂市馬瀬地域西村	旧事務所となり、留学経験あり
	Lさん	推定60代	下呂市馬瀬地域西村	Gさん友人
	Mさん	推定50代	下呂市馬瀬地域西村	萩原地域移住者
	M'さん	推定50代	下呂市馬瀬地域西村	Mさん奥さん
	Nさん	推定90代	下呂市馬瀬地域西村	萩原地域歩行者
	Oさん	推定70代	下呂市馬瀬地域堀之内	d地区オートキャンプ場経営
	O'さん	推定70代	下呂市馬瀬地域堀之内	Oさん奥さん
	Pさん	80代	下呂市萩原地域	Bさん職場関係者
	Qさん	50代	下呂市萩原地域	Aさん、B・B'さん友人、地域誌編集者
	Rさん	20代	下呂市萩原地域	Aさん、B・B'さん友人
Sさん	50代	下呂市下呂地域	Aさん、B・B'さん友人	
Tさん	推定40代	下呂市金山地域	下呂市馬瀬地域振興課	
Uさん	40代	下呂市萩原地域	下呂市観光課	
Vさん	20代	下呂市馬瀬地域惣島	馬瀬地域の地域おこし協力隊	
Wさん	推定60代	下呂市	馬瀬地域観光協会長	
Xさん	推定40代	下呂市	萩原地域高校社会科教師	
Yさん	60代	下呂市	萩原地域高校美術科教師	
活動関係者	A-1さん	30代	東京都	Aさんイベント時に参加したアーティスト
	B-1さん	20代	愛知県	Bさんの事業を支えるボランティア
	B-2さん	30代	滋賀県	Bさんの事業を支えるボランティア

3-3 地域活動マンパワー型 WWOOF 活用ホストの事例調査

3-3-1 ホスト A さんの元での WWOOF 活用の概要

(1) ホスト A さんの本業における WWOOF 活用

ホスト A さんは下呂市馬瀬地域中切地区に住む、半農半アーティストである。

A さんは、同地区の農家に生まれ、20 代で大阪の人形劇団に所属し、その後タイで国際関連の NGO に勤務し、1998 年に U ターンしてきた。

本業としては、「半農」として私有地及び共同農園にて自然農法による自家消費用の畑作業を行い、同時にアーティスト活動として、ひょうたんランプの製作やセルフビルド建設を行っており、これらの両活動において、WWOOF を活用している。



図 3-4 ホスト A さんのもとでの WWOOF 活動

【左：農作業の様子、右：セルフビルド建築（両者筆者撮影）】

(2) ホスト A さんの地域活動における WWOOF 活用

農業やアーティスト活動の傍ら、アーティスト活動を拡大させたものとして、「野原のプロジェクト」を実施している。「自然との共生、アート、手作り」をコンセプトに、私有地や地域の耕作放棄地にて、家づくりや庭造りを行うものであり、この活動にも WWOOF を活用している。

同時に製作そのものを参加型ワークショップとしており、プロジェクトに興味のある地域住民やホスト A さんの地域外の友人が訪れ、ホスト A さんおよび WWOOFer と一緒に作業をしている。また不定期にセルフビルドの建物や庭にて、コンサートや人形劇、キャンドルナイトなどのパフォーマンスを行うアー

トイベントを開催し、地域内外の人々が集う交流の場となっている。

「野原のプロジェクト」のホームページには以下のように「野原のプロジェクト」を説明している。

「野原のプロジェクト」とは、過疎化が進む田舎にミュージアムを作りたい！田舎だからこそできるミュージアム。その場所の自然景観、空気や青空、水の音、空の鳥さえも含めたそこにしかないミュージアムを作ろう！

（中略）山里の休耕地¹²を利用して「自然との共生、アート、手作り」というコンセプトの元、地元の子供を含めた住人と趣旨に賛同する各地からの参加者と家造り庭造りの専門家やアーティストとの共同作業で、2009年5月より「野原のミュージアム」を作り始めています。

みなさんの時間の許す範囲で集まり、ゆっくりとしたペースでコツコツとセルフビルドしています。自分の手で作るという創造的体験を通して、持続可能な自然と調和した暮らし、人と人、人と自然とのつながりの大切さの思いを深めていければと思います。そして、この場所が私たちが未来の子ども達に伝えていくべき大切なものを発見できる場となることを願っています。

多くの方の参加をお待ちしています。そして、新しい出会いと人の輪が広がることを楽しみにしています。

Aさんは、始まりは自分の家を自分で建てたかったという気持ちからプロジェクトは始まったが、パフォーマーとして活躍していた経験から、人を喜ばせたい、笑わせたいと自然に考えることが多く、いつのまにか参加型のプロジェクトとして進行することになった、と話していた。

（3）ホスト A さんの WWOOF の受入実態

ホスト Aさんは、2009年、上述した「野原のプロジェクト」のマンパワーを確保するために WWOOF のホストの登録を行い、現在ホスト 8 年目である。

Aさんの言語能力は、母国語として日本語、初級英語、初級タイ語である。

¹² 原文のまま。

受入期間は主に、4月～11月である。年間に約50人のWWOOFerを受入れており、その多くが、海外からのWWOOFerで占められている。実際に、2015年では、45人を受入れ、45人中43人が訪日WWOOFerであった。訪日WWOOFerの中で最も多い国籍はタイであり、これはホストAさんが過去にタイで1年間の滞在経験があり、初級タイ語を話すためと考えられる。

図3-6で示しているように、WWOOF受入期間中はほぼ毎日のように、WWOOFerを受け入れており、とりわけ夏季に受入が集中し、多い時は5人以上のWWOOFerを同時に受け入れていた。日々のAさんの活動にWWOOFerの作業が欠かせないことがうかがえる。

WWOOFerは、基本的に滞在中は、Aさん実家とWWOOFerハウス¹³を行き来し、WWOOFerハウスで寝泊まり、朝食をとり、Aさん実家にて昼食、夕食、入浴をしている。



図3-5 野原のプロジェクトの様子

野原通信（「野原のプロジェクトホームページより」）

¹³ WWOOFerが滞在する施設。多くのWWOOFerを同時期に受け入れるホストはWWOOFer専用の滞在施設を設けることが多い。

表 3-4 ホスト A さんの WWOOFer 受入概要 (数値は 2015 年のもの)

ホスト	②地域活動マンパワー型:Aさん
年間受入WWOOFer数	49人
年間受入滞在延べ日数	510日
訪日WWOOFer滞在平均日数	11.7日間
WWOOFer受入期間	4月～11月(12月～3月は日本語話者のみ)
使用可能言語	日本語(母国語)、英語(初級)、タイ語(初級)
受入宿泊環境	Aさん実家、AさんWWOOFerハウス

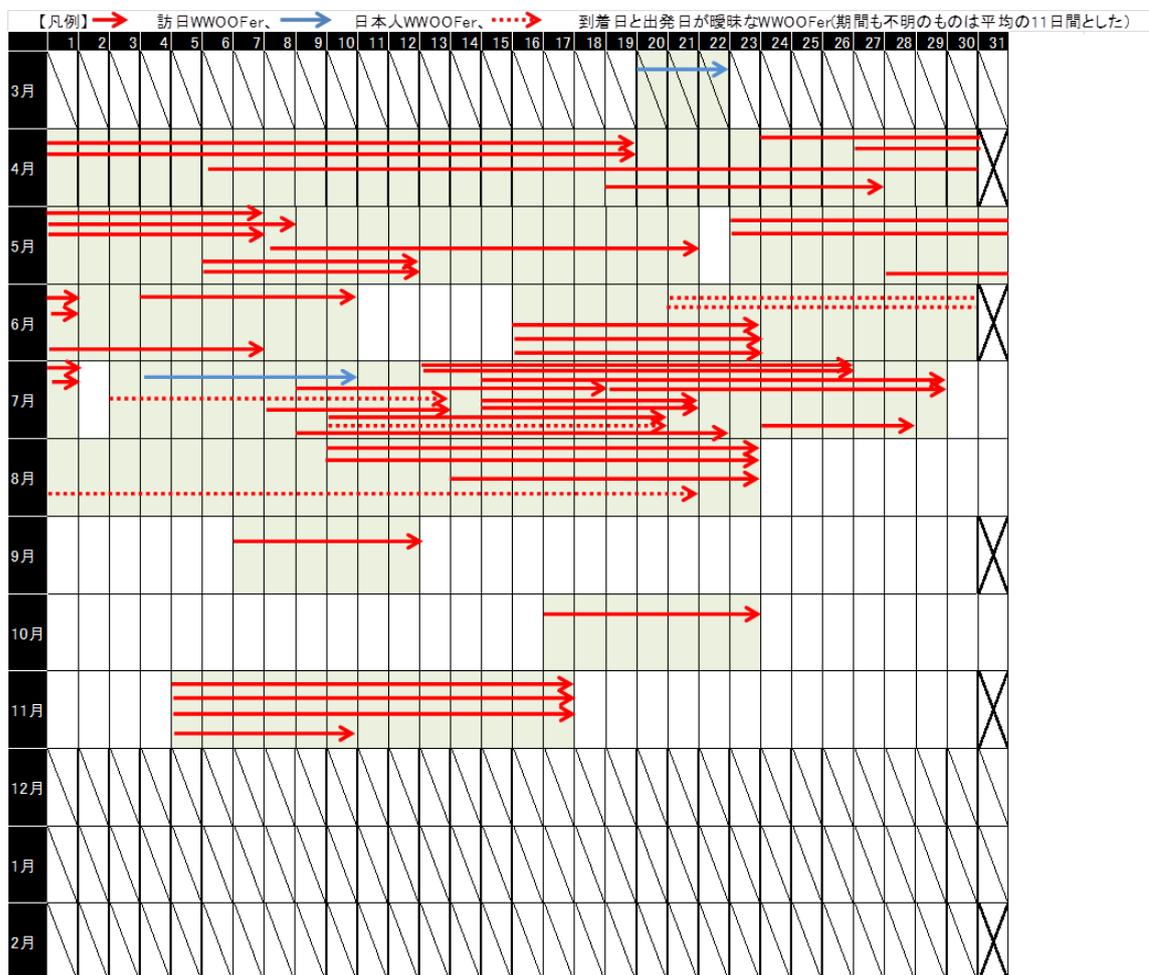


図 3-6 ホスト A さんの 2015 年の WWOOFer 受入状況
(ホスト A さんの WWOOFer 受入表より筆者作成)

3-3-2 ホスト A さんの元での WWOOFer の活動と地域との関わり

ホスト A さんの元で WWOOFer がどのような活動をしているのか、そして地域との関わりを明らかにするために、A さんの元で筆者自ら、WWOOF 活動を行ない、参与観察を行った。滞在中の地域向けイベントの有無により、WWOOFer と地域との関わり方が異なると考え、調査はイベント非開催時（通常期）と、イベント開催時の全 2 回行った。

1 回目では、2016 年 5 月 1 日～2016 年 5 月 6 日の全 6 日間、また 2 回目では 2016 年 8 月 6 日～14 日の間 9 日間、観察をした。

(1) イベント非開催時（通常時）における WWOOFer の活動実態

◆滞在が重複した WWOOFer について

イベント非開催時では、2 人の訪日 WWOOFer と滞在を一緒にした。WWOOFerA-1 は、シンガポール人であり、日常会話程度の日本語話す。筆者同様 2016 年 5 月 1 日～5 月 6 日の全 6 日間の WWOOF 活動をした。WWOOF の参加目的としては、農作業への興味と田舎体験である。WWOOFerA-2 は、アメリカと日本の両国籍を保有しているが、普段はアメリカで生活をし、上級日本語を話す。2016 年 4 月 18 日～5 月 4 日の全 17 日間の WWOOF 活動をした。WWOOF の参加目的としては、日本語の向上と日本日常体験および田舎体験である。

◆滞在中の WWOOF 活動

A) WWOOF 体験中の作業について（図 3-7 参照）

通常時の WWOOFer の主な活動は、ホスト A さんの本業となる畑作業と、地域活動となる建物づくりと庭造りであった。

畑作業では公共農園で A さんが借用しているイチゴ畑の草刈りと、A さん自宅私有地にある家庭菜園用の菜の花の伐採を行っていた。

建物づくりでは、A さん自宅私有地の当時建設中のアースバックドーム周囲の整備を行っていた。庭造りでは、A さんが耕作放棄地であった地域住民 D さんの田んぼを借用し、娘の D'さんの美術作品の青空展示も兼ねている花畑「フラワーガーデン」の草ぬきをしていた。

【凡例】赤：地域住民との交流および地域活動

日程	調査①Aさん(イベントなし)				
	筆者調査①		WOOFerA-1	WOOFerA-2	
	到着日	2016/5/1	2016/4/18	2016/3/1	
	出発日	2016/5/6	2016/5/4	2016/3/6	
	滞在期間	6日間	17日間	6日間	
出身国	日本	シンガポール	アメリカ(日本国籍保有)		
日本語	○	○	○		
18日			1日目		
19日			2日目		
20日			3日目		
21日			4日目		
22日			5日目		
23日			6日目		
24日			7日目		
25日			8日目		
26日			9日目		
27日			10日目		
28日			11日目		
29日			12日目	ホストの同窓会に同行、地域住民と酒盛り	
30日			13日目		
5月1日	1日目	夕方、Aさん実家到着 帰省してAさん家族や親せきと談笑 Aさん実家で晩御飯準備 ホストと晩御飯、ホスト家族の元で入浴 フリータイム(ネット/ホスト、WOOFer、ホスト家族や親せきと談笑) WOOFerハウスに移動、就寝	14日目	1日目	夕方、Aさん実家到着 帰省してAさん家族や親せきと談笑 Aさん実家で晩御飯準備 ホストと晩御飯、ホスト家族の元で入浴 フリータイム(ネット/ホスト、WOOFer、ホスト家族や親せきと談笑) WOOFerハウスに移動、就寝
2日	2日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 他の地元の共同農園利用者と談笑 Aさん実家に移動、Aさんと昼食 昼休憩: 実家で昼寝、身体を休ませる 午後の仕事 : 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り Aさん実家移動、Aさん家族や親せきと晩御飯 Aさん家族や親せきと地元の温泉に行く WOOFerハウスに移動、就寝	15日目	2日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 12日の同窓会であった人と遭遇、談笑 Aさん実家に移動、Aさんと昼食 昼休憩: 実家で昼寝、身体を休ませる 午後の仕事 : 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り Aさん実家移動、Aさん家族や親せきと晩御飯 Aさん家族や親せきと地元の温泉に行く WOOFerハウスに移動、就寝
3日	3日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : 共同農園のAさんのイチゴ畑で草刈り 地元のアマゴ釣り大会の見学 Aさん実家へ移動、Aさんと昼食 昼休憩: 実家で昼寝、体を休ませる 午後の仕事 : Aさん実家の私有地にあるアースバックドームの外装整備(周囲の芝生づくり) Aさん実家にてAさん家族と晩御飯 WOOFerAのインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝	16日目	3日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : 共同農園のAさんのイチゴ畑で草刈り 地元のアマゴ釣り大会の見学 Aさん実家へ移動、Aさんと昼食 昼休憩: 実家で昼寝、体を休ませる 午後の仕事 : Aさん実家の私有地にあるアースバックドームの外装整備(周囲の芝生づくり) Aさん実家にてAさん家族と晩御飯 筆者とインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝
4日	4日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : Aさん実家家庭菜園にて菜の花の伐採 Aさん家族と昼食 昼休憩: 実家で昼寝、体を休ませる 午後の仕事 : Aさん実家家庭菜園にて菜の花の伐採、きゅうりの支柱製作 Aさん実家にてAさん家族と晩御飯、入浴 Aさんにインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝	17日目	4日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 早朝より帰路に向けて出発 午後の仕事 : Aさん実家家庭菜園にて菜の花の伐採、きゅうりの支柱製作 Aさん実家にてAさん家族と晩御飯、入浴 Aさんにインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝
5日	5日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : Aさんのフラワーガーデン整備 Aさん実家移動、Aさん家族と昼食 昼休憩: 実家で昼寝、体を休ませる 午後の仕事 : Aさんのフラワーガーデン整備 フラワーガーデンの所有者である地域住民Dさん家族の散歩に遭遇、Dさんと談笑 Aさん実家にてAさん家族と晩御飯、入浴 ホストBさん来訪、ホストBさんインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝		5日目	WOOFerハウスにて起床、朝ごはん 午前の仕事 : Aさんのフラワーガーデン整備 Aさん実家移動、Aさん家族と昼食 昼休憩: 実家で昼寝、体を休ませる 午後の仕事 : Aさんのフラワーガーデン整備 フラワーガーデンの所有者である地域住民Dさん家族の散歩に遭遇、Dさんと談笑 Aさん実家にてAさん家族と晩御飯、入浴 ホストBさん訪問、ホストBさんインタビュー WOOFerハウスに移動、就寝
6日	6日目	WOOFerハウスにて朝食 早朝より帰路に向けて出発		6日目	WOOFerハウスにて朝食 早朝より帰路に向けて出発

図 3-7 ホスト A さん通常時の WOOFer 滞在ログ



図 3-8 ホスト A さん通常時の作業の様子

【上：公共農園での作業、下左：庭づくりの作業場所、
下右：A さん私有地での畑作業（全て筆者撮影）】

B) 地域との関わりについて（図 3-7、図 3-9 参照）

ホスト A さん通常時では、WOOFFer が地域と関わる形として、以下の形を観察することができた。い) WOOFFer の活動／滞在地を地域住民が訪れる形である。

図 3-7 で記した赤字が、地域住民との関わりがあった内容であり、4~5 日間の筆者調査時には、A さんの「野原のプロジェクト」の作業に携わる人はおらず、ホストの地域活動を介して WOOFFer が地域住民と関わることはほとんどなかった。しかし公共農園の作業時に、同じく公共農園で作業をし始めた他利用者と談笑したり、オープンガーデンでの作業時に、オープンガーデンの所有者が散歩に訪れ、談笑したりするなど、地域住民が WOOFFer の活動場所に訪れることで関わりが生まれていた。一方で、地域住民が WOOFFer の活動／滞在場所や訪れる目的は、WOOFFer と出会うことではないため、簡単な挨拶などに終わることが多かった。

また WOOFFerA-2 は、ヒアリング調査時に地域住民との関わりについて、「ゴールデンウィークの初めに、ホスト A が村の多くの人が集まる晩さん会(ホ

スト A さんの同窓会)に僕を招待してくれたんだ。みんなすごい親切だったよ。
 (筆者翻訳、()内筆者補填)」と述べていた。またその同窓会で一緒になった
 一人が公共農園の近くを通りがかった際に、WOOOFerA-2 に声をかけ応援し
 ている様子が、調査中に観察された。

このことから、WOOOFer が地域と関わる形として、ろ) ひらかれた場に地
 域住民と WOOOFer が集う形、があると考える。ホストが WOOOFer を同窓
 会という地域住民の集まる場に連れていくことで、WOOOFer と地域住民との
 関わりがうまれていた。

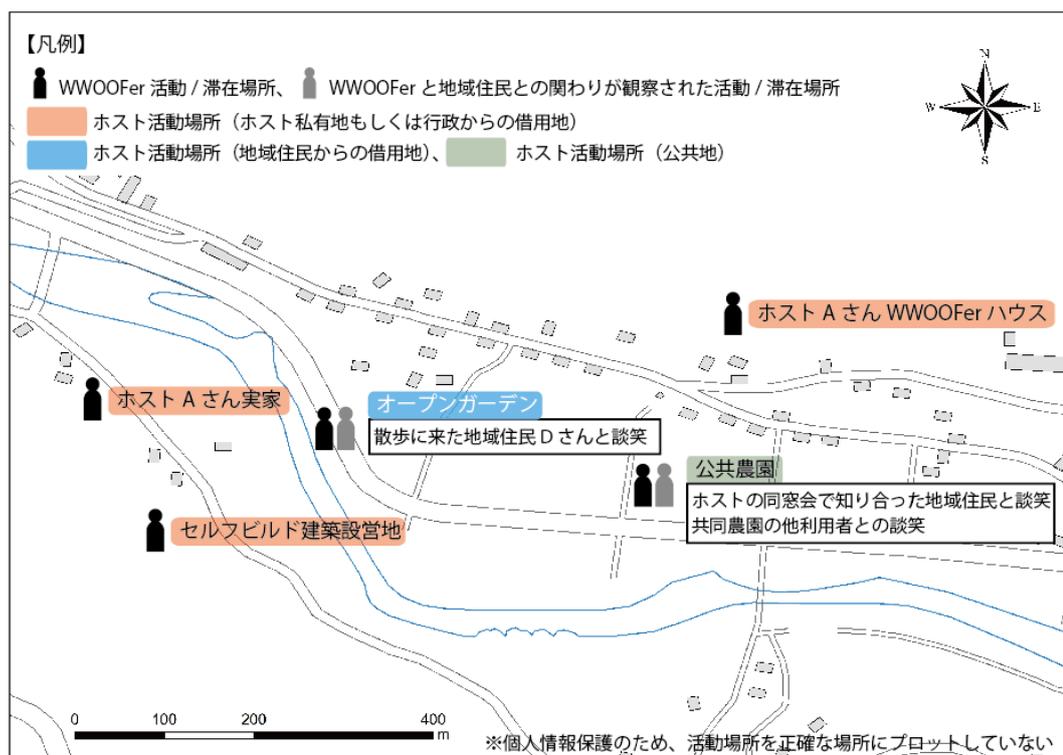


図 3-9 A さん通常時 WOOOFer ログマップ (中切地区)



図 3-10 ホスト A さん通常時の
 地域との関わりの様子
 【オープンガーデンの美術品を訪
 れる地域住民 D さん家族
 (筆者撮影)】

(1) イベント開催時における WWOOFer の活動実態

◆イベント概要

ホスト A さんは 2016 年 7 月 17 日～8 月 14 日の間「Art Gig」と称したアートイベントを開催した。ホスト A さんと、娘が地元美術教員である地域住民 D さん、地元高校の美術教員である地域住民 Y さんが中心となって開催したアートイベントである。

これはホスト A さんの約 2 年越しに完成したアースバックドームのお披露目会および、各地からアーティストを呼び寄せ、馬瀬地域中切での滞在製作や、パフォーマンス、アート製作ワークショップ（以下、WS）を開催するイベントである。

調査時に関わったアーティストは、下呂市内と地域外から参加しており、下呂市内から 3 人、地域外から 5 人の全 8 人であり、地域外アーティスト 5 人と地域内アーティスト 1 人は中切地区公民館で WWOOFer と一緒に滞在した(以下これら 6 人のアーティストを「滞在アーティスト」、また地域外アーティストのみの場合は「地域外滞在アーティスト」とする)。



図 3-11 アートイベント ArtGig の様子

【左：Art Gig イベントちらし、
 右上：色の WS の様子、右下：石の WS の様子（両者、筆者撮影）】

【凡例】赤:地域住民との交流、緑:その他特殊事例(筆者インタビュー同行による関わり)			
調査②Aさん(地域イベント開催時)			
地域イベントの進行		筆者調査②	WWOOFerA-3
		到着日	2016/8/6
		出発日	2016/8/14
		滞在期間	9日間
		日本語	○
5日	石彫家の滞在制作開始		1日目 到着、午後:セルフビルド建築の補修、地区公民館宿泊
6日		1日目 朝方、地区公民館到着 Aさん私有地にあるセルフビルド建築の補修アーティスト向け昼食準備 Aさん、滞在アーティストと昼食 フリータイム WWOOFerA-3と馬瀬川にて遊泳、インタビュー 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ有 Aさん実家にて入浴 滞在アーティストと一緒に談笑、酒盛り 地区公民館にて就寝	2日目 朝方、地区公民館到着 Aさん実家私有地にあるセルフビルド建築の補修アーティスト向け昼食準備 ホスト、滞在アーティストと昼食 フリータイム 筆者と馬瀬川にて遊泳、インタビュー 午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ有 Aさん実家にて入浴 滞在アーティストと一緒に談笑、酒盛り 地区公民館にて就寝
7日	石のWS開催 色のWSアーティスト(活動関係者A-1さん)到着	2日目 地域公民館にて起床、朝食 アーティスト向け朝食を準備 午前:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 石のWS見学 アーティスト向け昼食準備、ホストと滞在アーティストと昼食 フリータイム: WWOOFerA-3と馬瀬川にて遊泳、午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、温泉 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ Aさん、地域住民運営スタッフ、差し入れてサポートする地域住民、地域ノ滞在アーティストと一緒に交流会 地区公民館にて就寝	3日目 地域公民館にて起床、朝食 アーティスト向け朝食を準備 午前:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 石のWS見学 アーティスト向け昼食準備、ホストと地域外滞在アーティストと昼食 フリータイム: 筆者と馬瀬川にて遊泳、午後:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 地区公民館にて夕食の準備、温泉 アーティスト滞在用に地域住民からの差し入れ Aさん、地域住民運営スタッフ、差し入れてサポートする地域住民、地域ノ滞在アーティストと一緒に交流会 地域住民Dさんの自宅に招待、Dさん宅紹介およびDさん宅にてオリンピック観戦 地区公民館にて就寝
8日	色のアーティスト(活動関係者A-1さん)滞在制作開始 萩原町地域祭り	3日目 地区公民館にて朝食、朝食準備 早朝:Aさん私有地にあるセルフビルド建築の概観補修、アーティストの昼食準備、一緒に昼食 フリータイム: 滞在制作の様子見学、滞在アーティストと談笑、Aさん実家で身体を休ませる、日本人再訪 WWOOFerの訪問に伴い談笑 夕方: 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 交流会で一緒だった地域住民Cさんから差し入れ 地区公民館にて夕食の準備、Aさん実家にて入浴、Aさん、滞在アーティストと夕食 隣町萩原の地域祭り訪問 ホスト友人の地域住民に遭遇、談笑 地区公民館にて就寝	4日目 地区公民館にて朝食、朝食準備 早朝:Aさん私有地にあるセルフビルド建築の概観補修、アーティストの昼食準備、一緒に昼食 フリータイム: 滞在制作の様子見学、滞在アーティストと談笑、Aさん実家で身体を休ませる、インターネット利用 日本人再訪WWOOFerの訪問に伴い談笑 午後の仕事 :共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 交流会で一緒だった地域住民Cさんから差し入れ 地区公民館にて夕食の準備、Aさん実家にて入浴、Aさん、滞在アーティストと夕食 隣町萩原の地域祭り訪問 ホスト友人の地域住民に遭遇、談笑 地区公民館にて就寝
9日	線のWSアーティスト到着	4日目 地区公民館にて朝食、朝食準備 早朝:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り アーティスト昼食準備、滞在アーティストと一緒に昼食 フリータイム: :滞在制作の様子見学、地域外滞在アーティストと談笑、身体を休ませる、インターネット利用 夕方: 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 滞在アーティスト用の晩御飯準備、温泉 滞在アーティストと夕食、酒盛り 地区公民館にて就寝	5日目 地区公民館にて朝食、朝食準備 早朝:共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り アーティスト昼食準備、滞在アーティストと一緒に昼食 フリータイム: :滞在制作の様子見学、滞在アーティストと談笑、身体を休ませる、インターネット利用 夕方: 共同農園にあるAさんのイチゴ畑で草刈り 滞在アーティスト用の晩御飯準備、温泉 滞在アーティストと夕食、酒盛り 地区公民館にて就寝

10日	線のWS アーティスト 滞在製作開始 萩原地区 地域祭り	5日目	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:Aさん実家私有地にてお披露目パーティの横 断幕の設置、昼食準備、滞在アーティスト用昼食準 備、滞在アーティストと昼食 フリータイム: 滞在製作の様子見学、 地域外滞在アーティストと談笑、 インターネット利用 午後: Aさん実家にてピザ生地づくり、 パーティ現場に移動し、設営準備 地区公民館にて夕食の準備、Aさん実家にて入浴、 Aさん、滞在アーティストと夕食 隣町萩原の地域祭り訪問 ホスト友人の地域住民に遭遇、談笑 地区公民館にて就寝	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:Aさん実家私有地にてお披露目パーティの横 断幕の設置、昼食準備、滞在アーティスト用昼食準 備、滞在アーティストと昼食 フリータイム: 滞在製作の様子見学、 滞在アーティストと談笑、 インターネット利用 午後: Aさん実家にてピザ生地づくり、 パーティ現場に移動し、設営準備 地区公民館にて夕食の準備、Aさん実家にて入浴、 Aさん、滞在アーティストと夕食 隣町萩原の地域祭り訪問 ホスト友人の地域住民に遭遇、談笑 地区公民館にて就寝	
11日	色のWS 線のWS 滞在製作 お披露目 パーティ パフォーマー 到着	6日目	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:Aさん私有地にて、色のWSの会場受付設置 参加者受付、参加者へのお茶出し、 地域公民館にてアーティストの昼食準備 滞在アーティストと滞在アーティストに会いに来た地 域住民Sさんと昼食 午後: 地域住民運営スタッフと一緒に地域公民館にて パーティ用ピザの材料切り出し、プレゼント用花火 の仕分け、パーティ会場にて設営準備 パーティ開始: パーティ参加者に食べ物の振る舞い、パーティ参加 者と一緒に夕食、パフォーマンス見学 パーティ終了後簡単な片づけ 地域住民運営スタッフ、滞在アーティスト、パフォー マーと打ち上げ Aさん実家にて入浴、地区公民館にて就寝	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:Aさん私有地にて、色のWSの会場受付設置 写真撮影 地域公民館にてアーティストの昼食準備 滞在アーティストと滞在アーティストに会いに来た地 域住民Sさんと昼食 午後: 地域住民運営スタッフと滞在アーティストとパーティ 会場設営準備 パーティ開始: パーティ参加者に食べ物の振る舞い、パーティ参加 者と一緒に夕食、パフォーマンス見学 パーティ終了後簡単な片づけ 地域住民運営スタッフ、滞在アーティスト、パフォー マーと打ち上げ Aさん実家にて入浴、地区公民館にて就寝	
12日	石彫家、 パフォーマー 出発	7日目	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:パーティ会場片づけ、設営用品の地元小学 校への返却、地元小学校訪問 Aさん実家にて昼食準備、地域外滞在アーティスト と地域住民Sさんと昼食 午後:地区公民館の片づけ フリータイム、身体を休ませる Aさん実家にて夕食の準備、入浴、 Aさん、地域外滞在アーティストと夕食 地区公民館に移動、就寝	地区公民館にて朝食、朝食準備 午前:パーティ会場片づけ、設営用品の地元小学 校への返却、地元小学校訪問 Aさん実家にて昼食準備、地域外滞在アーティスト と地域住民Sさんと昼食 午後:地区公民館の片づけ フリータイム、身体を休ませる Aさん実家にて夕食の準備、入浴、 Aさん、地域外滞在アーティストと夕食 地区公民館に移動、就寝	
13日	色のWS アーティスト 出発	8日目	Aさん実家に移動、朝食 地域住民Cさんにインタビュー兼白川郷観光 一日地域住民CさんとWOOFerA-3と観光 夕方:Aさん実家に戻る、 キャンドルナイトの準備、点火 夕食準備、Aさんと滞在アーティストと夕食、入浴 地域公民館に戻り、就寝	Aさん実家に移動、朝食 筆者の地域住民Cさんにインタビュー同行 一日地域住民Cさんと筆者と観光 夕方:Aさん実家に戻る、 キャンドルナイトの準備、点火 夕食準備、Aさんと滞在アーティストと夕食、入浴 地域公民館に戻り、就寝	
14日		9日目	早朝よりBさんホストへ移動	Day off	
15日				10日目	Aさん実家の家庭菜園の整備
16日				11日目	Aさん実家の家庭菜園の整備
17日				12日目	オーガニックコットン畑の整備
18日				13日目	地元温泉所有のオーガニックコットン畑の整備 地域の女性と一緒に整備をする
19日				14日目	出発
20日					
21日					

図 3-12 ホスト A さんイベント開催時の WWOOFer 滞在ログ¹⁴

¹⁴ 緑字の活動に関して、地域住民 C さんが「筆者（のインタビュー）がなければ、連れて行っていない」と断りを入れており、本調査において地域住民との交流として認識していない。

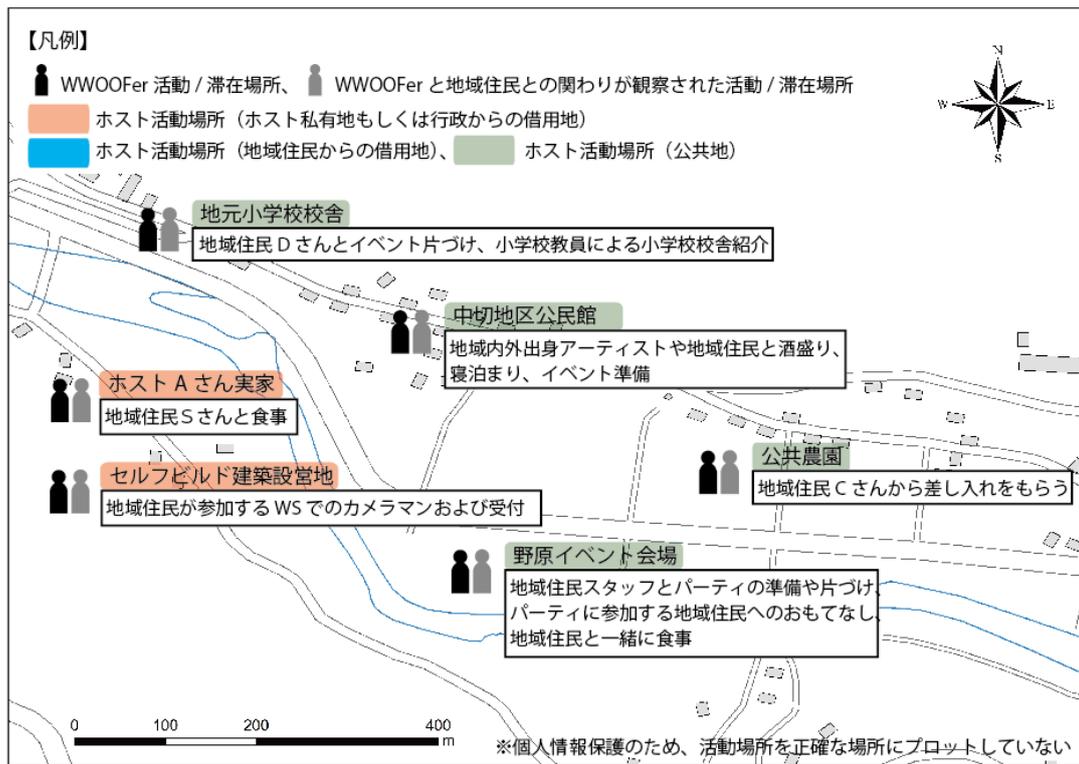


図 3-13 A さんイベント時 WWOOFer ログマップ

◆滞在が重複した WWOOFer について

イベント開催時では、1 人の訪日 WWOOFer、WWOOFerA-3 と滞在を一緒にした。WWOOFerA-1 は、ポルトガル人であり、挨拶程度の極わずかな日本語を理解する。2016 年 8 月 5 日～8 月 19 日の全 15 日間の WWOOF 活動をした。WWOOF の参加目的として、オーガニック農法の学習と、日本の田舎体験を挙げていた。

◆滞在中の WWOOF 活動

A) WWOOF 体験中の作業について

イベント開催時の WWOOFer の主な活動は、ホスト A さんの本業となる畑作業と、地域活動となるアートイベントでの滞在アーティストの滞在サポートおよびイベント準備・補助であった。

畑作業では共同農園で A さんが借用しているイチゴ畑の草刈りを行った。

アーティストの滞在サポートでは、中切地区の公民館でアーティストらと寝泊まりし、彼らの食事準備を行った。またイベント準備・補助では、イベントで使用する横断幕や料理の下ごしらえ、WSの際の受付やカメラマン、および交流イベントパーティ会場での料理提供、会場の片付けを行っていた。



図 3-14 ホスト A さんイベント開催時の WWOOF 活動

【左上：畑作業の様子、右上：パーティ用ピザ生地作りの様子
左下：WS 時の写真撮影の様子、右下：パーティ時の料理提供の様子
(全て筆者撮影)】

B) 地域との関わりについて (図 3-12、図 3-13 参照)

ホスト A さんイベント開催時では、イベント内容が地域向けであったため、全てほぼすべての活動において、地域住民との関わりが観察された。WWOOFer が地域と関わる形として、以下の 2 つの形を観察することができた。い) WWOOFer の活動／滞在地に地域住民が訪れる形、ろ) 公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形である。

い) 関わりの形に関しては、滞在アーティストらに差し入れを持ってきて WWOOFer と酒盛りをした地域住民 C さんや、WS や交流イベントパーティに

訪れた地域住民との関わりや、イベント準備を手伝いにきた地域住民との関わりが例として挙げられる。とりわけイベント開催時は、通常時と異なり、Aさんのイベント運営に携わる地域住民やイベントに参加する地域住民が多くいた。そのため、WOOFerA-3はイベントスタッフとして、参加する地域住民やイベント運営をサポートする地域住民と関わる機会を多くもっていた。その一方で、そこで行われるやり取りは事務的かつ一時的な簡単な挨拶が多く、それは地域住民がWOOFerの活動／滞在地に訪れる理由があくまでイベントやWS等他に目的があり、WOOFerそのものが目的ではないからだと考えられる。

次に、ろ) 関わりの形に関しては、WOOFerが公共の場である公民館に滞在することで、地域内滞在アーティストと寝食を共にした関わりや、ホストAさんがWOOFerを地域住民の集まる地域祭りに連れていき、WOOFerがAさん友人と談笑していた関わりが例として挙げられる。

地域祭りなどでは上述したように、祭りが目的のため、一時的な簡単な挨拶が多く見られたが、1週間寝食を共にした地域内滞在アーティストとは、相互に顔の見える個人として認識している様子がみられた。



図 3-15 WOOFer のイベント開催時の地域との関わりの様子

【左上：萩原祭りの様子、右上：滞在アーティストや地域住民との酒盛、
左下：交流イベントにて地域住民と談笑する様子、
右下：交流イベント時に料理を参加者に渡している様子（全て筆者撮影）】

3章3節を以下のようにまとめる。

Aさんのもとでは、2つの関わりの形が確認された。い) WWOOFerの活動／滞在地に地域住民が訪れる形、ろ) 公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形である。

イベント非開催時の WWOOFer は、Aさんの実家および WWOOFer ハウスと呼ばれる寝泊まり専用の家屋に滞在していた。活動内容に関しては、Aさんの私有地にてイベントに向けたセルフビルド建築の整備および家庭菜園の草刈り、また地域の公共農園にある Aさん借用畑の草刈り、また Aさんが友人より借りている農作放棄地を開拓したオープンガーデンの草刈りを行っていた。

WWOOFer が Aさん私有地で活動する際には、地域住民との関わりを持つことはなかった。しかし地域の公有地もしくは借用地で活動する際には、同じく公有地を利用する地域住民や、借用地に散歩に来た所有者である地域住民と偶発的に関わりを持つことがあった。すなわち、地域住民が WWOOFer の活動している場を訪れる形で、WWOOFer は地域住民と関わりをもっていた。

一方、イベント開催時の WWOOFer は、Aさんの実家と地区公民館を行き来しながら、地域内外から集まったアーティストらと共同生活を送った。活動に関しては、共同農園での草刈り、地区公民館での滞在アーティストの食事準備およびイベント準備、私有地の野原では WS 補佐やイベント準備、野外イベント会場でのイベントスタッフとして準備、当日の進行補佐、片づけ等を行った。通常期とは異なり、活動場所全てにおいて地域住民との関わりが持たれた。イベントにより私有地が一般に積極的に開かれ、WWOOFer はイベントスタッフとして作業をしていたため、イベントに参加する地域住民や同じく手伝いの地域住民と関わりを持っていた。かつ地区公民館にアーティストらと共に宿泊していたことで、アーティストを支援する地域住民らが集い、一緒に食事や宴会をすることが多々あった。すなわち、通常時に見られた、い) 地域住民が WWOOFer の活動している場を訪れる形と、ろ) 公民館など公の場に地域住民と WWOOFer が集う形で、WWOOFer は地域住民と関わりを持っていた。

WWOOFer と地域住民の関わりには、ホストの活動が大きな影響を持っており、活動する場所の性質により、関わりの有無は大きく左右されていることが明らかになった。

3-4 地域活動スキル型 WWOOF 活用ホストの事例調査

3-4-1 ホスト B 夫妻の元での WWOOF 活用の概要

(1) ホスト B 夫妻の本業における WWOOF 活用

ホスト B 夫妻は下呂市馬瀬地域惣島地区に住み、西村地区で環境保全と地域づくりを目指す「NPO 馬瀬川プロデュース」の自然体験アドベンチャー事業「マウンテンライフ飛騨」を営んでいる。

B さんは神奈川県で生まれた後、米国の証券会社勤務を経て、フランスのアルプス山中で 10 年間、ガイドや通訳を行っていた。フランス滞在時に、馬瀬村がフランスの「地方自然公園」の視察のサポートをした縁より、1970 年代に馬瀬に移住し、NPO 馬瀬川プロデュースの事務局運営を担っている。B さんは 2008 年に萩原地区出身で料理人として働いていた B'さんと結婚し、その後は B'さんも馬瀬川プロデュースの事務居運営に携わっている。

マウンテンライフ飛騨は、夏季のみの運営であり、ホスト B 夫妻は 11 月～3 月の間、北海道ニセコに滞在し、B さんはスキーのインストラクターを、B'さんはインストラクター滞在施設での料理人を務める。

本業であるマウンテンライフ飛騨は、「森のニンジャ¹⁵」と沢のぼりの 2 つの自然体験アドベンチャーを提供しており、これらの施設管理・建設およびガイドに WWOOF を活用している。また WWOOFer の語学力を活用して、語学レッスンや語学合宿「プチ留学」プログラムも実施している（図 3-16）。

(2) ホスト B 夫妻の地域活動における WWOOF 活用

ホスト B 夫妻は、ホスト A さんのような地域参加型のプロジェクトを常時行っているわけではない。しかし自らの本業を活かした地元学校向けの沢のぼりの野外授業や、学校に WWOOFer を連れていき母国に関する出張授業を行っている。他にも事務所周辺の草刈り等地域奉仕活動を行っており、これらの活動にも WWOOFer を活用している。

¹⁵ 森林の高所で、命綱をとって空中の障害物を超えていくスリルあるフィールドアスレチック。



図 3-16 ホスト B さんの本業での WWOOF 活動
【左：プチ留学の様子、右：森のニンジャの様子（筆者撮影）】

（3）B 夫妻の WWOOF の受入実態

ホスト B 夫妻は、2012 年より、本業と域内の国際交流をより盛んにするため WWOOF のホスト登録を行い、現在ホスト 5 年目である。B さんの言語能力は、母国語として日本語、上級フランス語、初級ドイツ語であり、妻の B'さんは、母国語として日本語、中級英語、初級フランス語を話す。

受入期間は主に、5 月～11 月である。年間に約 8.6 人の WWOOFer を受入れており¹⁶、その約 9 割が海外からの WWOOFer で占められている。実際に 2015 年では 4 人の WWOOFer を受入れ、全員が訪日 WWOOFer であった。歴代の訪日 WWOOFer の中で最も多い国籍はフランスであり、これはホスト B さんが過去にフランスで 10 年間の滞在経験があり、上級フランス語を話すためと考えられる。

受入期間中はほぼ毎日 WWOOFer を受け入れている。また B 夫妻のもとでは、かつて WWOOF 体験をし、再度訪れ WWOOF 同様の活動をしている訪日外国人である元 WWOOFer が多く確認された。元 WWOOFer がいるため、新規 WWOOFer を多くとる必要がなくなっている（図 3-17）

WWOOFer の滞在中は、基本的に中切地区にある WWOOFer ハウスで宿泊し、日中は西村地区にあるマウンテンライフ飛騨の事務所で活動する。

¹⁶ ホスト開始 2012 年～2016 年の、再訪 WWOOFer を含めた各年受入 WWOOFer 数の平均値である。

表 3-5 ホスト B 夫妻の WWOOFer 受入概要 (数値は 2015 年のもの)

ホスト	②地域活動スキル型: Bさん
年間受入 WWOOFer 数	4人
年間受入元 WWOOFer 数	3人
年間受入滞在延べ日数	512日
訪日 WWOOFer 滞在平均日数 (元 WWOOFer 含む)	53.6日間
WWOOF 受入期間	5月～11月 (11月半ば～5月は B 夫妻馬瀬不在)
使用可能言語	日本語(母国語)、英語(上級)、フランス語(上級)、ドイツ語(初級)
受入宿泊環境	B 夫妻宅、B 夫妻 WWOOFer ハウス、事務所

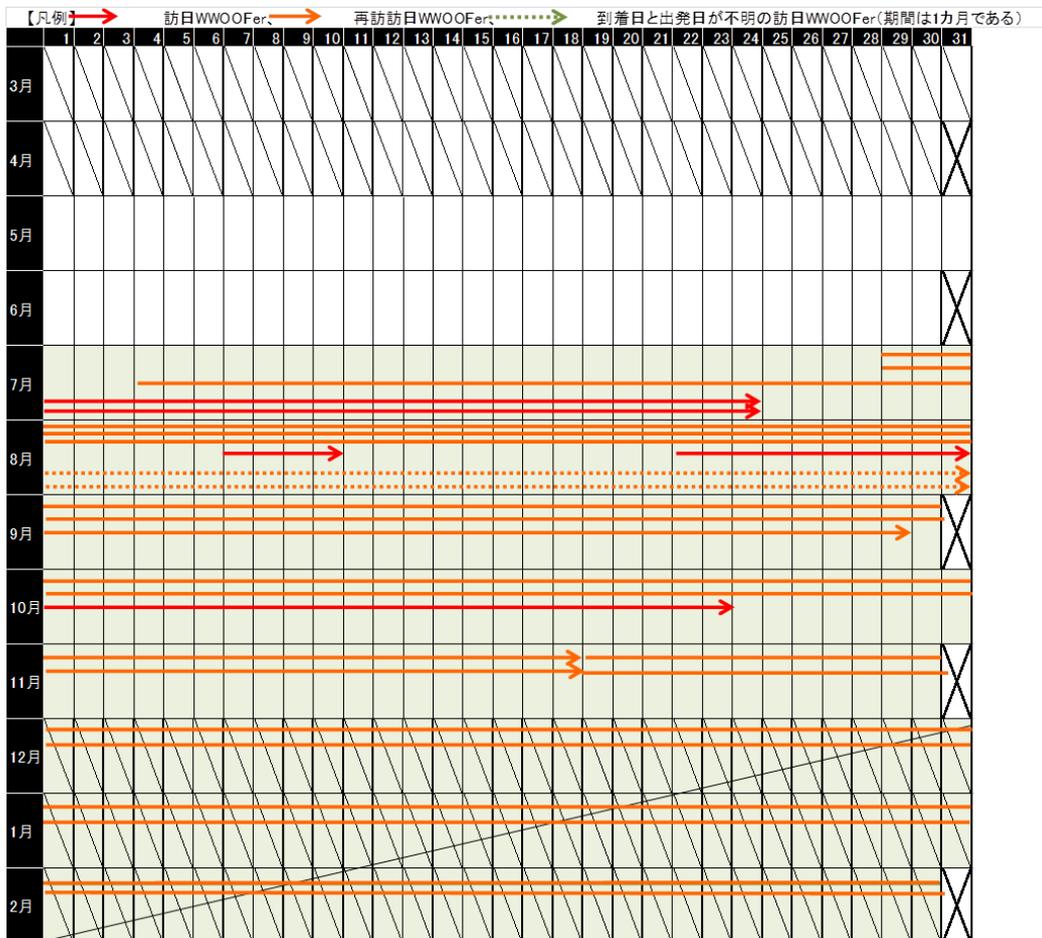


図 3-17 ホスト B 夫妻の 2015 年の WWOOFer 受入状況
(ホスト B 夫妻の WWOOFer 受入表より筆者作成)

3-4-2 ホスト B 夫妻の元での WWOOFer の活動と地域との関わり

(1) ホスト B 夫妻における WWOOFer の活動実態

◆滞在が重複した WWOOFer について

ホスト B 夫妻のもとでは、2 人の訪日 WWOOFer、WWOOFerB-1 と WWOOFerB-2、および 3 人の元 WWOOFer、WWOOFerB-3、WWOOFerB-4、WWOOFerB-5 と滞在を一緒にした。

WWOOFerB-1 は、シンガポール人であり、日常会話程度の日本語を話す。筆者同様 2016 年 8 月 14 日～8 月 28 日の全 15 日間の WWOOF 活動をした。

WWOOFerB-2 は、アメリカ人であり、挨拶程度の日本語を話す。2016 年 5 月 31 日～8 月 16 日の全 18 日間の WWOOF 活動をした。WWOOFerB-2 は、当初 1 カ月の滞在予定であったが、マウンテンライフ飛騨を気に入り、観光ビザで滞在できる期日まで滞在を伸ばした。

元 WWOOFerB-3 は、フランス人であり、上級日本語を話す。2013 年に B 夫妻の元で WWOOF 活動をして以来、毎年 B 夫妻のもとを訪れ WWOOF 同様の活動をしており、本調査時は 4 回目の活動であった。2016 年 7 月 21 日～9 月 28 日の全 70 日間、活動をした。

元 WWOOFerB-4 は、フランス人であり、上級日本語を話す。2014 年に B 夫妻の元で WWOOF 活動をした後に、2015 年夏に B 夫妻を再訪し、そこから 1 年間馬瀬地域に滞在した（2015 年 7 月 29 日～2016 年 8 月 21 日の 390 日間）。本調査時には 3 回目の活動であった。

元 WWOOFerB-5 は、元 WWOOFerB-4 の交際相手のフランス人であり、簡単な日常会話程度の日本語を話す。2014 年に B 夫妻の元で WWOOF 活動をした後に、2015 年夏に B 夫妻を再訪し、そこから 1 年間馬瀬地域に滞在した（2015 年 7 月 29 日～2016 年 8 月 21 日の 390 日間）。本調査時には 3 回目の活動であった。

またこれらの WWOOFer の他にも、WWOOF 同様の活動をし、長期滞在している日本人の活動関係者 B-1（滞在期間は 2016 年 7 月 31 日～2016 年 8 月 18 日、全 19 日間）と、活動関係者 B-2（滞在期間は 2016 年 5 月 28 日～

2016年10月4日、全130日間)がいた。活動関係者B-2は、2014年にB夫妻の元でWWOOF活動をして以来、毎年B夫妻のもとを訪れWWOOF同様の活動をしており、本調査時は3回目の活動であった

【凡例】

- WWOOFer 活動 / 滞在場所、

 WWOOFer と地域住民との関わりが観察された活動 / 滞在場所
- ホスト活動場所（ホスト私有地もしくは行政からの借用地）、

 地域住民活動場所
- ホスト活動場所（地域住民からの借用地）、

 ホスト活動場所（公共地）

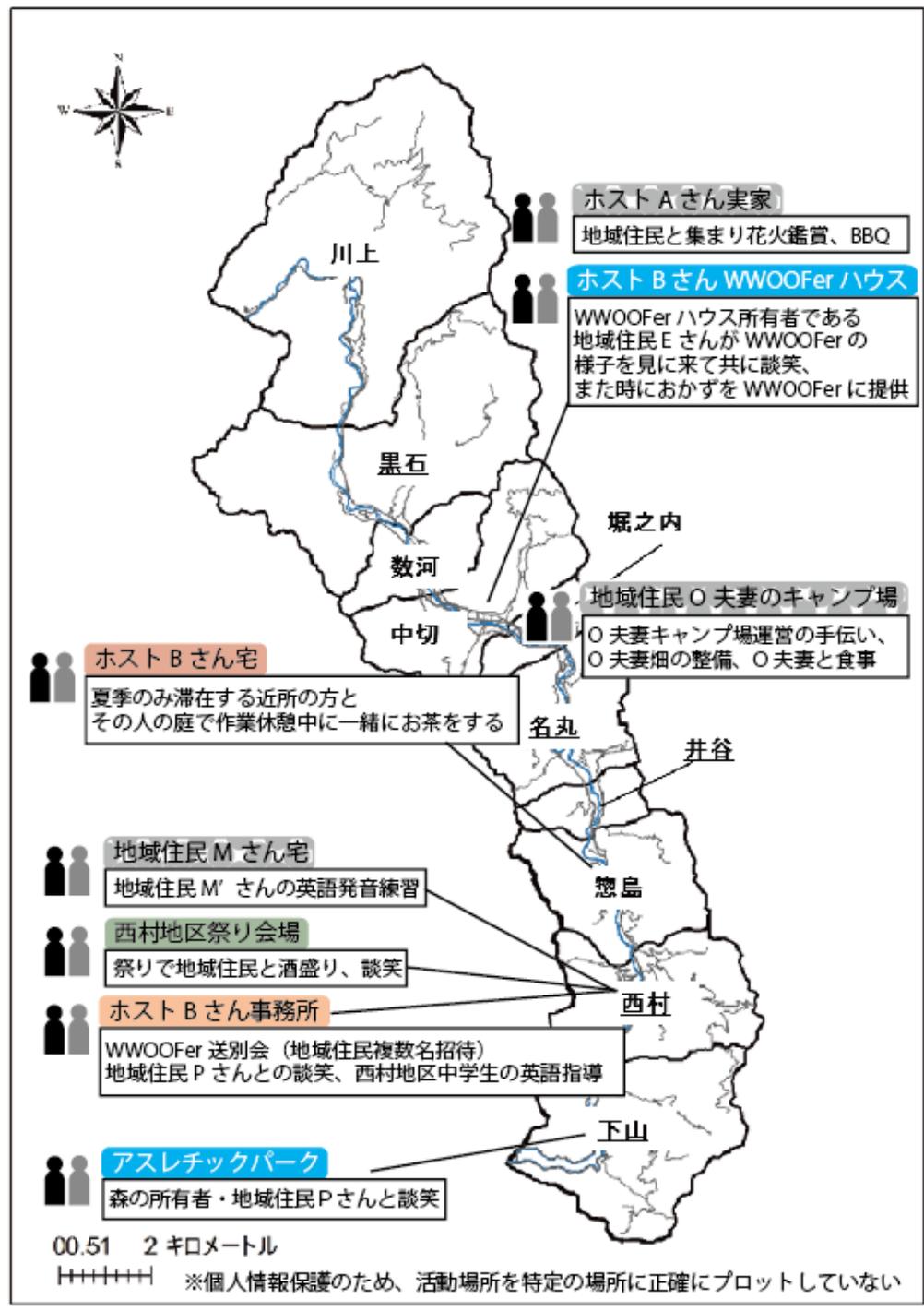


図 3-19 ホスト B 夫妻 WWOOFer ログマップ

◆滞在中の WWOOF 活動

A) WWOOF 体験中の作業について

WWOOFer の主な活動は、ホスト B さんの本業となるマウンテンライフ飛騨のアドベンチャーガイド、事務所管理、事務所周辺の整備、および地域住民の手伝いやサポートであった。

マウンテンライフ飛騨のアドベンチャーガイドでは、長期滞在している元 WWOOFer らが中心となって新しく来た WWOOFer を指導し、顧客のガイドやホスト B さんや元 WWOOFer らが率いる団体客のガイド補助を行っていた。

事務所管理では、受付、掃除、WWOOFer らの食事づくり、アドベンチャー使用器具の片づけおよび補修を行っており、主に活動関係者および日本語が話せる WWOOFer が担っていた。事務所周辺整備では、母国で大工をしている WWOOFerB-3、B-5 らが、大工スキルを用いて事務所の看板舗装や、事務所近くの元飲食店を WWOOFer ハウスへと改築する作業をしていた。

加えて地域住民の手伝いサポートでは、ホスト B 夫妻が、地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ WWOOFer を地域住民に派遣していた。例えば、アメリカ出身の WWOOFerB-2 は、ジャズシンガーである地域住民 M'さんに英語発音指導や、西村地区中学生の英語スピーチ指導をそれぞれ週に 1 回行っていた。地域住民 O 夫妻の運営するオートキャンプ場の人手が足りない際には、滞在している訪日 WWOOFer の中でも日本語が話せる WWOOFer が B 夫妻より派遣され、キャンプ場運営の手伝いを行っていた。

B) 地域との関わりについて

B 夫妻の元では、WWOOFer はほぼ毎日のように地域住民との交流を持っていることが確認された（図 3-18）。全活動／滞在地において、地域住民との関わりを持っていた（図 3-19）。地域と関わる形として、以下の 3 つの形を観察することができた。い) WWOOFer の活動／滞在地に地域住民が訪れる形、ろ) 公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形、は) 地域住民の活動／滞在地に WWOOFer が手伝い・サポートをする形である。

関わりの形（い）の例としては、マウンテンライフ飛騨の「森のニンジャ」運営に、下山に所有している森を貸し出している地域住民 P さんは、毎日魚の飼育のために下山に通い、そこで森のニンジャのガイドをしている WWOOFer と談笑したり、行きや帰りに事務所に立ち寄り WWOOFer と談笑したりする関わりである。他にも、家屋を WWOOFer ハウスとして B 夫妻に貸し出している地域住民 E さんが、WWOOFer の様子を見に WWOOFer ハウスを訪ね、談笑する関わりや、WWOOFer 送別会パーティに地域住民が訪れ、宴会をする関わりが例として挙げられる。

また、関わりの形（ろ）として、ホスト A さん同様、ホスト B 夫妻が WWOOFer を地域住民が集まる地域祭りに連れていき、B 夫妻友人とあいさつや自己紹介を交わす関わりが例として挙げられる。



図 3-20 ホスト B 夫妻のもとでの WWOOF 活動

【左上：森のニンジャガイドの様子、右上：事務所前の元飲食店の改築の様子
左下、右下：オートキャンプ場での作業の様子（全て筆者撮影）】

加えて、ホスト B 夫妻のもとでは、（は）地域住民の活動／滞在地に

WWOOFer を派遣する形が見られた。ホスト B 夫妻が、地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ WWOOFer を地域住民に派遣していた。地域住民は、ホスト B 夫妻よりマッチングされた WWOOFer に改めて何をしてもらいたいかを伝え、WWOOFer もその要望に応えようと 1 対 1 の関係で交流を持つため、両者間で相互に顔の見える個人として認識している様子が確認された。例えば、WWOOFerB-2 より、英語指導を受けていた地域住民 M'さんは、地域祭りにて会った WWOOFerB-2 に快く挨拶し、デュエットを組んで洋楽のカラオケを地域住民の前で披露していたことなど挙げられる（図 3-21）。

また地域住民が WWOOFer による支援作業の返礼として、野菜や食事を WWOOFer に提供していた。例えば、英語の発音練習を受けていた M さんは、指導する WWOOFerA-2 に対して料理を振る舞い、WWOOFerA-2 の送別会にも、手料理を持ってやってきていた。また O 夫妻は作業の休憩中に昼食を振る舞い、作業終了時には WWOOFer に、「今何人（滞在して）いるの？」と尋ねつつ、自家栽培用の野菜を人数分以上の量を持って帰らせている様子が確認された。

以上のことから、3 章 3 節の内容を含めながら、WWOOFer について、および WWOOFer と地域の関わり方について以下のように整理する。

ホスト A さんのところでは、2 週間程度の滞在をする WWOOFer が観察されたが、ホスト B 夫妻の元では、短期間滞在する WWOOFer の他、WWOOF を一度行った後再度 B 夫妻の元を訪れ、WWOOF 同様の活動をする元 WWOOFer の存在が確認された。

また WWOOFer と地域の関わり方は大きく 3 つに別れ、①WWOOFer の活動／滞在地を地域住民が訪れる形、②公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形、③地域住民の活動／滞在地に WWOOFer が派遣される形があることが分かった。①、②の関わり方では、長期間の滞在やホストの共同作業や空間を通して、地域住民と WWOOFer は相互に顔の見える個人として認識する関係を築きうるが、一時的で事務的な関わりに終始することが多いことが明らかになった。また③の関わり方は、ホストが地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ WWOOFer を地域住民に派遣することで

行われた。地域住民は、ホストによりマッチングされた WWOOFer に改めて何をしてもらいたいかを伝え、WWOOFer もその要望に応えようと試みるため、両者間で相互に顔の見える個人として認識している様子が確認された。同時に、地域住民が WWOOFer による支援作業の返礼として、食事や野菜などを提供している様子が確認された。

そこで次節では、WWOOFer が地域と多様な形で関わりを持ち、また元 WWOOFer の存在が確認された、ホスト B 夫妻に着目する。

B 夫妻が WWOOF 受入に関してどのような工夫を行っているのか、参与観察の結果を踏まえて、ヒアリング調査を行った。



図 3-21 ホスト B さんのもとでの地域との関わり

【左上：地域住民 P さんと談笑する WWOOFer、右上：WWOOFer の送迎会、
左中：西村地区の地域祭りの様子、右中：地域祭りでのデュエット、
左下：地域住民 O 夫妻のトマト畑、左右：地域住民 O 夫妻のもとでの昼食】

3-5 WWOOFer と地域の関わりを生み出すホストの取り組み

本節では、前節で WWOOFer と地域住民との多様な関わりが確認されたホスト B 夫妻に着目する。彼らの行う 3 章 4 節 2 項で確認された、WWOOFer の派遣を地域と WWOOFer を繋げる工夫とみなし、WWOOFer の派遣を通して地域にどのような影響が見られるのか、明らかにしていく。

研究手法としては、参与観察におよびヒアリング調査であり、参与観察調査中で確認できなかった点を、ヒアリング調査で補てんしていった。

3-5-1 地域における WWOOFer の派遣の詳細

(1) WWOOFer 派遣の活動内容

ホスト B 夫妻が行う WWOOFer の派遣に関して、ホスト B 夫妻と懇意にしている地域住民および、WWOOFer、活動関係者らにヒアリング調査を行ったところ、参与観察中にも見られたものを含めて、10 件程度確認された（表 3-6）。

表 3-6 ホスト B 夫妻の WWOOFer 受入概要（数値は 2015 年のもの）

派遣タイプ	地域所属	課題/資源	派遣された WWOOFer	内容	返礼	WWOOFer との交流からの発展	
ア	地域住民	Eさん 英語を話したい	英語話者	英語教室	野菜、米、家屋	貸し出し家屋に風呂の増設	
ア、イ		M'さん 英語の発音を良くしたい / 社大な日本家屋	英語話者		食事	インバウンド受入を見込んだ民泊事業の企画	
ア、イ		O夫妻 人手が足りない / 社大な日本家屋	日本語話者	オートキャンプ場の運営	野菜、食事、宿	来年 WWOOFer ホスト登録予定	
ア、イ		Fさん	目が不自由で掃除不可	長身	喫茶店の掃除（天井付近）	あまご付の食事	事務所前の F さん空き家の貸し出し許可（改造許可付）
ア、イ			地域の野菜売り場が欲しい	家具職人	野菜売り場の作成		
ア、イ			家屋周辺の雑草の繁茂 / 郷土料理を出すお店	特殊技術不要	庭の手入れ		
ア、イ		近隣温泉施設	施設周辺の雑草の繁茂/温泉	特殊技術不要	草取り	温泉無料券	
ア、イ	同地区旅館	ピーク時の人手不足 / 域内一番人気の高級旅館	特殊技術不要	血洗い	野菜		
ア	地元学校	国際交流を体験したい	海外出身者	授業		高校とフランスのスカイプ交流事業開催予定	
イ	地域住民	Gさん 賑わい好き/社大な日本家屋		ホームステイ			

WWOOFer 派遣の傾向は大別して 2 つある。ア) 地域住民の課題と WWOOFer のスキルを把握し両者をマッチングすることで地域住民個々人の課題解決をする派遣と、イ) ホストが地域住民の持つ観光資源と訪日 WWOOFer の興味関心を把握し、両者をマッチングする事で WWOOFer の滞在満足度の向上と地域住民が国際交流を享受する機会提供の派遣である。

ア) に関しては、ホストが WWOOFer を用いて作業支援を行うことで、先述した WWOOFer のマンパワーやスキルを地域住民の課題解決のために活用するものである。地域住民 E さん、M' さんなど、英語を学びたいという地域住民

がいれば、ホスト B 夫妻は英語母国者を派遣し、英語を話す機会を提供していた。目が悪くお店の天井の細かい掃除ができない地域住民 F さんに、ホスト B さんは大柄な WWOOFer を派遣することを提案していた。他にも、地域の野菜販売所がなくなり、地域住民 F さんが、地域の人々が野菜を気軽に販売するもしくは帰る場所を探していることを、ホスト B'さんが聞きつけると、家具職人である WWOOFerB-5 を派遣し、WWOOFerB-5 は野菜売り場の屋台を製作していた。



図 3-22 地域住民 E さんもとでの手伝い作成した野菜売り場（筆者撮影）

地域課題解決型の派遣に関して、ホスト B 夫妻は以下のように語る。

ああ、(O 夫妻) は友達だからね、それにだってあそこ、絶対に二人だけじゃ回せないの明らかでしょ。(中略) 地元はお金をとる相手じゃない。できる限りはボランティアをするべき。そこに時間を費やしすぎることはないけどね (B さん)

うーん、当たり前なことなんじゃないかな、近所の人困ってたら、自分の子供とかにちょっと(助けに)行ってきな一、みたいに言わない?(B'さん)

地域課題解決型の派遣の多くは、地域の課題を耳や目にした B 夫妻から提案しているものであった。

イ) に関しては、地域住民の持つ地域資源を把握し、地域住民の協力を得て、

地域住民の元に WWOOFer を派遣することで、ホスト B 夫妻単独では難しい体験を WWOOFer に提供する派遣を行っていた。例えば、立派な日本家屋を持ち、大きな仏壇や日本庭園を持つ地域住民 G さんのところに、日本の日常生活を垣間見たいという訪日 WWOOFer を派遣することで、日本／田舎体験を提供していた。

日本／田舎体験型派遣に関して、ホスト B さんは以下のように語る。

相手を適当に見るんじゃなくて **indivisual** にみることに。そのためには相手の話をジューっと聞かなくちゃいけない。(中略) うちの WWOOFer をすごい働かせるから、正直言って食事や宿泊場所の交換じゃ間に合っていないのは分かってる。だからこそ、ここでの滞在を満足してもらうように心がけている。だから冷蔵庫には常に肉とかビールを用意している。

それと地域の人々を使って、うちではしきれないもてなしを受けている。寿司がでてきたり、飛騨牛がでたり。それは(地域住民)義務でも何でもないから、見極めながらやってもらいたい。

ホスト B 夫妻は、自分たちでは提供できる田舎／日本体験が限られていることを認識し、昔ながらの日本家屋を所有している地域住民や、WWOOFer らをホームステイ受入に協力してくれる地域住民を探し、彼らの元に WWOOFer を送ることで、WWOOFer らに日本／田舎体験を提供していた。他にも WWOOFer 派遣を行うところを、ホスト B'さんは意識的に、ア) の地域課題解決型の派遣とイ) の日本／田舎体験型派遣を組み合わせ、日本／田舎体験の機会を設ける工夫に取り組んでいた。

その例として、地域住民 O 夫妻のところでの派遣が挙げられる。O 夫妻は現在のオートキャンプ場を営む前は、かつて馬瀬川沿いに臨む大きな日本家屋を活かした宿泊業を営んでいた。現在、部屋が宿の部屋が未活用であることを活かし、ホスト B 夫妻は、人手の足りない O 夫妻の元に日本語を話す訪日 WWOOFer を 1 カ月住み込みで派遣した。WWOOFer が日本家屋体験を味わうと共に、ホスト O 夫妻は夏のピーク時に人手を得ることができたという。

(2) WWOOFer 派遣を受けている地域住民の反応

地域住民 F さんは、WWOOFer 派遣の活動内容と、その返礼に関して以下のように語る。

そりゃある程度は昔から閉鎖的な封建的な村だから (WWOOFer に対して) 最初は外人さんだから抵抗はあったなあ。でも今はもう違うな、今は一緒にわいわいやっとるな。(中略) (今は) 僕らの草を刈ってくれたり、そこの道の駅のそこの生け垣を切ったり、向こうの木を切ったり、それはあそういうことはいいことだと思うよ。それによってあの上の風呂に行けるだとかなんんだかあるけどよお。(そういった草刈りをしている姿を見て) うん、うん、あれやなあ、とか思っとるよ。

(一回、僕のお店の中にも) ここの上んところ埃がたまっとったんよ、でもいまちょっと病気しよっというて、昔はやってたんだけどもよお。掃除ができなんだ、たまっとったんよ、そいで昨日か、WWOOFerA-2 ともう一人来とって、ホスト B くんが一緒に連れてきて、ほらいまからやるぞ、椅子を向こうやって上ってきれいに掃除してくれた。でその代わりにほれ二人に夕ご飯を食べさしてやったんよ。やったんね。食事なんかでいって、食事だけなんだけっていってもなあ。

地域住民 F さんは、WWOOFer 派遣を通して、WOOFer に対する抵抗を払拭するに至っていたことが明らかになった。また WWOOFer の作業支援に対する返礼として行う、食事の提供も、カフェを営む F さんにとっては日々の作業の延長であり、負担と感じていないようであった。

また、地域住民 O'さんは、以下のように語る。

(WWOOFer には) きくらげとってもらったり、池を洗ってもらったりしてたね、(中略) (昔) パートで頼んであったりしてたんよ、住んでいる人に頼んでたりしてたよ、でもこういう時間があるでしょ、あの、ほれ、(お客さんが) BBQ してるときってなんもないでしょ、朝受付しするだけ

で、あとはもう。でもほらやっぱりパートじゃない。やっぱり私もさ、時間給で払うよっていったら、すごい額になっちゃってね。(中略) 時間給で800円つけてたもんで、やっぱりそう、マイナスなるな。お客さんが見える時間と、お客さんが一時間を延長されても、300円やろ。やっぱりね、ほら自分たちでがんばらなな、ってなってる。

んでたまたま Bくんが私たちに声をかけてくださって、でもはじめはな、そんな WWOOFerなんて知らない人に来てもらって、どこまでそういう人に来てもらうのは初めてで、でも来てもらったら本当に楽な。な、WWOOFerの人ってどんなん? お金もらわないのってどうなん? 頼んでこんなことやってもらっていいんか、タダでこんなこと頼んでいいんかって色んなこと心配したけど、来てもらって良かった。助かった。どこか行くときにはおにぎりとおべんと持たせて、どっか行くときにはジュース代とか持たせてな。やっぱり、ただでやってもらうってなんか、私たちからしたら申し訳なくてな。

(ご飯や部屋を用意することに対して、) そんなん、うちも部屋も空いてるしさ、部屋もあるし。ただ、お客さまみたいにさ、お金もらうことってなると、掃除もきれいにせなしかんけどな。そういう手伝ってもらうってことなんしで、そういうのは。

(ご飯は) あるもんでやってさ、(WWOOFer たちは) ご飯はこれでいいって言うんよ。

地域住民 Fさん同様、派遣に対する返礼の負担を感じていないことが明らかになった。加えて、WWOOFerに頼む作業内容は、給与を提供する内容ではないものの、自宅にある食や宿泊場所を提供するにするには、ぜひ依頼したい内容であることを言及していた。日頃から行っている余剰生産物や自家消費用のおすそ分け、物々交換の習慣の延長線上に、返礼としてホストに野菜や WWOOFerに食事を提供していた。すなわちこれらの作業に対する、モノでの返礼は、余剰生産物や空き家や空き部屋が豊富にある、過疎化に直面する地域と WWOOFer 派遣が非常に親和性を持つことが示唆されていると考えられる。

また、田舎体験を提供している地域住民 G さんは以下のように語る。

B 君が外国から来る人を泊まらせてあげる人を探してて、何人かホームステイさせてたな。泊まることはなしいしても、うちに訪れたりすることは多くて、その際に酒や食事を出してたな。英語は話せないんやけど、B 君が(家で)仏壇とかを外国人さんに説明したりするんよ。言葉はなくても何か通じる楽しさはあるな。それを感じるな。言葉が通じんでも分かり合えるものがあるんだなあという。

ホストが地域住民の持つ資源を発見し、訪日外国人とマッチングすることで、WWOOFer に日本田舎体験を提供すると同時に、地域住民には国際交流という機会の提供を行い、出会いの場を創造していることが明らかとなった。

3-5-2 地域における WWOOFer 派遣の影響

本節では、WWOOFer 派遣を行ったことによる影響を、ヒアリング調査より明らかにしていった。

(1) 地域住民によるホストの WWOOF 受入に対する支援

WWOOF は「作業」を対価に、「食・宿泊場所」を交換するシステムである。この作業対価型滞在システムを維持するために、ホストは食と宿泊場所の確保が欠かせない。

ホスト B 夫妻は食と宿泊場所を、WWOOFer 派遣を通じて、確保していた。前述したように、野菜や米など余剰生産物やおすそ分けが地域住民から提供される。また温泉施設における WWOOFer 派遣に関しては、1 日施設周辺の草ぬきの代わりに、温泉施設の無料使用ができ、訪日 WWOOFer に、観光資源である温泉を気軽に提供できる機会となっている。

加えて、表 3-6 に見るように、WWOOFer 派遣の返礼が、家屋の貸し出しにまでつながっていることが確認された。

地域住民 F さんからの家屋の提供は、今までの WWOOFer 派遣の積み上げにより、信頼を得るに至ったためである。F さん運営のカフェ横の納屋をホスト B 夫妻に貸し出しており、B さんは大工仕事のできる WWOOFer らと共に、納屋を大改造し、新しい WWOOFer ハウスとして使用することを目指している。

また地域住民 E さんも現在の WWOOFer ハウスの提供者である。かつて B 夫妻が WWOOFer の宿泊場所として使用していた施設を手放す際に、新しい WWOOFer ハウスを探すことができず、E さんがかつて住んでいた現在空き家の家屋を提供した¹⁷。E さんの英語指導はそれに対する、いわば逆の WWOOFer からのお礼・サポートとして始まった WWOOFer 派遣でもあった。

このように、WWOOFer 派遣を通じた、地域住民による WWOOF 受入のサポートが始まっていた。

¹⁷ 現在は、ホスト B 夫妻が、地域住民 E さんに家賃を支払い、現 WWOOFer ハウスを借用している。

(2) WWOOFer の再訪の理由の創出

ホスト B 夫妻の元では、元 WWOOFer の再訪が多くみられているが、元 WWOOFer にヒアリング調査を行ったところ、再訪理由として表 3-7 の通りに述べている。

表 3-7 B 夫妻の元 WWOOFer が再訪する理由

	WWOOFerB-3	WWOOFerB-4	WWOOFerB-5
再訪理由	ホストの関係性	ホストとの関係性	ホスト夫妻との関係性
	ビジネスパートナー	ビジネスパートナー	現地で友人ができた
	馬瀬の自然		飛騨の木工細工を学びたい

全元 WWOOFer が、ホストとの関係性を最も大きな理由として挙げている。ホスト B さんが WWOOFer を家族同等に扱い、滞在が過ごしやすく満足であるよう全力で対応していること、また WWOOFerB-3、4、5 の母国語であるフランス語を流ちょうに話し、意思疎通に障害がないことが大きな要因となっていた。また WWOOFerB-3、4 は、再訪時にホスト B さんからビジネスパートナーとしてのポジションが確約されていたことが大きな理由であったと述べていた。とりわけ何年も再訪している WWOOFerB-3 に関しては、WWOOF 前より日本への移住意思が強かったのも理由の一つである。

その中で、WWOOFerB-5 は地域住民との友人関係の形成を挙げている。ホストを介して WWOOFer 派遣などで、地域住民と顔の見える交流をすることで、地域内で WWOOFer が友人を得る機会となり、地域住民の友人の存在が WWOOF 体験終了後も再訪する理由の一つとなっていた。

(3) 地域住民と WWOOFer による新事業および新活動の萌芽

また WWOOFer 派遣は、派遣先の課題を解決するだけでなく、派遣先と共同して新しい事業や活動を作りだしている姿も観察およびヒアリング調査で明らかになった。

O 夫妻や M さんは、今後自ら WWOOF ホストになることを考えている。加えて、M さんに関しては、民泊事業を考えており、WWOOFerB-3、4、5 らと協働して民泊プログラムを考えていきたいと新規事業の展開を視野にいていたことが例に挙げられる。

また、WWOOFerB-4 が地元高校の特別授業に派遣された際には、WWOOFerB-4 が帰国後寄宿舍で務める事を活かし、地元高校とWWOOFerB-4 でスカイプ授業を開催することをWWOOFerB-4 および高校教師が話しあって決定されるなど、新規事業がうまれている様子が確認できた。

(4) 地域における国際空間の創出

元WWOOFer が定期的にホストB夫妻を長期間訪れることで、常にB夫妻の事務所は訪日外国人がいる国際空間となっていた。そして、それを魅力に感じる人々が地域内外から訪れる様子が観察された。

以下、3章5節のまとめを行う。

ホスト、WWOOFer およびホストらと懇意にしている地域住民ヒアリング調査を行ったところ、B夫妻が過去に行ったWWOOFerの派遣は10件程度確認された。

大別すると、ア) 地域住民の課題とWWOOFerのスキルを把握し両者をマッチングすることで地域住民個人々の課題解決をする派遣と、イ) ホストが地域住民の持つ観光資源と訪日WWOOFerの興味関心を把握し、両者をマッチングする事でWWOOFerの滞在満足度の向上と地域住民が国際交流を享受する機会提供の派遣に取り組んでいた。

ア) に関しては、ホストがWWOOFerを用いて作業支援を行うことで、その結果、地域住民は日々の余剰生産物や自家消費用のおすそ分けや物々交換の習慣の延長線上に、返礼としてホストに野菜やWWOOFerに食事を提供していた。中でも、長期的にWWOOFerの支援を受ける地域住民や、WWOOFer派遣により信頼が生まれた地域住民からは、作業支援期間の宿泊場所やWWOOFer滞在用に地域住民が有する空き家を返礼として提供されることもあり、食と宿泊場所を常に必要とするホストのWWOOFer受入を地域がゆるやかにサポートしている様子が確認された。

イ) に関しては、ホストを介して地域住民と交流することで、地域内で友人を得る機会となり、WWOOFer体験終了後も再訪する理由の一つとなっていた。

またこれらの取り組みにより、地域住民が訪日外国人である WWOOFer に価値を見出し、WWOOFer を活かした新規事業や活動が生み出されていることが確認できた。例えば、地域住民と WWOOFer 間でインバウンド受入を見越した民泊事業の企画や試作を進める、WWOOFer が母国で寄宿舎の管理人であることを活かして地元高校と WWOOFer の勤務校との国際交流活動が生まれるなどである。

加えて、WWOOFer が常に事務所にいることで、地域内に国際空間ができ、それを魅力に感じる人々が地域内外から訪れる様子が確認された。

表 3-8 B 夫妻が WWOOFer 受入に際して行う工夫点のまとめ

ホストに必要とされる要素	ホストB夫妻の WWOOF滞在の工夫	地域や受入についての影響	結果
地域課題の把握 WWOOFerスキルの把握	①WWOOFer派遣	物的支援 WWOOF受入のサポート	国際空間 の精製
資源の把握 資源を共有するための地域住民との信頼関係 WWOOFerが何を求めているかの把握 (正確に聞き取る言語能力)	②体験提供	WWOOFerの満足度、長期滞在、 リピーターの出現	地域内外 の人の 集まり

3-6 3章のまとめ

3章では、本論の目的に合致する、地域活動に WWOOF を活用している類型③、④に着目し、WWOOFer の活動詳細と、WWOOFer が地域に関わる形を明らかにすることを目的とした。③、④類型のホストがおり、同時期に複数 WWOOFer の受入れをしている岐阜県下呂市馬瀬地域の 2 つのホストの元で、筆者自ら WWOOFer として参与観察（各約 2 週間）とヒアリング調査を行った。

参加型の家づくりや庭づくりのプロジェクトを実施し、不定期にワークショップやアートイベントを開催するホスト A さんの元で、WWOOFer は、い) WWOOFer の活動／滞在地に地域住民が訪れる形、ろ) 公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形をもって地域樹民と関わりをもっていた。詳しくは、WWOOFer が同窓会や地域祭りなど地域のイベントに同行し地域住民と交流したこと、A さんイベントを開催時には、WWOOFer は同イベント参加者もしくはイベントスタッフとして、参加する地域住民やイベント運営を補助する地域住民と交流したことが挙げられる。

一方 WWOOFer の持つバックグラウンドやスキルを積極的にビジネスと地域活動に活用する B 夫妻の元では、WWOOFer を、A さん同様、関わりの形(い)、(ろ)に加え、ホスト B 夫妻が地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ(は) WWOOFer を地域住民に派遣する形の関わりをもっていた。

その結果、支援作業を受けた地域住民は、WWOOFer を顔の見える個人として認識し、中には新たな国際交流事業を共同して企画する地域住民も確認された。更に地域住民は支援作業への返礼として、野菜や米などの食料及び宿泊地の提供をしており、地域がホストの WWOOF 受入をゆるやかに支援する基盤が構築されていた。またホスト B 夫妻の元では何度も通う訪日 WWOOFer が確認された。これはホストが地域住民の協力を得て、訪日外国人が喜ぶ地域資源を把握し提供することで、WWOOFer の滞在を充実させていた。これらの結果、複数の WWOOFer が常時滞在しているグローバルな空間として、一部の地域内外の住民がホストの場を集っていた

第4章 訪日外国人活用に地域を組み込むホストの活動展開

4-1 はじめに

4章では、作業対価型宿泊システムを独自の工夫と共に活用し、訪日外国人が地域へ多様な関わり方をしている先進事例として、B夫妻が現状に至るまでの訪日外国人の活用展開の傾向と各展開時に求められるホスト、WWOOFerおよび地域住民の要素や興味関心の考察を試みた。

そこで初めに、B夫妻およびB夫妻の所属する「NPO馬瀬川プロデュース」の過去から現在に至る、訪日外国人の受入活用が記されたホームページブログ「水辺の館」（2004～2015年分）、および「マウンテンライフ飛騨 Faebook」（2014～2016年）のレビューを行うことで、B夫妻の訪日外国人受入活動の変遷を把握した。

そこから現在に至るまでの展開経緯を、訪日外国人の受入手段および活動内容を軸に分析し、5段階の展開がみられることが明らかになった。その上で各段階にてホスト、地域住民、訪日外国人に求めうる要素を、3章で明らかにしたホストの工夫点を鑑みて考察した。

4-2 馬瀬川プロデュースの概要

初めにホスト B 夫妻の所属する、「NPO 馬瀬川プロデュース」の概要について説明していく。

NPO 馬瀬川プロデュースは、2004 年に馬瀬地域の地元有志で立ち上がり、2006 年に設立された馬瀬川流域を活用した交流事業を実施する地域づくり NPO である。

馬瀬地域における過疎化の進行と、地域づくりの担い手の不在を問題点とし、馬瀬地域にある豊かな自然と文化を具体的に活用することを目的として設立された。

主な事業は、清流馬瀬川講演会などを企画する「環境保全活動」、釣り人の自然塾・馬瀬川フィッシングアカデミー、沢のぼり、森のニンジャを運営する「体験事業活動」、犬山市の子供夏合宿の受入を行う「上・下流域交流活動」、「広報活動」、「施設管理受託事業」、「ホームページ制作事業、他」である。

2014 年度までは、下呂市指定管理施設「フィッシングセンター 水辺の館（以下、水辺の館）」を活動拠点としていたが、2015 年より指定管理を離れ、近隣施設の旧温泉施設「道の駅馬瀬美輝の里」を活動拠点とする。

ホスト B さんは、1970 年代に馬瀬へ移住後、南飛驒・馬瀬川温泉「美輝の里」が委託されていた水辺の館の運営を担っていた。その後水辺の館の委託先が、馬瀬川プロデュースとなり、ホスト B さんは馬瀬川プロデュースの事務局として、「水辺の館」運営を担っていた。ホスト B さんの主な担当事業は「体験事業」、「上・下流域交流活動」および「施設管理委託事業」であった。

ホスト B'さんは 2008 年のホスト B さんとの結婚を機に、水辺の館スタッフとして働いていた。

2015 年に水辺の館の委託先が南飛驒馬瀬観光協会となり、現在は「道の駅馬瀬美輝の里」にて、沢のぼりと森のニンジャを総称した「マウンテンライフ飛驒」を馬瀬川プロデュースの自主財源事業として位置づけ、NPO 事務局の運営及び「マウンテンライフ飛驒」の運営をしている。

4-3 ホスト B 夫妻の訪日外国人受入手段と活動内容

ホスト B 夫妻が現状に至るまでの訪日外国人の活用展開の傾向と各展開時に求められるホスト、地域住民および訪日外国人の要素や興味関心の考察を行うために、ホスト B 夫妻の業務へ活用した訪日外国人の受入手段と活動内容を整理した。

受入手法と活用目的の整理は以下のように行われた。

1) 「水辺の館」ブログおよび「マウンテンライフ飛騨 Facebook」に掲載している 982 の記事での訪日外国人の紹介の有無の確認する

2) 訪日外国人の所属を分類する。

分類は B 夫妻が活用した訪日外国人受入手段のもと以下の 5 通りとした。ALT¹⁸、A さん WWOOFer、B 夫妻友人、顧客、カウチサーファー、B 夫妻 WWOOFer、その他（TV 撮影など）である。

3) 訪日外国人の各活動を活動内容ごとに分類する

上記の顧客を除いた訪日外国人の活動内容を以下の 4 つに分類する。日本／田舎観光体験，ホストのメイン事業の作業森林アドベンチャー、沢登り、施設管理運営，訪日外国人スキル活用事業の作業（言語教室、インターナショナルカフェ、シャンソン），地域への奉仕活動（外国人の滞在日程紹介、WWOOFer 派遣など）である。

整理を行った結果以下の 5 段階の展開経緯を踏んでいることが明らかになった。ホスト B 夫妻は訪日外国人受入システムとし、2009 年にカウチサーフィン¹⁹、2012 年より WWOOF を使用しており、これらのシステム利用が展開経緯に大きな影響をもっていた。

¹⁸ Assistant Language Teacher の略。外国語指導助手。

¹⁹ 「寝るための『ソファ（couch）』を必要とする旅行者（サーファー）と、それをいとわないホストを結び付けるためのインターネット上のホスピタリティ交換ネットワーク」（額田 2014）。WWOOF とは異なり、滞在の対価に特定のものが規定されていない、「無対価型滞在システム」。

- ①2004年～：交流享受段階
- ②2009年6月～：交流共有段階
- ③2012年～：自己ビジネス活用段階
- ④2015年～：地域需要マッチング段階
- ⑤2015年冬～：地域新規事業開拓段階

以下では、各展開期の特徴とそれに応じて求められたであろうホスト、地域、および訪日外国人の要素について考察し、論じていく。

表 4-1 ホスト B 夫妻の活動年表一覧（詳細は巻末）

2015	30	本での紹介		Facebook
2015	10	7 フランスのお菓子作りレッスンの開催	WWOOFer	Facebook
2015	13	沢登りの様子		Facebook
2015	18	修学旅行の受入		Facebook
2015	19	森のニンジャ拡大		Facebook
2015	27	森のニンジャとランチセットの開拓		Facebook
2015	28	下呂市でのチロリアン下降		Facebook
2015	31	キャンプ場手伝いのWWOOFerによるミニコミ誌の投稿	WWOOFer	Facebook
2015	11	3 WWOOFerの誕生日祝い		Facebook
2015	4	WWOOFerのグラフィックデザインを活かしロゴ作成		Facebook
2015	9	テンカラ釣りの様子	顧客	Facebook
2016	4	WWOOFerと森のニンジャ拡大の様子	WWOOFer	Facebook
2016	7	研修生募集について		Facebook
2016	8	マウンテンライフ飛騨の宣伝		Facebook
2016	10	森のニンジャの宣伝		Facebook
2016	10	森のニンジャの宣伝		Facebook

4-3-1 ホスト B 夫妻にみる訪日外国人活用展開の各特徴

①「交流享受段階」では、ホスト B 夫妻は、ALT や水辺の館に訪れた顧客と関わり、彼らと一緒に地域内を歩くことで田舎／日本体験を提供すると同時に何が訪日外国人に良い評判を得るのかを見つけつつ、彼らとの交流を享受していた。この段階では、訪日外国人をホスト事業や地域への貢献活動に活用する様子は見られない。2009 年になって同地域のホスト A さんが WWOOF 登録をしたことで、水辺の館に A さん WWOOFer を連れてくる様子があるものの、彼らにも田舎／日本体験を提供するに留まった。

②「交流共有段階」では、ホスト B 夫妻は、無対価型滞在システムのカウチサーフィンを始めたことにより、多くの訪日外国人（カウチサーファー）を迎えることになった。彼らをゲストとして迎え日本／田舎体験を提供する事もあるが、時に彼らを活用して、地域住民を中心に単発の英会話教室を開くことがあった。今後の事業化を見据えたトライアルを実践していた。

③「自己ビジネス活用段階」では、ホスト B 夫妻は、WWOOF を始めたことにより、滞在の対価に作業を提供することを前提とした訪日外国人を多数迎えることになった。WWOOFer は 1 日に約 6 時間の作業を要するため、日本／田舎体験に関する活動は減ったものの、多くの訪日外国人人材が確保されたことで、訪日外国人スキル活用事業「プチ留学」が事業化した。

④「地域需要マッチング段階」では、ホスト B 夫妻は、自らの事業を進めると共に、地域や地域住民に課題がある場合にはそれにマッチングする WWOOFer を派遣し、課題解決を試みていた。これには、WWOOFer のビジネス活用を一定程度立ち上げると共に、元 WWOOFer が再度戻ってくることで、既にノウハウを得ている人材が確保でき、日々の活動に余裕がでてきたためだと考えられる。

⑤「地域新規事業開拓段階」では、ホスト B 夫妻が、自らの事業と、地域への

WWOOFer 派遣や WWOOFer の日本／田舎体験での地域住民との関わりに取り組むことに加えて、ホスト B 夫妻だけでなく、地域住民が WWOOFer の活用を積極的に考えていた。その結果、新規事業の萌芽的活動（WWOOFer が地域住民の民泊のモニターをする）が行われていた。これは関わりを重ねることで、地域住民がホスト B 夫妻および WWOOFer と信頼関係を築き、彼らの有用性に気づき始めたからだと考える。

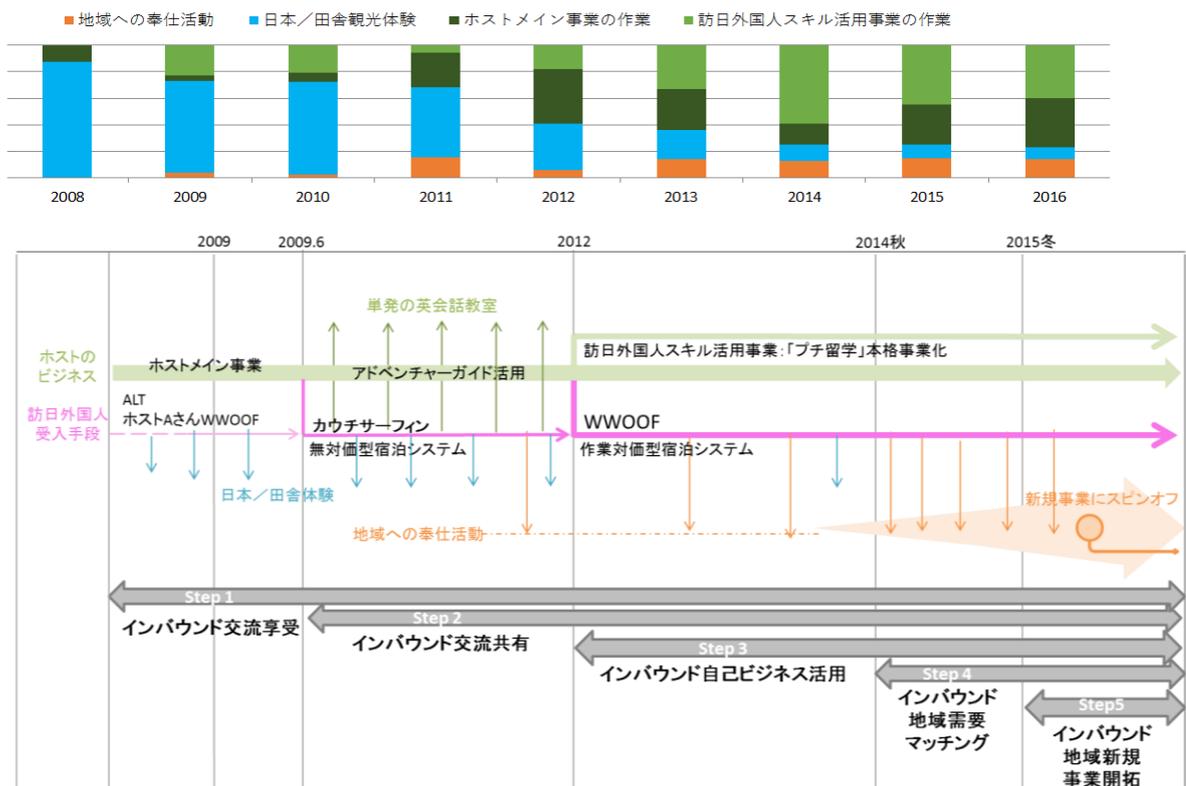


図 4-1 ホスト B 夫妻の訪日外国人受入と活動展開経緯

4-3-2 各展開時にみるホスト、地域住民、訪日外国人に求められる要素の考察

本項では、各展開期に応じて求められるであろうホスト、地域、および訪日外国人の要素について考察し、論じていく。ホストの地域としては、地方地域を想定している。

①「交流享受段階」では、ホストは、ゲストとして訪日外国人を受け入れる、楽しませることが求められていた。そのため、訪日外国人を受け入れる施設の確保および日本／田舎体験の資源化が求められるであろう。また地域住民は、ホストが日本／田舎体験の共有を求めた際にそれに応じて、ホストを支えることがホストよりもとめられる場合があるであろう。また訪日外国人は、日本／田舎体験を味わう興味関心が求められる。

②「交流共有段階」では、地域住民の国際交流への興味関心が重要となる。ホストは、地域向けの活動を企画する上で、地域住民への国際交流の楽しみと有効性を伝え参加するように働きかけていく必要があるであろう。一方で作業対価を前提としていない訪日外国人には、作業を提供する柔軟性と地域へ入っていく積極性が求められる。

③「自己ビジネス活用段階」では、ホストは、作業対価型宿泊システム WWOOF を利用し、自らのビジネスで活用させていく上で、どのような人材を求めているのかを適切に発信する必要があるであろう。また訪日外国人のスキルを活用するのであれば、彼らのスキルを把握し、適切に指示をする、また一緒に運営を気持ちよく進めていくために、ある程度の対異文化経験と言語能力および信頼関係の形成が求められるであろう。また訪日外国人は、作業の提供とホストが活用できるようスキルや自分の興味関心を伝えていくことが重要となるであろう。

④「地域需要マッチング段階」では、ホストは、地域住民と自らの事業を進め

以下、ホスト、地域住民、訪日外国人に求められる要素を整理し、また簡単な提言を行う。

ホストには、ゲストを受け入れる施設、日本／体験の資源化、国際交流の楽しさと有効性の伝達、参加の呼びかけ、(WWOOFなどで) 求める人材の発信、言語、訪日外国人との信頼関係、課題把握能力、地域住民との信頼関係、ノウハウの伝授、地域住民と訪日外国人の総合的サポート、が求められる。

また地域住民には、日本／田舎体験の共有、国際交流への興味関心、国際事業への興味関心、訪日外国人との信頼関係、そして地域に物々交換の習慣と返礼が求められる。

そして訪日外国人には、日本の日常／田舎生活の興味、作業を提供する柔軟性、地域に入り込む積極性、スキルや興味関心の発信、一定程度の日本語レベル、新規事業に活かす強みが求められる、と考察した。

しかし各人に求められるこれらの多様な要素は、決して一人に集結している必要はない。3章で触れたように、ホスト B 夫妻が、訪日外国人を受け入れる施設をなくしてしまった際には地域住民 E さんが、自らの空き家を提供していた。このようにホストと地域住民の要素は、互いに融通し合えるものであると考える。ホストは決して一人や1家族で運営されるだけでなく、今後まちづくりや地方地域における課題を解決するためには、各要素を強みとして持った複数で構成されるホスト組織を運用するのも一つの手段であると考えられる。

4-4 4章のまとめ

作業対価型滞在システムを独自の工夫を凝らし、地域と WWOOFer の多様な関わりを生んだホスト B 夫妻の現状に至るまでの、訪日外国人受入の活動展開経緯を整理し、各展開で求められるホスト、訪日外国人、地域住民の要因の考察を行った。

調査対象は、活動および訪日外国人との関わりが記載されている B 夫妻のブログ「フィッシングセンター水辺の館」および「マウンテンライフ飛騨」の全 982 の記事とした（2004 年～2016 年）。分析手法としては、ブログ内で紹介されている顧客を除く訪日外国人の活動を、日本／田舎観光体験、ホストのメイン事業の作業、訪日外国人スキル活用事業の作業、地域への奉仕活動の 4 種に分類し、これらの変遷を見ていった。その結果、訪日外国人の活動変遷は、2008 年までは日本／田舎観光体験が多いものの、2009 年では訪日外国人スキル活用事業が増加し、2013 年では各事業における活動が大幅に増加し、観光体験が減少するとともに地域への奉仕活動の常態化が確認できた。これは B 夫妻が 2009 年よりカウチサーフィンのホストを始め、2012 年夏に WWOOF ホストの開始が大きな要因となっていると考えられる。

そこで 3 章で明らかになったことと勘案し、B 夫妻の活動を全 5 段階に分割した。カウチサーフィン開始までを、ホストが訪日外国人との交流を享受することが第一目的であった 1)「交流享受段階」、カウチサーフィン開始から WWOOF 開始までを、増加した訪日外国人を不定期の英語教室等で地域へ活用し始めた 2)「交流共有段階」、WWOOF 開始時から、前段階で事業化の可能性を見出し事業の作業要員とより多くの国際色を求めた 3)「自己ビジネス活用段階」、地域課題のマッチングをし始めた時を 4)「地域需要マッチング段階」、そしてその関わりの中から新事業／活動が創出された時を 5)「地域新規事業協働段階」とした。

段階 1)においては、訪日外国人の受入施設および訪日外国人を楽しませることが不可欠である。そのためホストには、地域における日本／田舎体験ができる資源の発見と把握が要される。3 章で明らかになったように、地域住民が持つものを含め広範に把握していることが、訪日外国人と地域との関わりを生む

ために重要であると考え。段階 2)においては、地域共有するには地域住民の国際交流への興味関心が要され、ホストは国際交流の価値発信が求められる。段階 3)においては、訪日外国人スキルを活用する事業を推進していく上で、訪日外国人と齟齬のない意思疎通が求められると考えられる。そのためホストには、訪日外国人のスキルや要望を把握するために、高度な言語能力および豊富な対異文化体験が求められるであろう。段階 4)においては、マッチングを行うために地域課題能力の把握および地域が支援作業に対する返礼をする習慣および余剰生産物や空き家を所有していることが重要となる。段階 5)においては、地域住民が国際交流およびインバウンド事業への興味関心を持っていることが重要である。ホストには、彼ら 2 者間の関係を総合的サポートすることが望まれる。

以上、訪日外国人と協同する地域活動の萌芽期の 1 モデルおよびホストを中心に各アクターに求められ得る多様な要素を示した。しかしホストは一人／一家族である必要はない。これらの要素を複数人で分担し合うことも可能である。実際に地域住民による WWOOFer 用の家屋の提供が行われていた様に要素の共有はできる。訪日外国人と協同した地域活動の初動期の動きを示すことができた。地方地域において、訪日外国人のもたらす作業および地域の資源を広く共有し、3 章で見られた地域への取り組みサイクルを促進していくことが今後の地方地域では求められていくであろう。

第 5 章 結論

5-1 作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が地方地域活動に果たす役割と可能性

以上、3章から5章の調査で明らかになったことを総括し、作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が地方地域活動に果たす役割と可能性について論じる。

3章より、ホストと WWOOFer の間では、ホストが介在することで関わりをもつことが分かった。その一方で、関わりの深度には違いが見られた。ホストが、地域住民の課題や資源と、WWOOFer のスキルや興味関心を把握し、彼らの課題とスキルおよび、資源と興味関心をうまくマッチングすることで、地域と WWOOFer の関わりが深くなる傾向があることが分かった。

このようなマッチングの結果として、ホストの WWOOF 受入が地域によってゆるやかに支えられ、また WWOOFer は滞在に対する満足度とホストへの信頼感が高まり、再度長期間でホストの元を訪れる WWOOFer の存在が確認された。そして WWOOFer が一つに集まり、グローバルな空間ができることに魅せられた人々が地域内外から集う事実が確認された。

さらには、何度も地域住民と WWOOFer が関わりを持つことで、WWOOFer が海外にツールがあることを強みとして活用して、地域住民は新しい事業や活動が生み出されていることが分かった。

4章では、このような現状を生み出すために、ホストと地域住民と訪日外国人に求められるであろう要素を考察した。ホストが自らのスキルを活かしつつ、地域住民また訪日外国人と信頼関係を築き、かつ作業対価型滞在システムが機能するためには、ホストだけに負担を強いることのなく、地域住民から返礼やサポートをする、物々交換の習慣があることが重要であると考えられた。

そこから明らかになる作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人果たす役割とは、①地域にマンパワーやスキルを持ち込み、②地域にグローバル空間

を生み出すことである。作業対価型滞在システムそのものは、地域に直接の経済交流を生み出すことはない。しかし結果として、新しい人・モノの動きを創造し、新しい経済・文化的交流を生み出す可能性を持っている。

そしてこれらの役割や可能性を生み出すためには、ホストが訪日外国人と地域住民の間に介在し、両者のニーズやスキル・特性を把握し、適したところへ橋渡しをすること、地域住民が、橋渡しや作業に対する返礼や訪日外国人の受入サポートを容易に行うことができることが重要である。

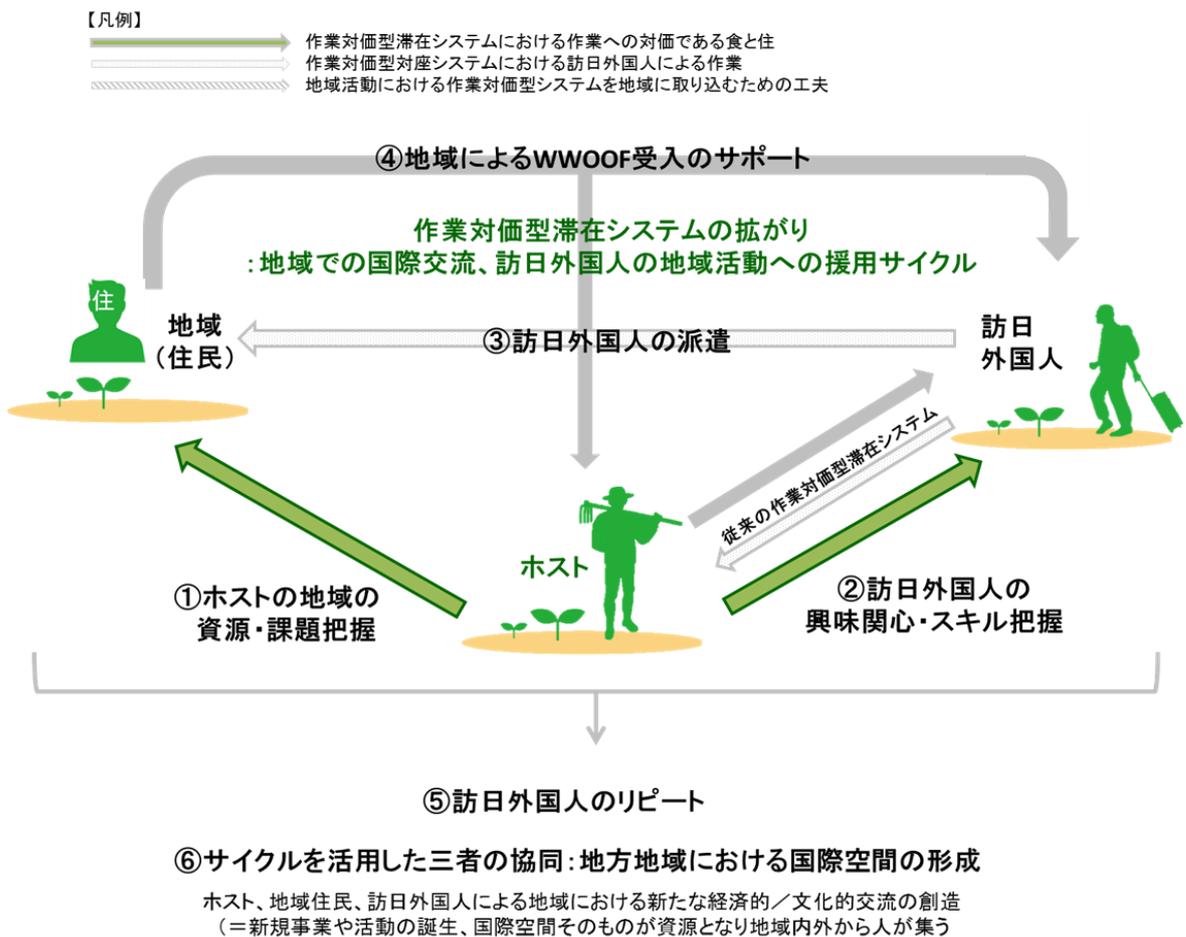


図 5-1 ホストの介在により広がる作業対価型滞在システムの拡がり

以上、簡単にまとめると、作業対価型滞在システムを利用する訪日外国人が訪問地域の課題解決に役割を果たすために、以下の3つの要点があると考えられる。

①地域活動における作業対価型滞在システムでは、ホストが訪日外国人と地域

住民の間に介在し、両者のニーズやスキル・特性を把握し、適したところへ橋渡しをすることが重要となること

②金銭を介さないため地域住民は、橋渡しや作業に対する返礼や訪日外国人の受入サポートを容易に行うことができること

③ホストの橋渡し、訪日外国人の作業、地域住民のサポートのサイクルが大きく稼働することで、インバウンド事業の萌芽見られ、新たに経済交流また文化交流が創造される可能性があること、である。

5-2 各章のまとめ

第2章では、日本における WWOOF 利用者による地域活動の全体像を把握することを目的とした。第一に、WWOOF 受入れを表明している 171 のホストのホームページ及びブログ等のレビューを行った。結果、ホストは自ら事業のマンパワー的補填として WWOOF を活用すると同時に、一部ホストは彼らの持つスキルやバックグラウンドに着目し、それらを活用している事実が見られた。またホストは単に外部者との交流享受や、「本業」への助けを得るためではなく、地域への国際交流機会の提供といった地域活動にまで幅を広げるホストが確認された。

第二に、過去に WWOOF を利用した訪日外国人と、同 171 のホストを対象に Web アンケートを行った。前者の訪日 WWOOFer は、訪問先での体験や地域との関わりの内容について尋ねた。訪日外国人（有効回答数 41 件）は、約 90%が地域住民との交流を期待しており、交流を持った WWOOFer の約 90%が交流内容に満足していた。また地域住民との交流には、ホストの介在が大きな役割を果たしていることがわかった。

後者のホストへのアンケート（有効回答数 53 件）に関しては、約 95%が地域活動を実践しており、WWOOFer をホストが参加／開催する地域活動にまで応用している層が約 70%いることが確認された。さらに WWOOFer の持つバックグラウンドやスキルを強みに、積極的に自己ビジネスおよび地域活動に応用しているホストの存在も約 10%存在していた。

以上のことから、WWOOF 活用に関して、①自己ビジネスマンパワー型、②自己ビジネススキル型、③地域活動マンパワー型、④地域活動スキル型の 4 種類あることがわかった。

第3章では、本論の目的に合致する、地域活動に WWOOF を活用している類型③、④に着目し、WWOOFer の活動詳細と、WWOOFer が地域に関わる形を明らかにすることを目的とした。③、④類型のホストがおり、同時期に複数 WWOOFer の受入れをしている岐阜県下呂市馬瀬地域の 2 つのホストの元で、筆者自ら WWOOFer として参与観察（各約 2 週間）とヒアリング調査を

行った。

参加型の家づくりや庭づくりのプロジェクトを実施し、不定期にワークショップやアートイベントを開催するホスト A さんの元で、WWOOFer は、①WWOOFer の活動／滞在地に地域住民が訪れる形、②公共の場に地域住民と WWOOFer が集う形をもって地域住民と関わりをもっていた。詳しくは、WWOOFer が同窓会や地域祭りなど地域のイベントに同行し地域住民と交流したこと、A さんイベントを開催時には、WWOOFer は同イベント参加者もしくはイベントスタッフとして、参加する地域住民やイベント運営を補助する地域住民と交流したことが挙げられる。

一方 WWOOFer の持つバックグラウンドやスキルを積極的にビジネスと地域活動に活用する B 夫妻の元では、WWOOFer を、A さん同様、関わりの形①、②に加え、ホスト B 夫妻が地域の要望や地域住民の持つ課題を把握し、課題に見合うスキルや関心をもつ WWOOFer を地域住民に派遣する形の関わりをもっていた。

その結果、支援作業を受けた地域住民は、WWOOFer を顔の見える個人として認識し、中には新たな国際交流事業を共同して企画する地域住民も確認された。更に地域住民は支援作業への返礼として、野菜や米などの食料及び宿泊地の提供をしており、地域がホストの WWOOFer 受入をゆるやかに支援する基盤が構築されていた。またホスト B 夫妻の元では何度も通う訪日 WOOFer が確認された。これはホストが地域住民の協力を得て、訪日外国人が喜ぶ地域資源を把握し提供することで、WWOOFer の滞在を充実させていた。これらの結果、複数の WWOOFer が常時滞在しているグローバルな空間として、一部の地域内外住民がホストの場を集っていた。

第 4 章では、ホスト B 夫妻が現状に至るまでの訪日外国人の活用展開の傾向と各展開時に求められるホスト、地域住民および訪日外国人の要素や興味関心の考察を行うために、ホスト B 夫妻の業務へ活用した訪日外国人の受入手段と活動内容を整理した。

その結果、活動の展開経緯として、①「交流享受」、②「交流共有」、③「自己ビジネス活用」、④「地域需要マッチング」、⑤「地域新規事業協働」の 5 つ

の展開を経ていた。

ホストは訪日外国人と信頼関係を築き、興味関心やスキルを把握することと同時に、段階が上がるにつれ地域住民とも信頼関係を形成し課題や把握し、両者のマッチングを図ることが求められていた。マッチングの恩恵を受ける地域は、ホストに一方向的な負担を強いることなく無理のないサポートをするために、物々交換が地域に浸透していることが重要であり、訪日外国人には作業を通して地域活動に積極的に関わっていくことが求められていると推測された。

5-3 今後の研究課題

最後に本研究に対する今後の研究課題について述べる。

本研究は、滞在型宿泊システムのうち WWOOF を選択し、WWOOF ホスト約 450 の中で WWOOF 受入を公表しているホストの分析を行い、傾向を読み取り、先進的であると認識したホスト B さんに関して深く調査を行うことで、作業対価型宿泊システムを用いた地域課題解決に導く取り組みについて論じたものである。

しかし 2 章の中で示した容易に、WWOOF ホストですら 450 のホストがあり、傾向としては 90% のホストが地域活動に興味を後答え、訪日 WWOOFer を地域活動に使用している層は、約 45% 見られ、それぞれが地域に合わせた活動を訪日 WWOOFer と実践しているのである。

したがって、今後はより多くの事例調査を行い、ホストと WWOOFer そして地域住民の 3 者の関わり合いに着目し、地域性を鑑みた上で、調査を行う必要がある。

謝辞

本論文の執筆にあたって、多くの方々に出会い、その度に心あるご指導とご協力を頂きました。

本研究を進める中で、終始熱心な励ましと適切にご指導を賜り、論文という「作品」製作の難しさ、そしてそれを乗り越えるための楽しさをお教えくださった指導教官である川原晋教授に、最大の感謝の意を表します。ありがとうございました。

副査の菊地俊夫教授、岡村祐准教授をはじめとする観光科学研究科の先生方には、常に丁寧に筆者の発表に耳を傾けていただき、助言やご指導の言葉を頂きました。とりわけ、度重なる発表資料の添削を快諾され、惜しみなく多くのご指導と励ましをくださった平田徳恵特任助教にはひとかたならぬお世話になりました。心より感謝いたします。

本論文は、フィールド調査を中心に進めてきたものであり、研究対象地ホストや地域住民の方々や自治体の方々、そしてそこで活躍されている WWOOFer やボランティアの方々のご理解とご協力なしには、完成には決して至りませんでした。とりわけ、筆者の突然のお願いにも関わらず、研究協力を快くご承諾いただき、ご自身の経験やお考えを筆者に具に語り、そして本来であれば WWOOF 活動として作業に従事しなければならないにも拘わらず、筆者の調査時間を多大に確保し、地域の方々とお話しする機会を設けてくださった、岐阜県下呂市馬瀬地域のホスト A 氏、ホスト B 夫妻、また筆者に WWOOF やボランティアツーリズムの可能性をご教授くださり、常に暖かいお言葉と励ましをくださった札幌市のホスト C 氏の協力に、心より感謝を申し上げます。またヒアリング調査にご協力いただき、WWOOF や地域の将来、ならびに本研究に関して一緒に議論してくださった 18 名の WWOOFer やボランティアの皆さまや、ホスト A 氏、B 夫妻のもとで活動された 3 名の活動関係者の皆さま、および 27 名の地域住民の皆さまに、厚くお礼を申し上げます。

加えて、アンケート調査にご協力いただいたホストの皆さま、そしてかつて日本で作業対価型システムを利用した訪日外国人の皆さまには、丁寧な回答は

さることながら、時に叱咤激励を賜っていただきました。御礼申し上げます。

そして、ともに助け合い、切磋琢磨しあった観光科学域の学生の皆様にも感謝の意を表したく思います。特に、李鏞遠氏には、筆者の論文の展開に行き詰った際には、多忙にも関わらず常に嫌な顔せず多くの時間を割いて議論してください、多くの気づきを与えてくださいました。また呉康敏氏は、共に現地調査に足を運び、英語におけるインタビューにて常に適切な助けを与えると同時に、調査を常に楽しみあるものにしてくださいました。さらに永島奨之氏は、筆者の膨大なデータの整理に快く付き合い、寝る暇を惜しんでまで、丁寧なデータ集を仕上げていただきました。そして川原晋研究室の仲間たちとは、お互いに励まし合い、刺激し合い、時に愚痴も言い合い、苦しみの中でも楽しみを忘れずに研究を進めることができました。中でも、2年間共に同じ時間を過ごした戦友の川端南実希氏、中村結花氏、ケイエンチ氏には、厚く感謝致します。

最後に、筆者の思う道に進むことに関して、辛抱強く温かく見守り、環境を整え応援して下さった周りの皆々様、とりわけ両親に感謝の気持ちを申し上げます、謝辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。

図表リスト

1 章

- ・ 図 1-1 1964 年以降の年別訪日外国人数の推移 (JTB 総合研究所作成)
- ・ 図 1-2 作業対価型システム WWOOF の構造 (筆者作成)
- ・ 図 1-3 WWOOF Japan への登録ホスト数の変遷 (Burns 2014 より筆者作成)
- ・ 図 1-4 WWOOF ホストにおけるオーガニック農法の割合 (星野 2016 より筆者作成)
- ・ 図 1-5 WWOOF Japan への WWOOFer 数の変遷 (Burns 2014 より筆者作成)
- ・ 図 1-6 新規登録 WWOOFer の国籍 (2014 年度) (星野 2016 より筆者作成)
- ・ 図 1-7 新規登録ウーファ어의年代 (2014 年度) (星野 2016 より筆者作成)
- ・ 図 1-8 WWOOFer の滞在活動の傾向 (Burns 2015 より筆者作成)
- ・ 図 1-9 ホストの年間受入 WWOOFer 数 (Burns 2015 より筆者作成)
- ・ 図 1-10 WWOOFer の滞在期間 (Burns 2015 より筆者作成)
- ・ 図 1-11 WWOOFer に求められる日本語能力 (Burns 2015 より筆者作成)
- ・ 図 1-12 「労働」と観光が融合したツーリズムの類似例 (中村、松本、敷田 2008 より筆者作成)
- ・ 図 1-13 本研究の構成及び方法

2 章

- ・ 表 2-1 ホストの本業および地域活動と WWOOFer 活用の整理 (一部抜粋)
- ・ 表 2-2 ホスト本業分類傾表
- ・ 表 2-3 地域活動傾向及び具体的内容
- ・ 表 2-4 WWOOFer に対するアンケート着目質問項目 (詳細は巻末資料)
- ・ 表 2-5 ホストに対するアンケート着目質問項目

- ・ 図 2-1 WWOOFer 回答者の性別および年齢図
- ・ 図 2-2 WWOOFer 回答者の所属
- ・ 図 2-3 WWOOFer 回答者の日本語能力
- ・ 図 2-4 WWOOFer 回答者が交流した地域住民
- ・ 図 2-5 WWOOFer 回答者が地域住民と交流した活動
- ・ 図 2-6 WWOOFer 回答者が地域住民と知り合った経緯
- ・ 図 2-7 WWOOFer 回答者の地域住民との交流満足度
- ・ 図 2-8 WWOOFer 回答者の WWOOF 体験終了後の地域住民との連絡頻度
- ・ 図 2-9 WWOOFer 回答者の地域住民との交流の期待度
- ・ 図 2-10 ホスト決定時の「地域住民との交流」が持つ重要度
- ・ 図 2-11 再訪を決める際の「地域住民との交流」が持つ重要度
- ・ 図 2-12 ホスト回答者の本業
- ・ 図 2-13 ホスト回答者のホスト歴
- ・ 図 2-14 ホスト回答者の日本外在住歴
- ・ 図 2-15 ホスト回答者の地域活動に関する興味
- ・ 図 2-16 ホスト回答者の取り組んでいる地域活動
- ・ 図 2-17 ホスト回答者の地域活動への訪日 WWOOFer の活用
- ・ 図 2-18 ホスト回答者の訪日 WWOOFer を地域住民と繋げる意思
- ・ 図 2-19 ホストによる WWOOF 活用と地域活動の関係性

3 章

- ・ 図 3-1 下呂市馬瀬の表 3-1 馬瀬地域の人口分布（2015 年 4 月時点）
- ・ 図 3-2 下呂市地域別人口の推移（下呂市人口ビジョンより参照）
- ・ 図 3-3 馬瀬地域
- ・ 図 3-4 ホスト A さんのもとでの WWOOF 活動
- ・ 図 3-5 野原のプロジェクトの様子
- ・ 図 3-6 ホスト A さんの 2015 年の WWOOFer 受入状況
- ・ 図 3-7 ホスト A さん通常時の WWOOFer 滞在ログ

- ・ 図 3-8 ホスト A さん通常時の作業の様子
- ・ 図 3-9 A さん通常時 WWOOFer ログマップ (中切地区)
- ・ 図 3-10 ホスト A さん通常時の地域との関わりの様子
- ・ 図 3-11 アートイベント ArtGig の様子
- ・ 図 3-12 ホスト A さんイベント開催時の WWOOFer 滞在ログ
- ・ 図 3-13 A さんイベント時 WWOOFer ログマップ
- ・ 図 3-14 ホスト A さんイベント開催時の WWOOF 活動
- ・ 図 3-15 WWOOFer のイベント開催時の地域との関わりの様子
- ・ 図 3-16 ホスト B さんの本業での WWOOF 活動
- ・ 図 3-17 ホスト B 夫妻の 2015 年の WWOOFer 受入状況
- ・ 図 3-18 ホスト B 夫妻の WWOOFer 滞在ログ
- ・ 図 3-19 ホスト B 夫妻 WWOOFer ログマップ
- ・ 図 3-20 ホスト B 夫妻のもとでの WWOOF 活動
- ・ 図 3-21 ホスト B さんのもとでの地域との関わり
- ・ 図 3-22 地域住民 E さんのもとでの手伝い作成した野菜売り場
- ・ 表 3-1 馬瀬地域の人口分布 (2016 年 4 月時点)
- ・ 表 3-2 参与観察調査者および概要
- ・ 表 3-3 観察対象およびインフォーマンツリスト
- ・ 表 3-4 ホスト A さんの WWOOFer 受入概要 (数値は 2015 年のもの)
- ・ 表 3-5 ホスト B 夫妻の WWOOFer 受入概要 (数値は 2015 年のもの)
- ・ 表 3-6 ホスト B 夫妻の WWOOFer 受入概要 (数値は 2015 年のもの)
- ・ 表 3-7 B 夫妻の元 WWOOFer が再訪する理由
- ・ 表 3-8 B 夫妻が WWOOFer 受入に際して行う工夫点のまとめ

4 章

- ・ 図 4-1 ホスト B 夫妻の訪日外国人受入と活動展開経緯
- ・ 図 4-2 ホスト、地域住民、訪日外国人の各段階で求められる要素
- ・ 表 4-1 ホスト B 夫妻の活動年表一覧

5 章

- ・ 図 5-1 ホストの介在により広がる作業対価型滞在システムの拡がり

参考文献・資料

※各章で重複するモノもあるが重複したまま載せている。

また、すべてのインターネット情報の最終閲覧日は、2017年1月23日である。

1 章

- ・ 野田満、2016、中山間地域における地域マネジメントのための外部人材の活用に関する研究、早稲田大学大学院 想像理工学研究科 博士論文
- ・ 敷田麻実、2009、よそ者と地域づくりにおけるその役割にかんする研究、国際広報メディア・観光ジャーナル、9：79－100
- ・ 敷田麻実、2005、よそ者と協働する地域づくりの可能性に関する研究、江渟の久爾、50、p74-85
- ・ JTB 総合研究所、<http://www.tourism.jp/tourism-database/stats/inbound/>
- ・ 小堀守、2016、訪日旅行市場の拡大と地方分散化の現状及び JNTO の取り組み、運輸政策研究、19.1：53-58
- ・ 森重昌之、依田真美、2010、ボランティア・ツーリズムを通じた新たな都市・農村交流の可能性に関する研究、「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業論文集、15、37-42
- ・ 瀬戸内国際芸術祭実行委員会、2017、瀬戸内国際芸術祭 2016 総括報告
- ・ Dagmar Cronauer、(2012) HOST-GUEST RELATIONSHIP IN NON-COMMERCIAL TOURISM SETTING：WWOFING IN NEW ZEALAND、Victoria University of Wellington
- ・ Deville、Adrian、Stephen Wearing、Matthew McDonald、2016、"WWOOFing in Australia: ideas and lessons for a de-commodified sustainability tourism." Journal of Sustainable Tourism 24.1: 91-113.
- ・ Maycock、A. (2008). Worldwide Opportunities on Organic Farms (WWOOF). Journal of Agricultural & Food Information、9(4)、282-288.
- ・ William Terry、2014、Solving labor problems and building capacity in sustainable agriculture through volunteer tourism、Annals of Tourism

Research 49 (2014) 94–107

- WWOOF FoWO、<http://wwooof.net/>
- Burns, Glenn, and Takumi Kondo. 2014, "An Analysis of WWOOF Activities in Japan: Facilitating New Social Development."
- 星野紀代子、2016、旅とオーガニックと幸せと：WWOOF 農家とウーファーマーたち、コモンズ
- Glenn Burns (2016) WWOOF activities in Japan : Potential for edifying and nonmonetary tourism [an abstract of entire text]、theses (doctoral - abstract of entire text)
- 宮本憲一、1989、環境経済学、岩波書店
- 松永桂子、2014、「創造的地域社会の時代 農山村の自立とコミュニティ」、『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』、佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也（編）、学芸出版社
- ランドリー・C 著、後藤和子監訳、2003、創造都市論、日本評論社
- 佐々木雅幸、2014、「創造農村とは何か、なぜ今、注目を集めるのか」、『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』、佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也（編）、学芸出版社
- 萩原雅也、2014、「創造農村の構築と持続可能性」、『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』、佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也（編）、学芸出版社
- 総務省地域力創造グループ地域自立応援課、2012、創造的人材の定住・交流の促進に向けた事例調査。総務省
- 川井田祥子、2014、「漂流的定住者がひらく創造的解決への扉」、『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』、佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也（編）、学芸出版社
- 野田邦弘、2014、「創造人材の誘致による過疎への挑戦」、創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』、佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也（編）、学芸出版社
- S. L. Weating, N. G. McGehee, 2013, International Volunteer Tourism、Integrating Travellerws and Communities

- S. L. Weating、2001、Volunteer Tourism: Experiences that Make a Difference
- 依田真美、2011、ボランティアツーリズム研究の動向および今後の課題、国際広報メディア・観光学ジャーナル、12:3-19
- 中村 憲司、松本 秀人、敷田 麻実、2008、「労働」と観光が融合したボランティアツーリズムに関する研究、日本観光研究学会
- Margo B. Lipman、Laurie Murphy、2012、“Make Haste Slowly”: Environmental Sustainability and Willing Workers on Organic Farms”、Slow Tourism Experience and Mobilities、Simone Fullagar、Kevin W. Markwell、Erica Wilson、2012、pp 84-96
- Alvarez、Mary Ann Villanueva. World Wide Opportunities on Organic Farms (WWOOF). Diss. University of Oslo、2012. Mary Mostafanezhad、Organic farm volunteer tourism as social movement participation: a Polanyian political economy analysis of World Wide Opportunities on Organic Farms (WWOOF) in Hawai‘i
- Glenn Bums、2015、WWOOF IN JAPAN: DOES IT CONSTITUTE NEW SOCIAL DEVELOPMENT?
- Chrissie Reilly、2012、Hungering for Authenticity An Oral history project of WWOOF Japan、Class Project Research “Introduction to Oral History”、University of Maryland

2 章

- WWOOF Japan、<http://www.woofjapan.com/main/index.php?lang=en>
- SOY Takayama、<http://www.hidatakayama-soy.com/>
- 津村農園、<http://tsumura.dreamlog.jp/>
- ちきゅう暮らしの小さな村 中つ農園、
<https://www.facebook.com/nakatsuchi.earth/>
- 水田家の食卓、<http://mizutake.jimdo.com/>
- 友作農園
<https://www.facebook.com/%E5%8F%8B%E4%BD%9C%E8%BE%B2%E5>

%9C%92-%E5%8F%8B%E4%BD%9C%E9%87%8E%E8%8F%9C-5242161
47632511/

- 大きな木、 <http://in-www.ootaki.tv/~ookinaki/index.html>
- 新町農園 菜屋、 <http://sinmachinouen.blog.fc2.com/>
- 椀 de 縁、 <http://wan-de-en.com/>
- しいの木やま、 <http://www4.i-younet.ne.jp/~mokuji/>
- 太陽牧場、 <http://taiyobokujo.moo.jp/>
- IBIZA smoke restaurant、 <http://ibizasmokerestaurant.com/>
- Cafe アトリ、 <http://ameblo.jp/22252225/entry-10026123032.html>
- 我楽王国、 <http://garaku-o.net/>
- レインボーファミリー農園、 <http://rainbowfamily.blog101.fc2.com/>
- 極楽とんぼ農園、 <http://tombo.my.coocan.jp/sub02.html>
- NPO 東北明日の森、 <http://ashitanomori.blogspot.jp/search?q=woof>
- まめの木、 <http://sasayamaschool.ciao.jp/sasayama-freeschool/>
- ゆらりっこ、 <http://www.yurarikko.com/>
- GatewayEnglish、 <https://www.facebook.com/gateway.npo/>
- APERUY(アペルイ)、 <http://aperuy.com/>
- 小諸エコビレッジ (アバンティソーシャル事業部農業プロジェクト)、
<http://www.komoro-ecovillage.jp/>
- エコビレッジ プーラン、 <http://www.pelan.jp/>
- うの茶園、 <http://unocha.choitoippuku.com/index.html>
- Asaba art Square、
<https://www.facebook.com/Asaba-Art-Square-119204188128611/>
- マウンテンライフ飛騨、 <http://www.mt-life-hida.com/ja/>
- 硫酸山プロジェクト、 <http://www.d1.dion.ne.jp/~watabonz/>
- 田舎カフェ おそらゆき、 <http://osorayuki.com/>
- ハートンツリー、 <http://heartntree.jimdo.com/>
- 帯広電信通りシェアハウス、結、 <http://yui-tokachi.com/>
- カナンスローファーム、 <http://slow-farm.jpn.org/>
- 美山 里山舎、 <http://satoyama-sha.com/>

- Cafe Yotacco、<http://yotacco.com/>
- がんどうファーム、潮音館、<http://r.goope.jp/choonkan/>
- カフェ こかぷー、
<https://www.facebook.com/CafeCockapoo%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%B3%E3%82%AB%E3%83%97%E3%83%BC-217191428304517/>
- ルイの家、<http://blog.livedoor.jp/morilouis/?p=2>
- おへそカフェ、<http://www.ohesocafe.com/>
- ネパール料理 ティハール、<http://www.tihal.com/>
- イイジマ農園、<http://iijimanouen.com/>
- ふるさと牧場 久兼こぶしの里、<http://www.d2.dion.ne.jp/~mshim/>
- 安曇野地球宿、<http://chikyuyado.com/>
- 茶房 読書の森、<http://kp2y-yd.wixsite.com/gh-dokusyonomori>
- 山笑、<http://www.yamawarau.jp/yamawarau/home.html>
- とんさか森の学校、<http://tonsaka.jpn.org/>
- 福井農苑、<http://itadakizen.com/agro-philosophy/fukui/>
- いただき膳、<http://itadakizen.com/fukui/>
- 由良野の森、<http://www.yuranonomori.jp/>
- 前田農園、<http://maedafarm.blogspot.jp/>
- オーガニックファーム 88、<http://farm88.jp/>
- 自然農園ふたば、<http://vegfutaba.web.fc2.com/>
- ゆいまるふぁーむ能勢、
<https://www.facebook.com/%E3%82%86%E3%81%84%E3%81%BE%E3%82%8B%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%83%A0%E8%83%BD%E5%8B%A2-396122380467523/?nr>
- ガバレ農場、<http://www.geocities.jp/gabarehiroba2/>
- ぴたらファーム、<http://pitarafarm.com/>
- Sho farm、<http://sho-farm.sunnyday.jp/>
- 黄緑ファーム、<http://kimidorifarm.com/>
- 皆農塾 恵子の百姓の家、<http://kainoujuku.com/>

- まんまる農園、<http://manmarunouen.jimdo.com/>
- 百姓寅さん、畑の学校、<http://ameblo.jp/hyakusyoutrasan/>
- 小野農園、<http://blog.goo.ne.jp/ononouenn>
- 大野村農園、<http://oonomuranouen.wixsite.com/soma>
- なかよし農園、
<http://www.ops.dti.ne.jp/liaisonacademia.npo/Nagoya%20Girl%202013.html>
- じろ一畑、<http://tt-minamiaso.blogspot.jp/>
- くすのき農園、<http://kusunoki-farm.com/>
- 藤野倶楽部、<http://www.fujinoclub.co.jp/about.html>
- 百笑たきのうえ、<http://www.hyakushow.jp/>
- 里山生活学校、里山農場 うたがき優明圏、<http://satoyama.sunnyday.jp/>
- 蔬菜や、<http://sosaiya.com/?p=463>
- NPO 法人コスモ夢舞台、<http://www.cosmoyume.net/>
- 田舎暮らしの日々是好日、<http://blog.goo.ne.jp/waitande->
- "農園 cafe hakari / 大北農園"、<http://nouen.o-kita.net/shoukai.html>
- やまびこ農場、yamabikoworld.web.fc2.com/index.htm?
- 野原のミュージアム、<http://moon.ap.teacup.com/nohara/>
- ジュンカンファームすわ、
https://www.facebook.com/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%83%B3%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%81%99%E3%82%8F-820820884690985/about/?entry_point=about_section_header&ref=page_internal
- Satoyama Landscape、<https://www.facebook.com/satoyamalandscape/>
- 関塚農場、sekidukanoujou.com
- とりかぶと生活科学研究所、<http://www.pal.co.jp/torikabuto/>
- Leaf & Root community garden caf?、<http://leaf-and-root.com/>
- NPO 法人 BLOOM、<http://npobloom.com/>
- ヤーコン よしとも、<http://e-yoshitomo.com/>
- ギャラリー TATI、

- Q陽、<http://www.qyo-japan.com/>
- もりのいえ、<http://maasan.blog19.fc2.com/>
- 種まきハウス、NA
- えみの店、<http://eminomise.com/>
- やさと農場、<http://www.kurashilabo.net/index.html>
- やんばんる・シンヌカルチャービレッジ、<http://y-sv.jimdo.com/>
- タビタのパン、
<https://www.facebook.com/%E3%82%BF%E3%83%93%E3%82%BF%E3%81%AE%E3%83%91%E3%83%B3-1441597062769250/>
- グリーンヒルズ松永、<http://green-hillz88.jimdo.com/>
- うみかぜ学校、
<http://blogs.yahoo.co.jp/pochij339/MYBLOG/yblog.html?m=lc&p=4>
- さつきやま 森のようちえん、<http://www.youchien.eggs-nature.net/>
- 海宿 5 マイル、<http://amami5mile.exblog.jp/>
- 風の原っぱ、<http://www.jca.apc.org/~uratchan/harappa/>
- 木香庵、花ステーションワカミヤシェハウス、
<https://www.facebook.com/wakamiya.sharehouse>
- カリンパニ・ニセコ藤山、<http://www.karimpani-niseko.com/>
- 藍の里あさもと工房、<http://www.aizome.jp/>
- うみかぜホースファーム、<http://www.yonaguniuma.com/umikaze>
- カナディアンファーム、<http://www.go-canadianfarm.com/>
- あまたま農園、<http://amatamafarm.webcrow.jp/>
- ひらの園、<http://www.hiranoorange.com/top.html>
- 上門農園、<http://www.kanotakumi-uekadofarm.com/>
- 若葉農園、<http://www.geocities.jp/hiyoko0930/>
- 農事組合法人 うまいくだもの園、<http://www.yamagatada.com/1/>
- 農村カフェ beberui、<http://beberui.sapolog.com/>
- 南ふらのベリーズ、<http://www.berries666.jp/>
- 民宿ゆうゆう、<http://tanegashima-yuyu.com/>
- 伊江島ビーチサイドホースパーク、<http://ie-horse.wixsite.com/ieuma>

- ・ あぶらむの会、<http://www.abram-no-kai.com/>
- ・ アワジ・ツーリスト・トロフィーハウス、
<http://www.water.sannet.ne.jp/bmw2002turbo/index.html>
- ・ ゆすの木、<http://yusunoki.jp/>
- ・ ファームカモ、<http://www.farmkamo.info/>
- ・ 豆に暮らす野の暮らし研究所、<http://www.doronkomura.com/>
- ・ うい農場、<http://noujyounissi.blog.jp/>
- ・ おぐらやま農場、<http://www.ogurayamashop.com/>
- ・ 神田自然農園、<http://kandasizennouen.jimdo.com/>
- ・ なばたけ農場、<http://nabatake-farm.jp/blog/>
- ・ 中村農園、
<https://www.facebook.com/%E4%B8%AD%E6%9D%91%E8%BE%B2%E5%9C%92-Nakamura-Farm-239210226115617/>
- ・ 株式会社 blofers 、<https://www.facebook.com/blofers/>
- ・ ひだまり農園、<http://blogs.yahoo.co.jp/momurice>
- ・ 大朝ふれあいりんご園、<http://ringoen.exblog.jp/>
- ・ 坂本農場、<http://sakamotofarm3592.web.fc2.com/>
- ・ 自然農園つちのしらべ、<http://tsuchinoshirabe.okoshi-yasu.net/>
- ・ 山田農園 ひるぜん高原、<http://yamadafarm.com/>
- ・ 神峯園、<https://shinpoen.com/commerce/>
- ・ 余市ハル農園、<http://haru-yoichi.seesaa.net/article/400293877.html>
- ・ カリフリ農場、<http://karifurifarm.blog.fc2.com/>
- ・ 北海道 美深農園、<http://plaza.rakuten.co.jp/noutetsu/>
- ・ ちなた・ふぁ～む、<http://www.chinita1992.com/>
- ・ Happy place、<http://www.drytomato.com/>
- ・ あいがも米農家、<http://ameblo.jp/hotaru-mai/entry-12154496295.html>
- ・ 中込農園、<http://www.nakagomi-orchard.server-shared.com/>
- ・ さいのね畑、<http://www.sainone.com/>
- ・ ぴ-Garden、<http://pigarden.exblog.jp/>
- ・ オルタナティブファーム宮古（いや絶対違うと思うけど）、

- http://alternative-farm.com/product_list/
- れんげファーム、<http://ameblo.jp/renge369/>
 - 椋島農園、<http://kb197600.blog111.fc2.com/>
 - やんばる光花園、
<https://www.facebook.com/%E3%82%84%E3%82%93%E3%81%B0%E3%82%8B%E5%85%89%E8%8A%B1%E5%9C%92Yanbaru-Koka-En-215414095147532/>
 - ikumi トマトオーガニックファーム、NA
 - 自然農園 ウレパモシリ、http://ureshipa.com/about/about_ureshipa.htm
 - 明石農園、<http://www.aso.ne.jp/~akashimt/>
 - 岩木山麓しらとり農場、<http://higashiiwakisan.blog.fc2.com/>
 - 白水さん、<http://blog.goo.ne.jp/colocololand>
 - ポノポノ自然農園、
 - 足立義男、
<http://shimaken.org/nogyou2/WWOOF%E3%83%9B%E3%82%B9%E3%83%88%E3%81%95%E3%82%93%E7%B4%B9%E4%BB%8B/%E8%B6%B3%E7%AB%8B%E5%96%84%E7%94%B7-%E3%81%95%E3%82%93/>
 - テラ・憩いの里、<http://teraikoi.com/>
 - 穂谷自然農園、<http://hotanishizen.web.fc2.com/>
 - 人生の楽園ぽかぽか村、<http://pokapokamura.com/>
 - 藤井荘、<http://www.dwave.gr.jp/fujiiso/>
 - アラビアン・ホース・プランテーション、
<http://www.arabu-hidaka.com/index.html>
 - うらがみミート、<http://ameblo.jp/uragamiham/>
 - 高坂農園、<http://www7.plala.or.jp/kohsakanouen/>
 - ちえのわ農園、<http://www7b.biglobe.ne.jp/~chienowa24/>
 - 米田農園、<http://yonedafarm.blog.fc2.com/>
 - 農業体験型料理教室 マクロビもりあん、
<http://ameblo.jp/maqurobi-morian/>
 - メリーモント、<http://merriemont.blog71.fc2.com/>

- ・ 節恵庵、<http://blogs.yahoo.co.jp/setsukeian2>
- ・ とまりゃんせ、
<http://www.okuyamato.pref.nara.jp/nouka/stay/tomaryanse.html>
- ・ コスモイン 有機園、<http://ww82.tiki.ne.jp/~cosmo-yuki/index.htm>
- ・ 農家民宿レストラン 藤原おわて、<http://owate.jimdo.com/>
- ・ 梶谷農園、<http://kajiyafarm.saleshop.jp/>
- ・ うちうみハーブ園、<http://uchiumiherb.com/about.html>
- ・ 魂喜村、<http://konkimura.jp/>
- ・ ジャガタラ、<http://www.biei-jacatra.jp/about>
- ・ 菜摘実の里、<http://www.village723.com/>
- ・ 由良守生、<http://blog.yuramorio.com/>
- ・ 里山民泊 みくり、
http://gazoo.com/my/sites/0001452226/MIYAGAWA_MURA004/default.aspx
- ・ 木工房菜の花、<http://www.nanohana-mokumoku.com/>
- ・ つくしんぼ、<https://www.facebook.com/tsukushinbo/>
- ・ ナッツふぁーむ、
http://www3.city.asahikawa.hokkaido.jp/kenkou/01_chikusan/011_nattsu.html
- ・ 藤谷容子、<http://usshisshi.exblog.jp/>
- ・ 御宿 総本家、<http://souhonke.info/>
- ・ シャロムの森、<http://shalomnet.net/>
- ・ 大黒屋・サンガム caf?、<http://daikokuya-sangam.on.omisenomikata.jp/>

3 章

- ・ 下呂市、2015、「下呂市まち・ひと・しごと 創生総合戦略下呂市人口ビジョン」
- ・ 下呂市役所経営管理部企画財務課、2016年、「2015年 下呂市データ集～数字で見る 下呂市～」
- ・ 下呂市、「平成28年4月末地区別人口」

http://www.city.gero.lg.jp/departmentTop/node_1047/node_1087/node_27328

- ・ 馬瀬地方自然公園ホームページ、
<http://www.maze-shizenkouen.jp/index.php>
- ・ 野原のプロジェクトホームページ、<http://moon.ap.teacup.com/nohara/>
- ・ 野原のミュージアム Faceook
<https://www.facebook.com/nohara.museum/?fref=ts>
- ・ マウンテンライフ飛騨ホームページ、<http://www.mt-life-hida.com/ja/>
- ・ マウンテンライフ飛騨 facebook ページ
https://www.facebook.com/MountainLifeHida/?ref=br_rs

4 章

- ・ NPO 法人馬瀬川プロデュース、2016、「定款・総会資料」
- ・ NPO 法人馬瀬川プロデュース、2011 年、下呂市馬瀬地区合併浄化槽 100% 普及推進協議会活動報告
- ・ NPO 法人馬瀬川プロデュース、2006 年、「NPO 馬瀬川プロデュース 第 1 回通常総会」
- ・ 額田聖菜、2014、「旅におけるつながり：移動的世界における観光、テクノロジー、一体感」、京都社会学年報：KJS = Kyoto journal of sociology (2014)、22: 141-148
- ・ 水辺の館、<http://www.mazegawa.com/mizube/index.php>
- ・ マウンテンライフ飛騨、<http://www.mt-life-hida.com/ja/>

付録 2-1

ホスト	ホスト事業	地域活動	地域活動の内容	地域活動へのWwoofErの関わり	本業および地域活動へのWwoofErの関わり
ホスト1	宿泊	○	料理教室の開催、ライブの開催、餃子づくり講習会	×	NA
ホスト2	農業	○	高校の授業の受入、近隣の農園の手伝い、国際交流の提案	○	メンバー
ホスト3	農業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト4	宿泊、農業	○	マルシェへの出店、近所の海外友人の受入、講演会	×	NA
ホスト5	農業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト6	家庭菜園、飲食加工	○	マルシェイベントへの出店、高校の受入	×	NA
ホスト7	農業、飲食業	○	マルシェへの出店	×	NA
ホスト8	宿泊業、飲食業	○	アートプロジェクトへの参画、清水探し、言語交流の機会提供	○	言語、コック経験、プロダクトデザイン等、メンバー
ホスト9	宿泊業、飲食業	○	近隣の農園の手伝い	×	料理コック、メンバー
ホスト10	飼育、飲食製造・販売	○	マルシェ、イベントへの出店	○	メンバー
ホスト11	飲食業	○	近隣店とのコラボイベント	×	料理コック、メンバー
ホスト12	農業、飲食業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト13	農業、宿泊業、飲食加工	○	収穫体験、食品加工体験、WS等イベントの開催	×	料理コック体験、メンバー
ホスト14	農業	×	NA	×	NA
ホスト15	農業、飲食販売	○	収穫イベントの開催	×	メンバー
ホスト16	農業	○	マルシェ等イベントへの出店、イベントの開催	×	メンバー
ホスト17	教育	×	NA	×	NA
ホスト18	教育	○	季節ごとのイベントの開催	○	メンバー
ホスト19	教育	×	NA	×	NA
ホスト20	農業、飲食、建設、飼育	○	自然の中でのアクティビティの体験イベント	○	メンバー
ホスト21	農業、教育	×	NA	×	NA
ホスト22	農業	○	マルシェへの出店、講演会	×	メンバー
ホスト23	農業	○	マルシェへの出店	×	PCスキル、メンバー
ホスト24	教育、飲食	○	WSの開催、アート系イベントの開催	×	NA
ホスト25	観光、教育	○	アドベンチャープログラムの提供	○	言語面でのサポート
ホスト26	農業	○	自然観察会	○	メンバー
ホスト27	飲食	○	マルシェへの出店、パン教室、収穫体験イベントなど	×	NA
ホスト28	飲食、教育、宿泊	○	料理教室、交流会・セミナーの開催	○	料理コック、メンバー
ホスト29	飲食、宿泊	○		○	料理コック
ホスト30	飲食、宿泊	○	音楽イベント、トークライブ、ワークショップ	×	NA
ホスト31	飲食	○	ワークショップ	○	料理コック
ホスト32	飲食、農業	○	料理イベント	○	料理コック、メンバー
ホスト33	飲食、農業	○	トークイベント、マルシェの開催	○	トークイベントスピーカー、メンバー
ホスト34	飲食	○	インターナショナルカフェ	○	メンバー
ホスト35	飲食	○	パレエ教室	○	メンバー
ホスト36	飲食	○	パン教室、マルシェへの出店	○	メンバー
ホスト37	飲食	×	NA	×	NA
ホスト38	観光	○	農作業体験イベント	×	メンバー
ホスト39	農業、教育	○	牧場研修、体験学習	×	メンバー
ホスト40	宿泊	○	農作業体験、交流会、ワークショップ	○	メンバー
ホスト41	宿泊、飲食	○	コンサート、オルガン教室、山羊の乳搾り体験等	○	メンバー
ホスト42	飲食、農業	○	ワークショップ	×	メンバー
ホスト43	教育	○	農作業体験、アウトドアアクティビティ体験	×	メンバー
ホスト44	建設	○	料理教室、お話会の開催、マルシェへの出店	×	NA
ホスト45	農業	○	農作業体験、染織りのワークショップ、	×	メンバー
ホスト46	農業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト47	農業	○	馬糞、田植え体験会	×	メンバー
ホスト48	農業	○	農作業体験、アート展の開催、コンサート	×	NA
ホスト49	農業	○	マルシェへの出店、地元高校への派遣	○	地元高校への訪問、トーク、言語
ホスト50	農業	○	農作業体験	×	NA
ホスト51	農業	○	農作業体験	×	メンバー
ホスト52	農業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト53	農業	○	農作業体験	×	メンバー
ホスト54	農業	○	農作業体験、カウンセリング	○	メンバー
ホスト55	農業	○	農作業体験、季節イベントの開催、職場体験の提供	×	メンバー
ホスト56	農業	○	農作業体験、マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト57	農業	○	マルシェへの出店、豆腐作り体験会、農作業体験	×	メンバー（設計のスキル、言語、地元料理）
ホスト58	農業	○	農作業体験、地域誌での執筆、職場体験の提供	×	メンバー
ホスト59	農業	○	移住相談会	×	NA
ホスト60	農業	○	ワークショップ、お話し	×	NA
ホスト61	農業	○	茶会話教室、書道教室、陶芸体験	○	メンバー
ホスト62	農業、飲食、	○	農園の貸し出し、イベントスペースの提供、ワークショップ	×	メンバー
ホスト63	農業	○	農作業体験	×	メンバー
ホスト64	農業	○	里山観察会、ワークショップ	×	メンバー
ホスト65	農業	○	マルシェへの出店	×	メンバー
ホスト66	農業、宿泊	○	コンサート、講演会	×	NA
ホスト67	農業	○	農作業体験	×	NA
ホスト68	農業、飲食	○	農作業体験、地元小学校での食育授業	×	NA
ホスト69	農業、飲食	○	マルシェへの出店、収穫祭	○	メンバー（収穫祭への参加）
ホスト70	農業	○	アートイベント、ワークショップ	○	メンバー（アートイベントの準備）
ホスト71	農業	○	マルシェへの出店、農作業体験	○	メンバー（マルシェでの接客）
ホスト72	農業、飲食	○	マルシェへの出店、ワークショップ	○	マルシェ出店用の商品の開発
ホスト73	農業	○	研修生の受け入れ	×	NA
ホスト74	教育	○	自然系アクティビティ教室	×	NA
ホスト75	農業	○	音楽系イベント、アートイベント企画	×	NA
ホスト76	教育	○	教育機関と連携した社会活動（就学支援etc）	×	メンバー
ホスト77	農業	○	マルシェへの出店、農作業体験	×	メンバー、地元料理振舞う
ホスト78	アート、家庭菜園	○	陶芸体験教室、個展への出品	○	個展用の作品制作
ホスト79	農業、教育、スポーツ	○	茶会話教室、イベントスペースの提供、農作業体験	×	メンバー
ホスト80	農業	○	マルシェへの出店、レクリエーション企画	○	企画考案、メンバー
ホスト81	農業、建設	○	マルシェへの出店、レクリエーション企画	×	NA
ホスト82	農業、飲食	○	マルシェへの出店	○	メンバー
ホスト83	農業	○	宿泊体験、研修生受け入れ	×	メンバー
ホスト84	その他	○	ワークショップ、マルシェ企画	×	NA
ホスト85	飲食販売	○	マルシェへの出店	×	メンバー

Questionnaire to learn about volunteer experiences in Japan and relationships between volunteers, hosts, and local people

Dear volunteers,

I'm Ai OKADA, a Masters student at Tokyo Metropolitan University, Japan.

My research interest is about the role of foreign tourists in the community-based development of rural areas. Through non-monetary volunteer systems like WWOOF, HelpX and Workaway, I believe that foreign tourists could help in places where financial and manpower resources are low, but physical resources such as food and accommodation are high. The volunteer systems mentioned above may be one of the ways to promote the influx of people to rural areas, given that these areas are rapidly repopulating.

The benefits that non-monetary volunteer system provides may not be limited to the hosts, but also extend to local people in the area.

Target : Volunteers who used NON-MONETARY exchange systems to volunteer in Japan, e.g. WWOOF, HelpX, Workaway etc. This does NOT include activities like disaster-relief.

Number of all questions : 37 (approximately 10 minutes)

Privacy: The information collected from this survey will be used for this research only, and private information will not be disclosed.

For those who completed my survey, I can send an English abstract to you after the completion of my thesis, which will be in March 2017.

Thank you for your help.

Ai OKADA
Graduate Student
Kawahara Lab, Department of Tourism Science
Graduate School of Urban Environmental Sciences
Tokyo Metropolitan University
(http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/index_en.html)
Email : tmu.volunteersys.questionnaire@gmail.com

*必須

1) About your tourism in Japan, when you utilized volunteer system in Japan for the first time

1. How many times have you been to Japan before your first Japanese volunteer experience?

*

1つだけマークしてください。

- none
- once
- twice
- 3 times
- 4 times
- 5 times
- more than 5 times

2. Why did you come to Japan ? *

当てはまるものをすべて選択してください。

- Sightseeing
- Visiting friends/family
- Learning/Practicing Japanese
- Training or Practicing
- Finding job
- Preparing for life in Japan in the future
- その他: _____

3. How many days did you stay in Japan in your first volunteer experience? *

4. How much was your traveling budget at that time? *

(Please answer the amount in Japanese yen, excluding flight cost)

2) About your volunteer experiences in Japan

5. Which volunteer system did you utilize in your first Japanese volunteer experience? *

1つだけマークしてください。

- WWOOF
- Workaway
- Help X
- その他: _____

6. Why did you volunteer? Choose the 2 most important reasons. *

当てはまるものをすべて選択してください。

- Experience Japanese daily life
- Experience Japanese rural life
- Learn / practise Japanese / other language
- Preparing for life in Japan in the future
- Desire to find job
- Make friends in Japan
- Unexpensive travelling opportunity
- Learn about organic life and agriculture
- Test/overcome your limits
- その他: _____

7. How many times have you volunteered using Help X, WWOOF, or Workaway in countries other than Japan? *

1つだけマークしてください。

- none
- once
- twice
- 3 times
- 4 times
- 5 times
- more than 5 times

8. How many days in total did you volunteer in your first volunteer experience in Japan? *

9. How many hosts did you visit in your first volunteer experience in Japan? *

1つだけマークしてください。

- 1 host
- 2 hosts
- 3 hosts
- 4 hosts
- 5 hosts
- 6 hosts
- 7 hosts
- 8 hosts
- 9 hosts
- 10 hosts
- more than 10 hosts

10. How important are the factors below when you choose your host? *

1行につき1つだけマークしてください。

	very important	important	neutral	not important	insignificant
location	<input type="radio"/>				
business of hosts	<input type="radio"/>				
volunteer activity	<input type="radio"/>				
relationship with local people	<input type="radio"/>				
household environment	<input type="radio"/>				
non-Japanese language skill	<input type="radio"/>				
environment you can practice your Japanese	<input type="radio"/>				

11. Any other important factors to consider when choosing your host?

12. Did your host(s) try to utilize your skill, background or your character for their activities, or for activities in the local area? Please share your story. *

(Ex : Singing/playing songs, Teaching languages, Designing pamphlet with IT, Cooking speciality in your home town etc.....)

13. Did your host(s) try to utilize your skill, background or your character for other activities/businesses? Please share your story. *

(Ex : helping at a neighbour's farm, being introduced at a local school about yourself and your country/culture, etc.)

3) Communication with local people during your BEST volunteer experience in Japan

14. Did you expect to have communication with local people other than the host? *

1つだけマークしてください。

- Yes
- No

15. With whom did you communicate, besides the host? *

当てはまるものをすべて選択してください。

- Family/relatives of host
- Co-workers of host
- Neighbors of host
- Friends of host
- Customer of host
- Tourists in the host area
- None
- その他: _____

16. What were the nature of communications with people other than the host? (Multiple answers allowed) *

当てはまるものをすべて選択してください。

- Greeting
- Conversation
- Participating in events or festival as visitor (ex : local festival)
- Working together at host
- Helping their business (ex : Helping neighbor farm,)
- Helping activity of local community (ex : Having language lesson, Visiting school to introduce your culture, Monitoring tourists tour, Weeding at public space)
- Getting/ borrowing something from local people (ex : vegetable, fish, meal, clothes, commodity etc...)
- Nothing
- その他: _____

17. Please share your story(s) about these communications. *

18. How did you get to know the local people? (Multiple answers allowed) *

当てはまるものをすべて選択してください。

- communication during your activity
- Host introduced/brought you to them
- Local people approached you
- You approached the local people
- その他: _____

19. **Were you satisfied with the communication with/among the local people? ***

1つだけマークしてください。

- Yes, very much
- Yes
- No
- Dislike

20. **Do you still keep in touch with the local people now? ***

1つだけマークしてください。

- Yes, often
- Yes sometime
- Yes, planning to visit again
- Yes, welcoming them in the near future in your country
- Yes, knowing their address or SNS account but didn't have communication
- No

4) Communication with other volunteers during your BEST volunteer experience in Japan

21. **Did you have any communication with other volunteers you met at the host? ***

1つだけマークしてください。

- Yes
- No

22. **Were you satisfied with the communication with/among other volunteers? ***

1つだけマークしてください。

- Yes, very much
- Yes
- No
- Dislike

23. **Do you still keep in touch with other volunteers now? ***

1つだけマークしてください。

- Yes, often
- Yes, sometimes
- Yes, planning to visit
- Yes, welcoming them in the near future to your country
- Yes, knowing their address or social media account but didn't have communication
- No

5) About your intention to repeat your visit to Japan and your BEST host

24. Do you plan to come to Japan again in the future? *

1つだけマークしてください。

Yes

No

25. If you answer "yes" to previous question, What would you like to do for your next trip to Japan? *

1つだけマークしてください。

Sightsee

Visit friends/Family

Volunteer

Learn Japanese

Study at a school

Practice/ Training

Work

Migrate to Japan

その他: _____

26. Do you plan to come back to your best host again in the future? *

1つだけマークしてください。

Yes

No

27. If you have a chance to come back to Japan again, what would you like to do? *

1つだけマークしてください。

sightsee

visit friends

Volunteer

Student

Train

Work

Immigrant

I will not come back to Japan again

その他: _____

28. For your repeated visit, how important are the following factors? *

1行につき1つだけマークしてください。

	very important	important	neutral	not important	insignificant
location	<input type="radio"/>				
business of hosts	<input type="radio"/>				
volunteer activity	<input type="radio"/>				
relationship with host	<input type="radio"/>				
relationship with local people	<input type="radio"/>				
household environment	<input type="radio"/>				
non-Japanese language skill	<input type="radio"/>				
environment where you can practice your Japanese	<input type="radio"/>				

29. Any other important factors to consider for your repeat visit?

6) About your profile

30. Gender *

1つだけマークしてください。

- Male
- Female
- Prefer not to say
- その他: _____

31. Age *

1つだけマークしてください。

- 19 or below
- 20-24
- 25-29
- 30-34
- 35-39
- 40-44
- 45-49
- 50-54
- 55-59
- 60 or over

32. Nationality *

33. **Occupation ***

1つだけマークしてください。

- Student
- Self-Employed
- Employee
- Currently unemployed
- その他: _____

34. **If you chose "Student", "Self-employed", "Employee" in previous question, please write down your major or line of work.**

35. **If currently unemployed, what was your previous line of work, or major, if you were a student?**

36. **Japanese language level (during your BEST volunteer experience in Japan) ***

1行につき1つだけマークしてください。

	None	Elementary	Intermediate	Advanced	Native
Speaking	<input type="radio"/>				
Listening	<input type="radio"/>				
Writing	<input type="radio"/>				
Reading	<input type="radio"/>				

37. **If you would like to have a summary of my thesis, please provide your email address**

Powered by



ボランティア・システムを利用する外国人の交流・活躍の状況に関するアンケート

首都大学東京 都市環境科学研究科 修士2年の岡田愛と申します。

私は現在、「ボランティア・システムを利用する外国人の交流・活躍の状況」をテーマに修士論文を執筆しております。本アンケートは、WWOOFやWorkawayやHelpXなどのボランティア・システムのホストをされている方を対象に、ホストの皆様のもとに訪れる外国人が、皆様のビジネスや地域活動にどう関わっているかを教えていただきたく、実施するものです。どうぞご協力お願いいたします。

ご回答いただいた方で、連絡先をお伝えいただいた方には、本研究成果を3月頃フィードバックさせていただきます。また、皆様の活動が記されたHPやFacebookページのリンク集(本アンケート末尾でご許可をいただいた方のみ掲載)も送らせていただきます。

なお、本調査の回答結果に関しましては、本研究以外で使用することはせず、論文等で公表する際には、個人情報が出ないように統計処理を行います。どうぞよろしく申し上げます。(回答時間約10分)

【お問い合わせ先】

首都大学東京 都市環境科学研究科 観光科学域 川原研究室

<http://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/aboutus/member.html>

岡田 愛 (tmu.volunteersys.questionnaire@gmail.com)

*必須

リンク集のイメージ

	ホスト事業名	場所	リンク先	取り組みや活動
専業農家				
1	〇〇ファーム	北海道	www.aaaaaaaaaaaaaaaa.com	トマト農家
2	▲▲農場		www.aaaaaaaaaaaaaaaa.com	米農家、田植えイベント開催
Eco village				
3	■ ■村		www.aaaaaaaaaaaaaaaa.com	薪ストーブ WS 開催
4	□□ビレッジ		www.aaaaaaaaaaaaaaaa.com	ゲストハウスも運営
			・	
			・	

①ボランティアの受け入れについて

1. どのボランティア・システムを活用していますか？ *

複数回答あり

当てはまるものをすべて選択してください。

WWOOF

Workaway

HelpX

その他:

2. どのようにしてこれらのボランティア制度を知りましたか？ *

当てはまるものをすべて選択してください。

- かつてユーザーだった
- 地域内での口コミ
- 同業者間での口コミ
- Web
- 書籍
- 雑誌
- テレビ
- その他:

3. なぜホストを始めましたか、当てはまる理由に順位をつけてください。

1 行につき 1 つだけマークしてください。

	自らのビジネスや生活のマンパワ ー的な手伝いを得るため	外部の人との交 流を持つため	海外からの人材を 確保するため	そ 他
1位	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2位	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3位	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

4. もしその他をお選びの場合、詳細をぜひお教えくだ
さい。

5. 年にどれほどのボランティアを受け入れますか？ *

1 つだけマークしてください。

- 0人
- ~5人
- ~20人
- ~40人
- ~60人
- ~80人
- 80人以上

6. そのうち海外からのボランティアの割合はどれほどですか？ *

1 つだけマークしてください。

- 0割
- 1割
- 2~3割
- 4~5割
- 6~7割
- 8~9割
- 10割

7. 何をもってWWOOFerを受け入れる判断をしますか？上位3つの基準をお教えてください。
1行につき1つだけマークしてください。

	滞在期間	WWOOFerの持っている技術	英語能力	その他言語能力	国籍	その他
1位	<input type="radio"/>					
2位	<input type="radio"/>					
3位	<input type="radio"/>					

8. もしその他をお選びの場合、詳細をぜひお教えてください。

②ボランティアの再訪について

9. 今までのボランティアの中で、再度訪れた日本人ボランティアはどのくらいいますか？ *
1つだけマークしてください。

- 0人
 ~5人
 ~20人
 ~40人
 ~60人
 ~60人以上

10. 日本人ボランティアが再度訪ねる理由はなんですか *
当てはまるものをすべて選択してください。

- ボランティアシステムを通して、再びボランティアをしに来た
 ボランティアシステムを通さず、再びホストの手伝いをしに来た
 友人としてホストに再会しに来た
 地域に、移住働くためにきた
 その他:

11. 今までのボランティアの中で、再度海外から訪れたボランティアはどのくらいいますか？ *
1つだけマークしてください。

- ~5人
 ~20人
 ~40人
 ~80人
 80以上

12. 海外からのボランティアが再度訪ねる理由はなんですか *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ボランティアシステムを通して、再びボランティアをしに来た
- ボランティアシステムを通さず、再びホストの手伝いをしに来た
- 友人としてホストに再会しに来た
- 地域で留学するために来た
- 地域に移住、働くために来た
- その他:

③ホストの地域活動とボランティアについて

13. あなたは地域の中での活動に興味がありますか？ *

1 つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

14. 実際に地域の人と協働して取り組んでいる地域活動があれば以下の中より、お選びください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 農業体験WSやイベントの開催(ex: 草刈り、収穫祭)
- 地域マルシェの開催(ex: 私有地の一部をマルシェ会場として開放)
- 地域マルシェへの参加(ex: 月に1日はマルシェでの出張販売)
- 建物づくりWSやイベントの開催(ex: セルフビルの建築、古民家のリノベーション)
- お料理教室やお料理イベントの開催(ex: 郷土料理教室、海外の料理教室)
- 里山生活WS(ex: 五右衛門風呂利用法、薪ストーブ活用法)
- スポーツWS(ヨガなど)の提供
- 地域の環境保全・環境浄化活動への従事(ex: 公共地での植林活動、緑化活動、美化活動)
- 地域の子供の集いの場の提供(ex: 地域の子供の間で交流が生まれることを意識したコミュニティ・カフェ)
- 地域の子供の学習の場の提供(ex: サロンや教室の開講)
- 地域の学校と協働した出張授業(自らの体験やスキルを用いて)
- 地域の生徒/学生の職場体験受入
- 音楽イベントの開催
- アートイベントの開催
- その他:

15. 具体的な活動内容をぜひお教えてください。

.....

.....

.....

.....

16. 海外からのボランティアも地域の活動に参加していますか？ *

1つだけマークしてください。

- はい、彼らが主役として活動に参加しています(ex: ボランティアによる料理教室、言語教室)
- はい、彼らが活動のスタッフとして参加します(ex: 案内係、一緒にWSを受ける)
- いいえ、地域活動には参加しません。

17. 海外からのボランティアを地域の人とつなげようと思いますか？ *

1つだけマークしてください。

- はい、積極的に繋げる機会をもうけている
- 積極的に機会を設けることはないが、自然につながっていけばいいと思う
- いいえ

④ボランティアと地域の人との交流について

18. ボランティアはどのような地域の人と交流を持ちますか？ *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 家族／親戚
- 仕事場で働いている人
- 顧客
- 近所の人
- 友人
- お住まいの自治体職員
- 特になし
- その他:

19. ボランティアは地域住民とどのような交流を持っていますか？ *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 挨拶
- 日常会話
- ホストの仕事や活動を一緒にする(例: ホストのビジネスの手伝い、ホスト主催のイベントスタッフ)
- 近所の人のお手伝いをする(例: 近所の農家の繁忙期に手伝いに行く)
- 地域の活動に参加する(例: 地域の美化活動、学校への出張講座)
- その他:

20. 地域住民から海外ボランティアはどのように受け止められていますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 手伝いを提供してくれる
- 様々なアイデアや刺激をくれる
- 語学力を磨いてくれる
- 海外の知恵を教えてくれる
- 当たり前の存在
- 珍しいの存在
- 治安が悪くなりそう
- 拒絶はしないものの無関心
- その他:

21. 日頃より、地域内で物々交換や、ものの貸し借り、おすそ分けなどがありますか？ *

(例: 余った野菜や食材のおすそ分け、機材の貸し借り、繁忙期のサポート、もう使用しない着物や不用品のおくり物など)

1つだけマークしてください。

- 頻繁にある
- 時々ある
- ほとんどない
- 全くない
- その他:

22. ボランティアの受け入れをしていることで、これらの交流がより多くなったと感じますか？ *

1つだけマークしてください。

- 強く感じる
- 多少感じる
- あまり感じない
- 全く感じない

23. 具体的にどのような交流がありますか。お教えてください。

.....

.....

.....

⑤回答者様について

24. 差支えなければ、ホストIDをお教えてください。

ご記入いただければ、以下の質問をスキップいただけます。

.....

25. 回答者様のホスト歴をお教えてください。

1つだけマークしてください。

- 1年未満
- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- 5年
- 6年
- 7年
- 8年
- 10年
- 11年
- 12年
- 13年
- 14年
- 15年
- 15年以上

26. 回答者様の主事業を教えてください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 専業農家
- 酪農家
- 農畜産物加工店
- エコビレッジ運営、里山生活運営
- カフェ、レストラン
- 宿泊業
- オルタナティブスクール(森のようちえん、フリースクール、インターナショナルスクールなど)
- 語学学校
- アウトドアスポーツ運営
- キャンプ場運営
- その他:

27. お住まいの都道府県をお教えてください。

.....

28. 日本外在住経験はありますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- ない
- 旅行(半年未満)
- 語学留学
- 海外学校留学
- 海外就労
- 出生地・育った地
- その他:

29. ホストリンク集作成にあたり、回答者様のHPもしくはFacebookをリンク先として掲載してもよろしいでしょうか。*

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

30. 掲載可能なリンク先をお教えてください。

31. フィードバックをご希望の方はこちらにてアドレスをお教えてください。

.....

Pre-Questionnaire for foreign tourists using Non-monetary tourism(WWOOF, HelpX or Work Away)

◆About your profile

- 1) Gender Male、Female、Non-Binary
- 2) Age 19 or below、20-24、25-29、30-34、35-39、40-44、45-49、50-54、
55-59、60 or over
- 3) Nationality ()
- 4) Occupation
Student (Field of Study:)
Self-Employed (Exact :)
Employee (Exact :)
Currently unemployed (Previous job :)
Other ()
- 5) Japanese language level
-Speaking : None, Elementary, Intermediate, Advanced, Native
-Listening : None, Elementary, Intermediate, Advanced, Native
-Writing : None, Elementary, Intermediate, Advanced, Native
-Reading : None, Elementary, Intermediate, Advanced, Native
- 6) What kind of Non-monetary tourism did you utilize?
WWOOF, Workaway, Help X, Other()
- ⇒Depends on their selection, The word “WWOOF” in questions bellow changes to each word
(EX : ◆About Tourism in Japan, when you utilized Work Away, Workawayed, HelpXing)

◆About Tourism in Japan, when you utilized WWOOF

- 7) Have you ever been to Japan before your first Japanese WWOOFing experience?
Yes (No. times :)、No
- 8) Why did you come to Japan? (Multiple answers allowed)
Sightseeing, Visiting friends, Visiting family, Learning/Practicing Japanese、
Training or Practicing, Learning/ Practicing Farming or agriculture, Finding job,
Preparing for life in Japan in the future
- 9) Who did you come to Japan with?
Alone、Friends (No. of Friends:)、Boy-/Girlfriend、Family
- 10) How long do you intend to stay in Japan? (YYYY/MM/DD)
(/ /) ~ (/ /)
- 11) Which cities have you been to in Japan this time?
- 12) In which accommodation do you stay in Japan during your travel except for WWOOF ?
(Multiple answers allowed)

- Hotel, Hostel, Guesthouse, Airbnb, At a friends / Family house,
- Other ()

13) How do you like your trip to Japan this time?

- Excellent, Good, Normal, Bad, Terrible

14) Would you like to come to Japan again in the future?

- Yes, No, You don't know, if you have enough money and time to visit

15) What would you like to do for your next trip to Japan? (Multiple answers allowed)

- Sightsee, Visit friends/Family, WWOOF, Learn Japanese,
- Study at University (1year), Enter University, Practice/ Training, Find a job,
- Work, Migrate to Japan Other ()

◆About your WWOOFing

16) Have you WWOOFed at other countries before?

- Yes (No. times: , Countries:) , No

17) Have you WWOOFed in Japan before?

Please write down, in which cities/ how many / how long / What have you WWOOFed?

(If you have more WWOOFing plans in near the future, please write them as well.)

	Where? (city / village)	How long? (YYYY/MM/DD~YYYY/MM/DD)	What did you do during your WOOOFing?
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

18) Why did you participate in WWOOF in Japan? Please rank your choices (1.2.3.....).

- Cheap travelling opportunity, Learn about organic life, Agricultural interest
- Experience Japanese daily life and Japanese culture, Learn / practice Japanese / other language
- Make friends in Japan, Preparing for life in Japan in the future, Desire to find job,
- Save / preserve the environment, Other ()

19) Why did you choose the hosts as your WWOOF host? Please rank your choices (1.2.3.....)

- Location, Business of Hosts (), Expected Activity that WWOOFers can,
- Work of WWOOFers, Percentage of organic life, Meal, Accommodation, Cigarette, Alcohol,
- Internet, Situation around hosr area, Number of WWOOFers at the same time
- Number of WWOOFers the host accept in a year, Acceptable days to stay, English skill,
- Language skill other than English, Environment you can practice Japanese,

- Good reviews, Urgent demand of host for WWOOFer, Speedy reply,
 Communication through messages, Other()

20) Did your hosts try to utilize your skill or your character for their activities? Please share your story.

(Ex : Painting wall, Singing/playing songs, Teaching languages, Designing pamphlet etc.....)

- Yes, No

◆Communication with local people during WWOOfing

21) Did you expect to have communication with local people other than the host?

- Yes, No

22) With whom did you communicate with, besides the host? (Multiple answers allowed)

Family/relatives of host, Co-workers of host, Neighbors of host, Friends of host

Customer of host, Tourists in the host area None,

Other ()

23) What were the nature of communications with people other than host? (Multiple answers allowed)

Please share the story.

Greeting, Conversation, Participating in events or festival as visitor, Working together at host

(Selling something at community market, Participating in event of host as staff etc...)

Helping their business or activity of local community

(Having language lesson, Visiting school to introduce your culture, Monitoring tourists tour,

Helping neighbor farm, Helping community farm, Weeding at public space, etc...),

Going sightseeing together / letting WWOOFers Japanese culture,

Getting/ borrowing something from local people (EX : vegetable, fish, meal, clothes, commodity etc...)

Other

24) How did you know each other local people? (Multiple answers allowed)

Host introduced/brought WWOOFers to them, Local people approached to WWOOFers,

You approached to local people in personal, Other()

23) Do you still keep in touch with them now?

Yes, Often, Yes, sometime, planning to visit again, welcoming them in the near future in your

country, Knowing their address or SNS account but didn't have communication, No

27) Would you like to come back to the area again?

Yes, No, You don't know, if you have enough money and time to visit

28) In what capacity would you come back as? (Multiple answers allowed)

Tourists, Friend, WWOOFer, Student, Trainee at Host or in the area,

Worker, Immigrant, Other ()

【凡例】

黒字：通常業務（ホストの活動）、緑：ホストメイン事業、
紫：訪日外国人スキル活用方法、オレンジ：奉仕活動

年	月	日	概要	
1990年代後半			ロッキー馬瀬に移住	
2004	5	4	小学生、あまご釣りの様子	
2004		5	釣り堀に夢中になる親子	
2004		18	濁流のダムの様子	
2004		22	ALTと国際バーベキュー	ALT
2004		29	小学生ときれいなお姉さんのつかみ取りの様子	
2004	6	4	蕎麦の花	
2004		8	ホタル	
2004		14	バーベキュー夜の営業の知らせ	
2004		18	ホタル	
2004		23	TV出演	
2004		23	全国表彰の様子	
2004		26	ホタル終了の報告	
2004		27	TV出演出演	
2004	7	10	フィッシングアカデミー「鮎とも釣り大会」	
2004		10	ゴルフ営業開始	
2004		13	中切小学校「ふるさとタイム」	
2004		15	中切小学校「ふるさとタイム」	
2004		18	親子アユ釣り教室	
2004		18	鮎釣り初心者教室開始	
2004		19	訪日外国人顧客のつかみ取り	顧客
2004		22	訪日外国人顧客のコメント記載	顧客
2004	8	8	上記の日本語訳	顧客
2004		29	リース教室情報	
2004		11	12歳の鮎釣り解禁	
2004		18	流しそうめん	
2004	8	15	ルアー教室	
2005	6		ホタル見えないことの報告	
2005	10		整備工事中	
2006	4	1	新装開店	
2006		7	山菜取りの様子	
2006		29	ストーンペインティングの紹介	
2006		30	水槽への魚寄付募集	
2006	5	12	アマゴ放流	
2006		17	稚鮎放流	
2006		17	平日BBQの宣伝	
2006		20	漢の料理教室	
2006		24	全国植樹祭慶友の植樹	
2006		28	テンカラフォーラム	
2006		4	水槽展示	
2006		7	清流セラピー、下流部の水中撮影	
2006		11	環境美化デー	
2006		17	鮎解禁報告	
2006		25	バリアフリー設備の説明	

2006		29	清流セラピーコンサートの宣伝	
2006	7	8	清流セラピーコンサートの報告	
2006		13	ふれあいタイム	
2006		22	奇形野菜の紹介	
2006		24	霧の中野釣り人報告	
2006		27	増水被害の様子	
2006		28	きたない水槽の様子	
2006	8	5	愛の料理対決	
2006	9	4	川と森で遊ぶプログラムの宣伝	
2006		10	「静の森」と「動の川」を体験するプログラム	
2007	4	1	NPO 馬瀬川プロデュースの指定管理運営決定	
2007		22	あまごの甘露煮の紹介	
2007		28	地元産の隅の紹介	
2007		29	溪流釣り	
2007		30	つかみどり開始	
2007	5	3	魚のさばきかた	
2007		5	うぐいの塩焼きの紹介	
2007		6	ホストAさんのインディアンのテント	
2007		11	田植えの季節の紹介	
2007		13	柳の大切さ	
2007		15	沢のぼりの体験事業開始	
2007		29	鮎シーズン開始	
2007	6	2	滝つぼで水中散歩	
2007		9	馬瀬川クリーン作戦	
2007		9	鮎釣り体験講師養成講座	
2007		10	鮎川見・仕掛け講座	
2007		11	川で遊ぶ地元の子どもの様子	
2007		12	外国語カラオケ大会の告知	ALT
2007		23	鮎解禁	
2007		23	保育園保護者の会	
2007		23	地元の小学生の鮎釣り	
2007		25	鮎釣り体験取材	
2007		30	鮎釣り体験講座開始	
2007	7	4	鮎釣り体験教室実施	
2007		6	中スポの撮影会	
2007		7	早朝沢のぼり	
2007		9	馬瀬中切小学校のふるさとタイム	
2007		15	台風一過の様子	
2007		19	水難救助技術者資格取得の報告	
2007		21	外国語カラオケ大会	ALT
2007		28	沢のぼり探検機構	
2007		28	二胡の夕べ	
2007		29	沢のぼり体験実施	
2007	8	1	水辺の館の込み合っている様子	
2007		1	カワゲラウォッチング	
2007		3	ストーンペインティング	
2007		5	鮎釣り他県教室	
2007		7	しみんてい夏合宿の予定報告	
2007		14	フランスチームの合宿報告	
2007		23	しみんてい夏合宿	

2007		24	しみんてい夏合宿	
2007		27	飛騨山岳会	
2007	9	2	川下り体験講座	
2007		8	沢のぼりにALTを連れていく	ALT
2007		10	小坂での沢のぼり	
2007		16	清流アマゴ釣りラリー	
2007	11	11	実業団駅伝体験	
2007		12	鮎釣り用具の寄付	
2008	4	21	B友人美輝の里で入浴	B友人
2008		28	メーカー社員旅行で中国人50人魚つかみどり	顧客
2008	5	10	テンカラ教室開催	
2008		14	テンカラ教室後日談	
2008		17	ルアーフィッシング講座	
2008		23	パン体験講座研究中	
2008		24	フライフィッシング大会	
2008		25	沢のぼり始動	
2008		30	鮎釣り英語資料の作成	ALT
2008	6	2	稚鮎の展示	
2008		6	不動滝の発見	
2008		2	地元中学生の沢のぼり	
2008		8	水環境一斉調査	
2008		13	沢のぼり中学生だ第2弾	
2008		14	水槽の魚の増殖	
2008		15	川のレスキュー講座	
2008		15	飛騨山岳会立壁下降	
2008		18	小学生釣り体験	
2008		21	ライブカメラ設置	
2008	7	1	河川清掃	
2008		2	名古屋からの釣り人紹介	
2008		6	鮎釣り中級講座	
2008		12	日帰り鮎釣り教室	
2008		13	ALTによる沢のぼりと国際交流	ALT
2008		15	木酢液による洗浄	
2008		18	NHK取材	
2008		18	馬瀬で国際結婚	顧客
2008		20	カナダ人の鮎釣り体験	ALT
2008		22	ケーブルテレビ取材	
2008		24	小学生の鮎釣り大会	
2008		25	川渡りのルート拡大トライアル	
2008		26	ライフジャケット遊泳のススメ	
2008	8	1	小さな子供の沢のぼり	
2008		2	犬の沢のぼり	
2008		2	鮎初心者教室	
2008		3	鮎初心者教室	
2008		5	川遊び講座	
2008		8	アメリカ人の鮎釣りチャレンジ	顧客
2008		15	商工会イベント	
2008		22	しみんてい夏合宿	
2008		23	しみんてい夏合宿	
2008	9	21	キャニオニングの開発	

2008		22	大人数での沢のぼり体験	
2008		28	川遊び指導者研修	
2008	10	5	水質に関する講演会	
2008		12	森のニンジャテスト	
2008		19	自然体験活動指導者研修会	
2008	11	9	実業団駅伝大会	
2008		13	木登りに対する想い	
2008		14	木登りテスト	
2008		16	まきまきパンメニューの開発	
2008		20	初雪報告	
2008		22	近場展望台の探検	
2008		23	巻き巻きパン好評	
2008		24	飛騨匠街道	友人
2009	3	15	ビオトープ池整備中	
2009		15	ビオトープ池整備中	
2009		28	アマゴ放流予定	
2009		30	リヤカー屋台プロジェクト	
2009	4	3	春は山菜	
2009		7	フランス人WWOOFerの案内	AさんWWOOFer
2009		10	国際交流登山	AさんWWOOFer、
2009		10	手巻き寿司	友人
2009		11	カナダ人友人による餌釣り体験	友人
2009		14	カナダ友人による絵手紙体験	友人
2009		14	カナダ友人によるそば打ち体験	友人
2009		18	フランス人、美輝の里バザーを堪能	AさんWWOOFer
2009		18	フランス人、美輝の里バザーを堪能	AさんWWOOFer
2009		20	森林アドベンチャーパークの作成希望	
2009		21	朴葉すし祭り	
2009		22	野原のプロジェクト紹介	
2009	5	2	まきまきパン	
2009		2	GWさかなつかみどり	
2009		4	地元小学生がさかなつかみ取りの指導	
2009		4	餌釣りでアマゴ	
2009		4	餌釣りでアマゴ	
2009		5	杉の葉で火おこし	
2009		8	掃除でのロープワークの応用	
2009		8	水槽に稚鮎	
2009		9	竿の修繕	
2009		10	アカデミーテンカラ教室	
2009		17	アカデミールアー教室	
2009		24	アカデミーフライ講座	
2009		24	朴葉すし祭り	
2009		27	沢のぼり始動	
2009		29	ロープワークの講習	
2009		30	ヨシのマルチ	
2009		31	川鶉退治	
2009		31	朴葉すしシーズン到来	
2009	6	4	水辺の英語教室	AさんWWOOFer
2009		5	まきまきパン天然酵母	
2009		6	水辺の英語教室	AさんWWOOFer

2009		7	馬瀬川クリーン作戦	
2009		7	全国海づくり大会	
2009		8	クライミング練習	
2009		10	山岳レスキュー講習	
2009		12	地元中学生沢のぼり	
2009		13	パンとアウトドア体験講座	
2009		14	ウーファー懸垂下降体験	AさんWOOFer
2009		16	サーファーによる草取り	カウチサーファー
2009		20	ドリームキャッチャー教室	
2009		20	鮎釣り解禁	
2009	6	21	英米人の沢のぼり	AさんWOOFer
2009		22	ドリームキャッチャーづくり	
2009		23	大雨一過	
2009		24	ケーブル取材	
2009		25	流木の椅子	
2009		26	小坂への出張	
2009		26	環境美化の手伝い	
2009		28	地元保育園イベント	
2009		28	流しそうめん	
2009		28	鮎釣り中級編講座	
2009		29	じゃらん、沢のぼり取材	
2009	7	2	フランス語教室	カウチサーファー
2009		3	NPO 外部会員の協力による環境美化活動	
2009		4	岩場ルートの開発	
2009		7	岐阜放送・アユ釣り体験取材	
2009		8	福井より夏休みこどもキャンプ	
2009		10	カナダ人Bさん友人到着	Bさん友人
2009		11	カナダ人友人沢のぼり	Bさん友人
2009		12	沢のぼりとランチセットの販売	Bさん友人
2009		12	沢のぼりとランチセットの販売	
2009		17	フランス人の到着	カウチサーファー
2009		18	地元建設会社鮎釣り大会	
2009		19	友人カナダ人のビデオをyoutubeにアップ	Bさん友人
2009		20	英語とフランス語教室	カウチサーファー
2009		21	本の紹介	
2009		24	地元子供会利用による草刈り、芝刈り	
2009		26	地元子ども会つかみどり	
2009		28	雨の被害	
2009		29	室内木登り訓練	
2009		31	学童保育とハンガリーのお国紹介	カウチサーファー
2009	8	1	ゴミ分別の呼びかけ	
2009		2	はんごうケーキの実験	
2009		4	稚魚の魚拓	
2009		5	学童保育水辺の館編	
2009		5	沢の水の状況報告	
2009		7	RACサマーキャンプの受入	
2009		7	チロリアンのテスト	
2009		8	小さな子どもの沢のぼり体験の注意	
2009		8	野原のプロジェクト「スタードーム」づくりの報告	
2009		10	水辺の水生生物観察	

2009		19	アメリカ人大学生、近所を登山	カウチサーファー
2009		19	大人の川遊び	
2009		19	NHK取材	
2009		21	しみんてい子供夏合宿	
2009		22	しみんてい子供夏合宿	
2009		23	こども会レスキュー講座	
2009		24	川のレスキュー講座	
2009		24	釣り糸リサイクル	
2009		25	アメリカ人若者、日本田舎体験	カウチサーファー
2009		29	沢のぼりの水量減少	
2009	9	4	馬瀬川上部川流れ	
2009		5	小原川ミニキャニオニング	
2009		5	小原川ミニキャニオニング	
2009		7	焼いたマムシ	
2009		9	ドラム缶釜製作中	
2009		10	NHK沢のぼり	
2009		11	リヤカー屋台間もなく完成	
2009		13	水辺の英語教室	カウチサーファー
2009		14	ドラム缶釜テスト	
2009		14	サーファーに下山の森の山小屋紹介	カウチサーファー
2009		15	街中、木登りシュミレーション	
2009		18	リヤカー屋台デビュー	
2009		23	外国語教室・萩原出張	カウチサーファー
2009		25	下山に国際交流員を招待、日本の田舎紹介	Bさん友人
2009		30	観光誘致会議	
2009	10	5	バウムクーヘン体験教室	
2009		11	ツリーハウス試作	
2009		12	駅前木登り	
2009		18	山岳会レスキュー講習	
2009		23	ツリーテラス1号完成	
2009	11	23	ジップラインテスト	
2009	12	10	ツリーチェアー	
2010	4	14	英語ガイドプログラムの	
2010		26	海づくり大会視察	
2010	5	3	魚のつかみどり開始	
2010		4	アドベンチャーキッズ指導	
2010		4	鳥をさばく	
2010		5	ライフジャケット付の釣りのススメ	
2010		8	アカデミーテンカラ教室	
2010		10	バウムクーヘン教室準備	
2010		11	シンガポール人にディープな日本紹介	カウチサーファー
2010		13	森林アドベンチャー	
2010		17	バウムクーヘン教室	
2010		23	アカデミールアー教室	
2010		24	濁流の釣り	
2010		25	テンカラUSAダニエルの来日	Bさん友人
2010		27	沢のぼり開始	
2010		27	フランス人サーファー、若竹屋でショッピング	カウチサーファー
2010		28	間伐材利用による森林アドベンチャー拡大	
2010		29	台湾より中切TV取材	その他

2010		30	森林アドベンチャーパークの進捗状況	
2010		31	台湾よりTV取材	その他
2010	6	1	草刈り	
2010		2	草刈り	
2010		2	パンの屋台による人の集う場づくり	
2010		4	地元中学生沢登り	
2010		4	NHK釣り取材	
2010		5	明日は朴葉すし祭り	
2010		10	アドベンチャーパーク拡大の様子	
2010		11	柳の害虫駆除	
2010		12	海づくり大会	
2010		13	雨天時用の製作プログラム企画	
2010		15	朴葉すし祭り	
2010		16	チェーンソーによる椅子づくり	
2010		16	せんごによるあられづくり	
2010		17	英語教室	カウチサーファー
2010		18	地元中学生によるパン体験	
2010		19	安全祈願祭	
2010		19	大迫力の沢のぼり	
2010		25	フランス人カウチサーファー到着	カウチサーファー
2010		25	森林アドベンチャー1次計画完成	
2010		26	英語教室	カウチサーファー
2010		27	幼児学級を手伝うカウチサーファー	カウチサーファー
2010		27	室内ロープ木登り場製作	
2010	7	3	増水時の沢のぼり	
2010		4	アカデミー鮎釣り中級講座	
2010		5	子どもヘアカット教室	
2010		5	沢のぼり取材	
2010		10	沢登りの様子	
2010		10	AさんWWOOFer水辺の館草刈り手伝い	AさんWWOOFer
2010		12	大雨の様子	
2010		12	野原のプロジェクト協力	
2010		12	Bさん友人カナダ人の英語教室	Bさん友人
2010		15	Bさん友人カナダ人の魚教室	Bさん友人
2010		16	ブリ蠅教室用の木を設置	
2010		16	自然の力について	
2010		17	フランス人カウチサーファーによるクレープ試作	カウチサーファー
2010		18	森林アドベンチャーの様子	
2010		18	そば粉のクレープづくりの実作	カウチサーファー
2010		19	キクイムシ	
2010		19	日本の田舎体験を希望するカウチサーファーのトマト農家	カウチサーファー
2010		19	そのままホストAさん訪問	カウチサーファー
2010		20	森林アドベンチャーの様子	
2010		21	カナダ人サーファーによる魚つかみどり	カウチサーファー
2010		23	オランダ人サーファーによる挿絵の作成	カウチサーファー
2010		24	ドアの修理	
2010		25	親子木登りシュミレーション	
2010		26	沢のぼりの様子	
2010		27	大雨一過の様子	
2010		27	トマトの食べごろの様子	

2010		28	生活技術の伝承について	
2010		28	生活技術の伝承について	
2010		30	沢のぼりの新奇場所の開拓探検	
2010		30	野菜でアートする様子	
2010		31	沢のぼりの様子	
2010		31	アメリカから留学生が水辺の館に遊びに来る	顧客
2010	8	1	お刺身大好き家族	
2010		1	恐るべき馬瀬の5歳児について	
2010		2	ハチの巣退治	
2010		2	谷の掃除開始	
2010		3	パリのカウチサーファー到着	カウチサーファー
2010		3	ミニZIPLINE設置	
2010		4	フランス人のコーヒーショップ巡り	カウチサーファー
2010		7	小坂の滝に出張	
2010		8	5歳児のレスキュー体験	
2010		9	福井からの夏休みこどもキャンプ	
2010		9	支流釣りの一行	
2010		10	福井こどもキャンプ沢のぼり	
2010		11	小魚の収穫	
2010		11	西村地区での川流れ	
2010		13	沢のぼり、一生の記念の大増水	
2010		13	水難訓練	
2010		14	雨天時の水辺の館	
2010		15	商工会イベント	
2010		15	イベントにボランティア総動員	
2010		15	イベントの賑わい	
2010		15	イベントの賑わい	
2010		15	沢のぼりの様子	
2010		15	クライミングジムの設置	
2010		16	キャニオニング開始	
2010		29	ブリ縄木登り体験開始	
2010		20	アメリカ人とキャニオニング	カウチサーファー
2010		20	料理店のメニュー翻訳	カウチサーファー
2010		21	地元高校バレーの活用	
2010		22	PTA廃品回収	
2010		23	キャニオニングのブーム	
2010		23	下呂にクライミングジム	
2010		25	森林アドベンチャーの様子	
2010		27	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		27	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		27	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		27	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		28	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		28	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		28	しみんてい小学生夏合宿受入	
2010		29	ブリ縄教室	
2010		29	フランス人ももブリ縄のぼり	カウチサーファー
2010	9	1	沢のぼりルートの開拓	
2010		1	鮎釣り初心者の様子	
2010		1	合併浄化槽100%普及を目指して	

2010		3	朝顔の様子	
2010		3	英語パンフレットの作成、サーファーによる校正	カウチサーファー
2010		4	キャニオニングの様子	
2010		4	不動明王の滝の様子	
2010		4	水に親しむ家族の様子	
2010		6	サーファーと高山に英語パンフレットの宣伝	カウチサーファー
2010		7	しみんていの子たちの亀について	
2010		7	小電力発電	
2010		10	ブリ蠅を外国に紹介、取材対応	カウチサーファー
2010		12	外国人キャンプの受入	顧客
2010		14	サーファーの地元の子供たちへのつかみ取り指導	カウチサーファー
2010		15	釣り好きの子供の様子	
2010		15	森林アドベンチャーの拡大	
2010		15	森林アドベンチャーの拡大	
2010		19	海魚のさばき	
2010		19	滝のぼり	
2010		20	森林アドベンチャーの普及活動	
2010		24	ラジオ取材	
2010		25	すわの森イベント	
2010		27	下呂市観光計画への出席	
2010	10	1	御岳の下見	顧客
2010		2	合併浄化槽講義	顧客
2010		3	下呂温泉ボランティアガイド	顧客
2010		3	外国人受入体制でATMの下見	顧客
2010		3	ホームステイ体制の整備	顧客
2010		3	魚料理プログラムの提供	顧客
2010		4	下呂温泉視察	顧客
2010		4	キャニオニング訓練	顧客
2010		4	中学校訪問	顧客
2010		5	日本での床屋体験	顧客
2010		6	御岳でのご来光	顧客
2010		6	キャニオニング体験	顧客
2010		6	萩原の屋台視察	顧客
2010		6	ホームステイでの郷土料理実食	顧客
2010		7	つかみどり	顧客
2010		7	巻きずしづくり	顧客
2010		7	もちつき	顧客
2010		12	市内保育園からのピクニック	
2010		12	ミニ炭焼き	
2010		15	釣り教室の除法共有	
2010		16	富山岐阜地域おこし交流会	
2010		23	森林アドベンチャー拡大計画	
2010		1	東京訪問	
2010		7	ブリ縄教室	
2010		11	秋のふるさとまつり	
2010		13	岐阜ふるさとの水辺	
2010		13	紅葉の若狭山	
2010		14	駅伝大会	
2010		17	小坂の味覚の新開発	
2010		20	杉の峯内	

2011	4	16	あまごぶりのにぎわい	
2011		21	ツリーハウスの建設	
2011		29	デザートメニューの開拓	
2011		29	つかみどりの営業開始	
2011		30	まきまきパンの提供	
2011	5	2	テンカラUSA	Bさん友人
2011		4	川虫を餌に釣りする様子	
2011		4	ルアーで釣り	
2011		9	森林アドベンチャー取材	
2011		11	展示鮎の入れ替え	
2011		13	野原の朴葉すし祭り	
2011		14	日米釣り交流、テンカラUSAのダニエル到着	Bさん友人
2011		15	木登り出張	
2011		16	ZIPLINE出張	
2011		19	木登りと伐採作業	
2011		20	池床について	
2011		21	ZIPLINE出張	
2011		21	テンカラ講座開催	Bさん友人
2011		22	テンカラ講座2日目	Bさん友人
2011		23	合掌村見学	Bさん友人
2011		23	日米漁具談義	Bさん友人
2011		28	テンカラのタモづくり	Bさん友人
2011		29	ルアー講座開催	
2011		29	スペシャル朴葉すし	
2011		29	ルアー口座から義援金送付	
2011	6	2	ダニエル日本人にテンカラ指導	Bさん友人
2011		3	中学生の沢のぼり	
2011		9	朴葉すしのでめぐい販売	
2011		10	朴葉とりに木登り	
2011		10	朴葉すし祭り、前夜祭	
2011		11	朴葉まつり当日の様子	
2011		11	ダニエルによるテンカラ毛ばり講習会	Bさん友人
2011		11	朴葉すしまつりの好野菜の様子	
2011		12	チャリティー沢のぼりの様子	
2011		13	朴葉すし祭りビデオ	Bさん友人
2011		14	ました伝統漁法について	
2011		16	檜の伐採	
2011		18	木製の看板作り	
2011		18	看板製作への近所の子供の関わり	
2011		20	スラックラインの製作	
2011		21	高校とカウチサーファーの国際交流	カウチサーファー
2011		21	ちびっこクライミングの製作、お披露目	
2011		24	テンカラ忍者研修	Bさん友人
2011		25	チャリティー沢登り	
2011		26	岐阜の川人・魚食展の開催	
2011		30	手動ロープウェイの改設	
2011	7	1	木製看板の製作の様子	
2011		11	エントランスの看板製作の様子	
2011		14	沢登りの様子	
2011		15	アメリカ人WOOFerの木登り体験	AさんWOOFer

2011		17	沢登りの様子	
2011		17	水辺の英語教室・イタリアンクッキングの様子	AさんWWOOFer
2011		18	ツリーハンモック製作	
2011		19	料理教室の開催	
2011		21	川遊びの様子	
2011		21	鮎釣り体験教室取材	
2011		23	鮎釣り体験教室	
2011		24	川の生物調査隊の結成	
2011		24	川の生物調査隊の調査	
2011		25	沢登りの様子	
2011		27	バウムクーヘン教室	
2011		30	小坂でのガイド養成講座	
2011	8	1	漂流釣り体験	
2011		2	あまごの開き	
2011		2	アドベンチャー視察	
2011		6	川流れ体験	
2011		7	看板製作の様子	
2011		7	まきまきパン出張	
2011		8	野菜アート教室	
2011		14	夜の木登り実施	
2011		15	西村地区祭り	
2011		16	池超えるZIPLINE	
2011		19	出張ZIPLINE	
2011		21	出張ZIPLINE	
2011		22	雨によるアドベンチャー体験中止のお知らせ	
2011		24	雨による川の増水の様子	
2011		25	雨による川の増水の様子	
2011		26	しみんてい子供合宿	
2011		27	雨による川の増水の様子	
2011		27	しみんてい子供合宿	
2011		27	しみんてい子供合宿	
2011		27	しみんてい子供合宿	
2011		27	しみんてい子供合宿	
2011		28	交雑魚の様子	
2011		28	カジカの様子	
2011		29	ドイツ人による沢のぼりの助っ人	AさんWWOOFer
2011		30	沢のルート開拓	
2011		30	地域の子供たちのまきまきパン体験	
2011		30	子どもの綱渡りの様子	
2011		30	ジャムづくりの様子	
2011		31	滝の俳句ルートの開拓	
2011	9	1	自然の力について	
2011		2	ツリーカフェ設置の計画	
2011		8	カフェ用テラスの設置	
2011		8	ZIPLINEの新ルート開拓	
2011		9	ZIPLINE調整中	
2011		9	沢登り開拓の様子	
2011		9	AさんWWOOFerによる沢登り体験	AさんWWOOFer
2011		12	森林アドベンチャーとみっきーと美輝の里のコラボ	
2011		14	新ZIPLINEについて	

2011		17	沢のぼりについて	
2011		18	キャニオニングについて	
2011		25	源流釣り体験	
2011		26	着地テラスの設置状況について	
2011		27	ZIPLINE体験について	
2011		28	ZIPLINEについて	
2011		29	スラックラインの設置について	
2011		2	馬瀬川の景色について	
2011		3	川流れについて	
2011		3	AさんWWOOFerによる森林アドベンチャー体験	AさんWWOOFer
2011		3	AさんWWOOFerによる鮎美食	AさんWWOOFer
2011		4	ZIPLINE製作について	
2011		7	ツリーカフェの製作について	
2011		8	ZIPLINEでのこどもレスキューについて	
2011		9	ZIPLINE失敗について	
2011		9	ナイトウォークについて	
2011		13	ハチの巣退治について	
2011		14	小学生のZIPLINE体験について	
2011		17	ツリーカフェの完成について	
2011		17	西村地区でのツリーハウス製作について	
2011		19	カヤの実で笛製作について	
2011		23	西村ツリーハウス製作について	
2011		27	西村ツリーハウス製作について	
2011		27	西村ツリーハウス製作について	
2011		29	下呂市による森林アドベンチャー体験について	
2011		30	下呂温泉近くでの木登りイベント	
2011		31	西村ツリーハウス製作について	
2011	11	1	高校出張講座	
2011		4	セルフレスキューについて	
2011		5	アドベンチャー犬山出張について	
2011		8	西村テラスの製作について	
2011		10	西村テラスの製作について	
2011		12	AさんWWOOFerによる森林アドベンチャーのヘルプ	AさんWWOOFer
2011		27	西村探検の授業開催	
2012	4	4	溪流釣りの開始について	
2012		13	馬瀬の小さな牧場について	
2012		16	キンパクとりについて	
2012		20	きれいなあまごについて	
2012		22	西村ほたるの田んぼについて	
2012		23	山菜・つくしについて	
2012		24	やぎの双子について	
2012		25	開業準備について	
2012		27	看板製作について	
2012		28	展示水槽の模様替えについて	
2012		28	スラックラインについて	
2012		29	森林アドベンチャー開始	
2012		30	ジャガイモまきまきパンについて	
2012		1	カフェメニューの施策について	
2012		3	あゆご飯について	
2012		4	水遊びの子供について	

2012		6	雨の中野アドベンチャーについて	
2012		11	こどもフィッシングアカデミー	
2012		11	河川環境研究所について	
2012		11	河川環境研究所について	
2012		13	こどもフィッシングアカデミー	
2012		15	森林アドベンチャーの中級テクについて	
2012		17	ヤギの飼育について	
2012		18	水槽の稚鮎について	
2012		20	ZIPLINEの無料体験について	
2012		23	テラス補強作業について	
2012		24	朴の花について	
2012		26	沢登りの開始について	
2012		27	子どもフィッシングアカデミー開始について	
2012		29	鮎の群れについて	
2012		2	谷越えチロリアンについて	
2012		4	ノルウェー人による沢登りの助っ人	カウチサーファー
2012		6	馬瀬中沢登りでノルウェー人も手伝う	カウチサーファー
2012		7	朴葉すしづくり	
2012		8	機材修理について	
2012		9	朴葉すしについて	
2012		10	小坂での商品化について	
2012		17	野原の朴葉すし祭り	
2012		18	スーツのリペアについて	
2012		19	下呂紹介ビデオについて	
2012		23	朴葉とクライミングについて	
2012		23	WWOOFerによるクレープづくり教室について	AさんWWOOFer
2012		24	こどもフィッシングアカデミーについて	
2012		24	こどもフィッシングアカデミーについて	
2012		24	こどもフィッシングアカデミーについて	
2012		26	残雪の御岳山について	
2012		27	岩屋ダムでのちょうさについて	
2012		28	看板製作について	
2012		29	麻紀義運びについて	
2012	7	2	パンフレットの製作について	
2012		4	水遊びについて	
2012		8	小坂沢登りに関して	
2012		11	鮎釣り初心者へのプライベートレッスンについて	
2012		12	雨の増水について	
2012		15	雨による連休について	
2012		17	ニュージーランド人の沢登り体験	顧客
2012		19	ZIPLINEのテストについて	
2012		20	WWOOFer登録開始、WWOOFerによる草刈り	WWOOFer
2012		23	スーパーキッドについて	
2012		23	スーパーキッドによるWWOOFerへの毛ばりの指導	WWOOFer
2012		24	救助訓練への参加、WWOOFerも見学	WWOOFer
2012		24	WWOOFerによるクレープづくり教室について	AさんWWOOFer
2012		26	天気について	
2012		26	魚つかみどり指導に関わるWWOOFer	WWOOFer
2012		26	影絵について	
2012		28	川で泳ぐことについて	

2012		30	下呂での木登り講習	
2012	8	2	英語でパン作り教室、WWOOFerスタッフによる	WWOOFer
2012		2	WWOOFerによるZIPLINE指導	WWOOFer
2012		3	川の生き物について	
2012		5	小坂の沢のぼりについて	
2012		6	高山市へZIPLINE出張	
2012		8	NHK取材	
2012		14	天気について	
2012		15	沢でのレスキュー体験について	
2012		16	沢の水について	
2012		20	川のヤナ設置について	
2012		21	台湾WWOOFerによる沢登り体験	WWOOFer
2012		25	しみんてい小学生夏合宿について	
2012	9	3	テンカラUSA社長の来日、キャニオニングと釣り	Bさん友人
2012		3	テンカラUSAと沢登り	Bさん友人
2012		4	テンカラUSAの宣伝	
2012		7	ホストの留学生サポートについて	その他
2012		8	ホストの留学生サポートについて	その他
2012		9	こどもフィッシングアカデミー	
2012		14	火ぶり漁	
2012		14	火ぶり漁	
2012		19	ヤナに落ち鮎	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		24	修学旅行生の受入	
2012		25	修学旅行生の受入	
2012		30	キャニオニングについて	
2012		30	下呂市小中学校教員研修の開催	
2012	10	2	下呂市小中学校教員研修の開催	
2012		2	下呂市小中学校教員研修の開催	
2012		6	沢登りの期間について	
2012		6	森林アドベンチャーのルールについて	
2012		7	ZIPLINE出張	
2012		13	保育園行事へのブランコ設置の手伝い	
2012		13	木登り授業	
2012		15	森林アドベンチャーについて	
2012		16	秋の遠足について	
2012		17	寿司づくり体験について	ABWWOOFer
2012		18	アユ漁試食会	
2012		19	集僕の手すり設置したツリーハウス	
2012		20	バードハウス製作をするWWOOFer	WWOOFer
2012		21	西村ツリーハウスを手伝うWWOOFer	WWOOFer
2012		28	第1回馬瀬ジョギングウォーキング大会	
2012	11		フランス視察について	
2012			フランス視察について	
2012			フランス視察について	
2012			フランス視察について	

2012			フランス視察について	
2012		20	冬季閉館について	
2012		23	ハンモック製作について	
2012		27	馬瀬っ子西村探検について	
2013	4	13	プチ留学事業の立ち上がり	
2013		16	プチ留学で1週間のプチ留学をするTさん	WWOOFer
2013		26	天気について	
2013		27	スラックラインについて	
2013		29	森林アドベンチャー開始	
2013	5	5	アマゴ釣りについて	
2013		5	森林アドベンチャーについて	
2013		5	釣りのトラブルについて	
2013		6	太極拳をする宿泊客について	
2013		9	ライブカメラについて	
2013		9	グランドゴルフについて	
2013		13	アドベンチャー拡張について	
2013		14	森のトイレについて	
2013		15	アドベンチャー取材	
2013		18	築場にむけた準備作業	
2013		18	掘っ立て小屋づくり	
2013		18	掘っ立て小屋づくり	
2013		22	朴葉すし祭りの告知	
2013		23	鮎の放流	
2013		24	外国人釣り体験	顧客
2013		25	掘ったち小屋作り	

2013		26	外部講師によるつかみどり指導	
2013		26	あまごのつかみどりの初体験	ABWOOFer
2013		26	さかなの入れ替え	
2013		26	掘っ立て小屋作り	
2013	6	4	掘っ立て小屋作り	
2013		5	掘っ立て小屋作り	
2013		5	掘っ立て小屋作り	
2013		6	掘っ立て小屋作り	
2013		6	掘っ立て小屋作り	
2013		6	馬瀬中沢登り	
2013		7	フランス人居候の到着について、紹介	WOOFer
2013		9	プチ留学開催可能のお知らせ	WOOFer
2013		11	川魚を見学	WOOFer
2013		11	WOOFerによる草刈り	WOOFer
2013		12	WOOFerによるアドベンチャーメンテナンス	WOOFer
2013		13	WOOFerによる新メニューの試作	WOOFer
2013		16	スラックラインについて	
2013		23	クライミングネットの作成	
2013		25	クライミングウォールの作成	
2013		28	フランス人WOOFerが和菓子屋見学	WOOFer
2013		28	アメリカ人WOOFerのハンバーガー	WOOFer
2013		30	フランス菓子をWOOFerの作成	WOOFer
2013		4	プチ留学のオタメシバージョン	WOOFer
2013		6	WOOFerによる差沢登り援助	WOOFer
2013		7	WOOFerによる森林アドベンチャー援助	WOOFer
2013		7	多目的ホールの活用	
2013		7	WOOFerの日本語の勉強	WOOFer
2013		9	小坂の滝をWOOFerと一緒に偵察	WOOFer
2013		9	WOOFerたちヤナレストランお試食会	WOOFer
2013		10	馬瀬中学校でWOOFer説明	WOOFer
2013		11	用事学級でのWOOFerたちの補助	WOOFer
2013		12	プチ留学。フランス人によるフランス語講座	WOOFer
2013		13	餃子パーティの開催（WOOFerらのもカントと比べる）	WOOFer
2013		14	沢のぼりについて	
2013		17	フランス人の沢登りガイド養成中	WOOFer
2013		18	ヤナ工事の状況について	
2013		18	森林アドベンチャーの製作について	
2013		18	日仏米ペタンク対決	WOOFer
2013		18	日仏米ペタンク対決	WOOFer
2013		18	着物とお茶を着用意して日本体験	WOOFer
2013		18	侍気分を刀を持って味わうWOOFer	WOOFer
2013		18	朴葉すしのWOOFerらの作成	WOOFer
2013		19	TV取材	
2013		22	WOOFerによる魚の指導	WOOFer
2013		24	アメリカ人WOOFerへ毛ばりの造れるようになる	WOOFer
2013		28	プチ留学プログラム開始	WOOFer
2013		28	ヤナレストランの様子	
2013		1	WOOFerによるアメリカ英語でプチ留学	WOOFer
2013		1	英会話キャンプのスタッフ補助	WOOFer
2013		7	小学生のプチ留学参加	WOOFer

2013		15	英語オペレーションの作成	
2013		17	WWOOFerらの地元高校見学	WWOOFer
2013		20	沢登り、岩登り	
2013		23	スーパーキッズの采井補助	
2013		24	れすっキュー訓練	
2013		24	沢登りの様子	
2013		26	川の団体受入	
2013		26	川の団体受入	
2013		26	川の団体受入	
2013		29	プチ留学での地元小学生とWWOOFerの交流	WWOOFer
2013	9	4	キャニオニングルート開拓	
2013		5	日本釣りツアーの資料作成	
2013		11	プチ留学で地元小学生とWWOOFer指導	WWOOFer
2013		12	西村千提灯祭りでのWWOOFerの提灯づくり	WWOOFer
2013		12	西村千提灯祭りでのWWOOFerの提灯づくり	WWOOFer
2013		15	プチ留学で子供へのWWOOFer、英語指導	WWOOFer
2013		15	スケッチの会について	
2013		16	すべてキャンセルによってスーツの修繕	
2013		19	修学旅行生の受入	
2013		19	修学旅行生の受入	
2013		19	修学旅行生の受入	
2013		19	修学旅行生の受入	
2013		19	修学旅行生の受入、WWOOFerの手伝い	
2013		20	修学旅行生の受入、WWOOFerの手伝い	
2013		21	沢登りの実況	
2013		24	馬瀬川薪能の様子	
2013		26	森林アドベンチャーを開拓	
2013		28	飯盒カレーのようす	
2013		30	プチ留学のこの後の予定	WWOOFer
2013	10	3	福井出張	
2013		5	馬瀬川薪能、WWOOFerも喜ぶ	WWOOFer
2013		8	WWOOFerらによる新メニューの開発	WWOOFer
2013		11	森林アドベンチャーについて	
2013		12	鮎について	
2013		12	森林アドベンチャーについて	
2013		17	森林アドベンチャーについて	
2013		21	森林アドベンチャーについて	
2013		21	森林アドベンチャーについて	
2013		21	森林アドベンチャーについて	
2013		21	森林アドベンチャーについて	
2013		23	森林アドベンチャーについて	
2013		28	森林アドベンチャーについて	
2013		2	森林アドベンチャーについて	
2013		21	馬瀬小と交流	
2013		9	花もち作りについて	
2014	4	27	小学生による運営手伝い	
2014	5	1	森のニンジャオープン	
2014		8	フランス人助っ人の登場	WWOOFer
2014		8	マザーズカフェの構想、もはやマザーズカフェと認識しえ	WWOOFer
2014		9	沢登り下見	

2014		16	鮎放流	
2014		17	マザーズカフェでのレモンタルト作成	WWOOFer
2014		18	WWOOFerによる竿の使いかたの指導	WWOOFer
2014		27	鮎の食性について	
2014		28	マザーズカフェのインターナショナルカフェ	WWOOFer
2014		2	テンカラ指導	Bさん友人
2014		3	テンカラ通訳の終了	
2014		5	沢登り指導	
2014		6	ガイドの日本語練習	
2014		15	フレンチシャンソン講座の告知	WWOOFer
2014		17	小坂の沢登りに出張	
2014		23	HPの英語ver作成	WWOOFer
2014		24	テレビ局の撮影	
2014		25	シャンソン講座	WWOOFer
2014		28	森のニンジャのWWOOFer活躍	WWOOFer
2014		28	WWOOFerによる国際的の交わりの場を持つ	WWOOFer
2014		8	WWOOFerと森のニンジャ拡大	WWOOFer
2014		8	WWOOFerと森のニンジャ拡大	WWOOFer
2014		14	巻き巻きパンの提供	
2014		18	フランス人受入の紹介	WWOOFer
2014		24	プチ留学対抗	
2014		27	アメリカに留学中の学生の様子	
2014		27	川のレスキュー講座	
2014		30	中学生のインターナショナルカフェ開催	WWOOFer
2014		31	中学生のインターナショナルカフェ開催	WWOOFer
2014	8	3	プチ留学の様子	WWOOFer
2014		5	釣りの仕掛け作りをWWOOFerに教える	WWOOFer
2014		8	WWOOFer木工会社の見学	WWOOFer
2014		8	プチ留学の実践	WWOOFer
2014		9	森のニンジャについて	
2014		9	WWOOFer入れ替えによる紹介	WWOOFer
2014		10	逆プチ留学の紹介	WWOOFer
2014		11	台風の倒木によるWWOOFerらの手直し	WWOOFer
2014		14	ボーイスカウトのようす	
2014		16	天気について	
2014		16	てんきについて	
2014		17	天気と増水による危なさ	
2014		18	森のニンジャの様子	
2014		18	沢登りの復活	
2014		19	中学生らによる研修	
2014		22	しみんてい夏合宿	
2014		24	沢のぼりの水量	
2014		25	NHK取材	
2014		26	高齢者の沢のぼりについて	
2014		27	WWOOFerの日本語の勉強懸垂下降訓練	WWOOFer
2014		28	テンカラUSAの滞在	Bさん友人
2014		28	WWOOFerらと懸垂下降	WWOOFer
2014		29	森のアドベンチャーについて	
2014		29	森のアドベンチャーについて	
2014	9	1	プチ留学、大学生向けコース	WWOOFer

2014		5	沢登り体験について	
2014		7	アメリカ人の沢登り	顧客
2014		8	森のニンジャ	WWOOFer
2014		13	懸垂下降の入門	
2014		14	12歳での岩登り	
2014		16	クレープ教室にてWWOOFer紹介	WWOOFer
2014		21	森のニンジャについて	
2014		22	WWOOFerの日本語学習	WWOOFer
2014		27	幼稚園児のZIPLINE	
2014	10	5	森のニンジャについて	
2014		11	森のニンジャについて	
2014		15	キャニオニングの様子	
2014		18	プチ留学可能なお知らせ	WWOOFer
2015	5	17	森のニンジャの紹介	
2015		17	沢のぼりの紹介	
2015		25	上記両者の紹介	
2015	6	4	地元中学生の沢登り、WWOOFerの支援あり	WWOOFer
2015		4	日本文化ふりかけを気に入っている様子の紹介	WWOOFer
2015		4	地元ホームステイ体験の教授	
2015		5	新聞取材	
2015		8	英会話教室の開始	WWOOFer
2015		11	WWOOFerによる周囲草刈り	WWOOFer
2015		12	テンカラ釣りについて	
2015		11	ニセコのスキーインストラクター	
2015		14	地域の花上作業	
2015		16	英会話教室	WWOOFer
2015		17	テンカラUSJとコラボ練習しましょう	
2015		24	WWOOFerによるホスト子育協力	WWOOFer
2015	7	11	WWOOFerによるテンカラ釣りの反応	WWOOFer
2015		11	WWOOFerハウスの整備	WWOOFer
2015		12	マイ箸作り体験	WWOOFer
2015		13	WWOOFerによる訪問先学校での指導	WWOOFer
2015		20	英語プチ留学	WWOOFer
2015		26	沢登りについて	WWOOFer
2015		27	森のニンジャ拡張、WWOOFerと協力	WWOOFer
2015	8	8	いつるの留学プログラム参加	WWOOFer
2015		28	フランス語語学レッスンの開始	WWOOFer
2015		14	アメリカ人夫婦にテンカラ指導	顧客
2015		14	アメリカ人夫婦に沢登り	
2015		30	本での紹介	
2015	10	7	フランスのお菓子作りレッスンの開催	WWOOFer
2015		13	沢登りの様子	
2015		18	修学旅行の受入	
2015		19	森のニンジャ拡大	
2015		27	森のニンジャとランチセットの開拓	
2015		28	下呂市でのチロリアン下降	
2015		31	キャンプ場手伝いのWWOOFerによるミニコミ誌の投稿	WWOOFer
2015	11	3	WWOOFerの誕生日祝い	
2015		4	WWOOFerのグラフィックデザインを活かしロゴ作成	WWOOFer
2015		9	テンカラ釣りの様子	顧客

2016		4	WWOOFerと森のニンジャ拡大の様子	WWOOFer
2016		7	研修生募集について	
2016		8	マウンテンライフ飛騨の宣伝	
2016		10	森のニンジャの宣伝	
2016		10	森のニンジャの宣伝	
2016		13	冬のスキー職について	
2016		14	外国人ビザの緩和について	
2016		16	プチ留学のフランス語受入	WWOOFer
2016		18	研修生受け入れの宣伝	
2016		20	訪日外国人対応としてWWOOFerの活躍	WWOOFer
2016		25	テンカラカナダの来訪	顧客
2016		27	WWOOFerによる看板製作	WWOOFer
2016		31	フランスワインの輸出入に関する新規事業（WWOOFer）	WWOOFer
2016	6	1	アーティストWWOOFerのデザインした倉庫	WWOOFer
2016		2	WWOOFerによる森のニンジャ拡大	WWOOFer
2016		5	沢のぼり開始	
2016		9	WWOOFerによる森のニンジャの紹介	WWOOFer
2016		10	WWOOFerらによる看板製作	WWOOFer
2016		14	アメリカ人のテンカラ観光	顧客
2016		16	WWOOFerによる看板製作	WWOOFer
2016		16	WWOOFerによる沢登りの紹介	WWOOFer
2016		19	WWOOFerらによる看板製作	WWOOFer
2016		25	WWOOFerらによる草刈り、草とり	WWOOFer
2016		25	WWOOFerらによる沢登り宣伝	WWOOFer
2016		28	WWOOFerによる中国語ページの作成	WWOOFer
2016	7	5	WWOOFerによる地元住民の英語発音レッスン	WWOOFer
2016		9	コースの新設について	
2016		13	コースの新設について	
2016		13	WWOOFer提案による地元向け無料コースの提供	WWOOFer
2016		27	プチ留学開始	
2016	8	5	WWOOFerらによる朴葉すし製作	WWOOFer
2016		24	口コミでやってきた訪日外国人	顧客
2016		26	沢登りの様子について	
2016		26	WWOOFerの懸垂下降について	WWOOFer
2016		3	沢登りの様子について	
2016		14	森のニンジャの様子について	
2016		28	WWOOFerによる看板設置	WWOOFer
2016		29	WWOOFerらと小坂出張	WWOOFer
2016		29	インバウンド事業を見据えたモニター参戦WWOOFerが	WWOOFer
2016	10	17	WWOOFerによる森のニンジャガイド	WWOOFer